

コスタリカ国 参加型生物多様性保全推進プロジェクト 終了時評価報告書

平成 30 年 7 月
(2018 年)

独立行政法人国際協力機構
地球環境部

環境
JR
18-048

目 次

目次

プロジェクト位置図

写真

略語表

評価結果要約表

第1章 調査の概要	1
1－1 プロジェクト実施の背景.....	1
1－2 終了時評価の目的.....	1
1－3 調査団構成	1
1－4 調査日程	2
1－5 主要面談者	3
1－6 プロジェクトの概要.....	4
1－7 終了時評価の方法.....	6
第2章 プロジェクトの実績と現状	7
2－1 プロジェクトの実施体制.....	7
2－2 投入	8
2－3 プロジェクト活動の担当及び関係機関.....	10
2－4 成果の達成状況.....	12
2－5 プロジェクト目標の達成見込み.....	19
2－6 上位目標の達成見込み.....	19
2－7 実施プロセス.....	20
第3章 評価5項目による評価	22
3－1 妥当性	22
3－2 有効性	23
3－3 効率性	24
3－4 インパクト	24
3－5 持続性	25
3－6 効果発現に関わる貢献・阻害要因.....	26
3－7 結論	27
第4章 提言・教訓	28
4－1 提言	28
4－1－1 プロジェクト終了時までの提言	28
4－2－2 プロジェクト終了時までの提言	29
4－2 教訓	29

付属資料

1. Minutes of Meeting
2. 終了時評価 評価グリッド(和文)
3. 国際協力専門員所感

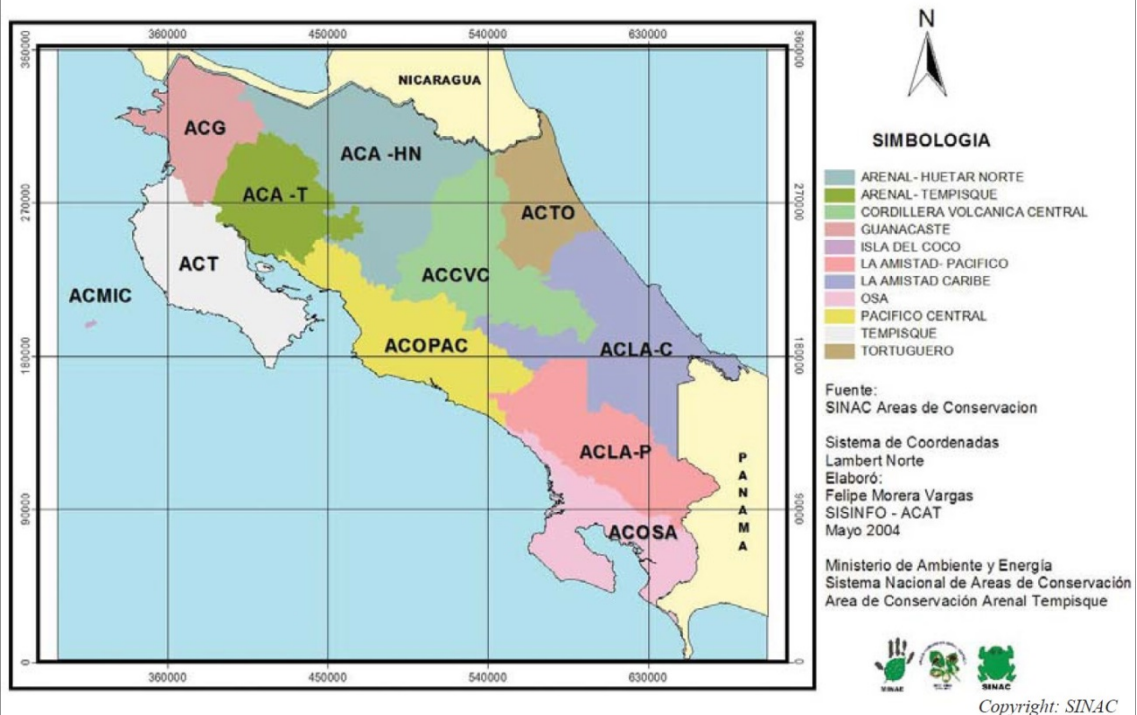
図表目次

図 1	プロジェクトの実施体制.....	7
図 2	プロジェクト活動実施上の関係者・関係機関(中間レビュー時まで)	11
図 3	プロジェクト活動実施上の関係者・関係機関(中間レビュー時以降)	11
表 1	終了時評価調査団の構成.....	2
表 2	調査日程	2
表 3	本プロジェクトの投入(2017 年 9 月時点)	8
表 4	本プロジェクトの本邦研修実績.....	9
表 4	SINAC の担当、関係機関(プロジェクト開始～終了時評価時点)	10
表 6	成果 1～4 の指標の達成状況.....	12
表 7	11 保全地域で体系化整理された事例リスト	15
表 8	保全地域の 21 事例の横断分析の結果(2018 年 10 月時点案)	16
表 7	プロジェクト目標の達成状況.....	19
表 8	上位目標の達成状況.....	20

プロジェクト位置図



SISTEMA NACIONAL DE AREAS DE CONSERVACION



写

真



バラ・デル・コロラドのリンダ・ビスタの
パイロット・サイトの統合農家へ
のインタビュー



ラ・アミスタ・パシフィコ保全地域
情報共有セミナー



プロジェクト連絡員へのインタビュー



終了時評価のM/Mの協議



終了時評価の合同調整委員会（JCC）



終了時評価のM/M署名

略 語 表

略語	英語（スペイン語）	日本語
ACTo	Tortuguero Conservation Area	トルトゥゲーロ保全地域
CONAC	National Council of Conservation Areas (Consejo Nacional de Areas de Conservacion)	国家保全地域審議会
C/P	Counterpart	カウンターパート
CGR	Contraloría General de la República	国家行政監査機関
FONAFIFO	National Fund for Financing Forest (Fondo Nacional de Financiamiento Forestal)	森林融資国家基金
INBio	National Institute of Biodiversity (Instituto Nacional de Biodiversidad)	コスタリカ生物多様性研究所
JCC	Joint Coordinating Committee	合同調整委員会
JICA	Japan International Cooperation Agency	国際協力機構
MIDEPLAN	Ministry of National Planning and Economic Policy	国家計画経済政策省
MINAE	Ministry of Environment and Energy	環境エネルギー省
M/M	Minutes of Meeting	議事録
PCM	Project Cycle Management	プロジェクト・サイクル・マネジメント
PDM	Project Design Matrix	プロジェクト・デザイン・マトリックス
PES (PSA)	Payment for Environmental Service (PSA:Pago por Servicios Ambientales)	環境サービスに対する支払い ※PESはPayment for Ecosystem Service (生態系サービス支払い)が一般的であるが、コスタリカではスペイン語の略称でPSA (環境サービス支払い、Pago por Servicios Ambientales)となっており、本報告書は、PESは「環境支払いサービス」との訳語をあてている。
PO	Plan of Operations	活動計画表
REBACO	Barra del Colorado National Wildlife Reserve (Refugio Nacional Vida Silvestre Barra Del Colorado)	バラ・デル・コロラド野生生物保護区 ※PDM1.0 ではこの記述を用いた

R.N.V.S.B.C.	Barra del Colorado National Wildlife Reserve (Refugio Nacional Vida Silvestre Barra Del Colorado)	バラ・デル・コロラド野生生物保護区 ※PDM2.0からはこの記述を用いた
R/D	Record of Discussions	協議録
SE	Executive Secretariat (Secretaría Ejecutiva)	SINAC本部事務局
SICA	Central American Integration System (Sistema de la Integración Centroamericana)	中米統合機構
CCAD	Central American Commission for Environment and Development (Comisión Centroamericana de Ambiente y Desarrollo)	中米環境開発委員会 (SICAの下部組織)
SINAC	National System of Conservation Areas (Sistema Nacional de Área de Conservación)	国家保全地域庁

終了時評価調査結果要約表

1. 案件の概要	
国名：コスタリカ共和国	案件名：参加型生物多様性保全推進プロジェクト
分野：自然環境保全	援助形態：技術協力プロジェクト
所轄部署：地球環境部	協力金額（終了時評価時点までの実績）：511,877 千円
協力期間： (R/D) 2013 年 4 月～2018 年 3 月 31 日	先方関係機関：環境エネルギー省 国家保全地域庁 他の関連協力：技術協力プロジェクト「コスタリカ バラ・デル・コロラド生物保護区における住民参加型管理プロジェクト」（2008 年 10 月～2011 年 10 月）
1－1 協力の背景と概要 コスタリカ共和国（以下、「コスタリカ」と記す）は、「生物多様性ホットスポット」であるメソアメリカ地域の中でも、生物多様性の保全上、重要な国と位置付けられている。しかし、1940 年に国土の 75%であった森林被覆率は、1987 年には 21%まで減少した。そのため、コスタリカ政府は 1980 年代後半より先駆的な森林保全、生物多様性保全のための政策、活動を実施してきた。その活動の結果、森林面積は 2010 年には 52%程度まで回復するに至っている。 一方、自然保護区の管理体制については、一部の保護区を除くと、人間活動を排除することを前提とした管理モデルが適用されており、実際の管理活動としては、保護区内及び周辺域における違法活動の取り締まりが中心である。そのため、保護区によっては、保護区内・周辺住民と保護区行政担当機関の間に軋轢が生じている。そこで独立行政法人国際協力機構（JICA）は、コスタリカ政府の要請に基づき、2008 年 10 月から 3 年間にわたり、「バラ・デル・コロラド生物保護区住民参加型管理プロジェクト」を実施した。その結果、同プロジェクトは保護区における参加型協働管理の基礎的体制を確立するなどの成果を上げ、対象となったバラ・デル・コロラド生物保護区は、コスタリカで参加型管理が実践されているモデル的な保護区とみなされるようになっている。 コスタリカにおける先駆的な参加型生物多様性保全に係る経験は、国際的に注目を集めているが、このコスタリカの経験や実績については、体系的な整理や検証が十分なされていない。世界、とりわけ中米のメソアメリカホットスポットにおいて効果的な生物多様性保全を進める上で、コスタリカの経験を知識（Knowledge）として有効活用することが内外から期待されている。このような中、コスタリカ環境エネルギー通信省は、生物多様性保全に係る経験を特に中米地域に共有し国際貢献につなげたいとの考えに基づき、本案件をわが国に要請し、2012 年度に本件が採択された。 1－2 協力内容 （1）上位目標 コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが、知識の適切な利用により強化される。	

(2) プロジェクト目標

コスタリカにおける参加型手法の知識 (Knowledge) を共有するメカニズムがコスタリカ国内外で構築される。

(3) 成果

- 1: 野生生物保護区における参加型管理手法がバラ・デル・コロラド野生生物保護区で実施・検証され、それを普及するための経験的な知識が引き出される。
- 2: コスタリカにおける参加型生物多様性保全の知識が体系化される。
- 3: 参加型生物多様性保全の政策とツールが、コスタリカにおいて提案される。
- 4: 参加型生物多様性保全の知識がコスタリカ国内外で共有される。

(4) 投入 (終了時評価時点)

日本側:

- 1) 長期専門家派遣: 5 名 (延べ人数)
- 2) 研修員受入: 58 名
- 3) 機材供与: 約 1,669 万円
- 4) ローカルコスト負担: 約 199 万 US ドル

コスタリカ側:

- 1) カウンターパート (C/P) 配置: 82 名(延べ人数、うち主要 C/P は 43 名)
- 2) プロジェクト事務所: 生物多様性研究所 (INBio) 内の事務所及び必要な整備
- 3) ローカルコスト負担: 69,788.08US ドル

2. 終了時評価調査団の概要

調査団	担当分野	氏名	所属先・職位
	総括	森田 隆博	JICA 地球環境部 次長
	生物多様性保全	長谷川 基裕	JICA 国際協力専門員
	協力企画	稲川 武	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ自然環境第二チーム ジュニア専門員
	評価分析	三島 光恵	OPMAC (株) 取締役 上席コンサルタント

調査期間: 2017 年 9 月 24 日～10 月 12 日

評価種類: 終了時評価

3. 調査結果の概要

3-1 実績の確認

本プロジェクトは、いくつか実施中もしくは今後実施予定の活動が残されているものの、協力期間終了 (2018 年 3 月末) までに活動を完了し、初期の目標はほぼ達成可能と評価した。

(1) 各成果の達成状況

成果 1: 野生生物保護区における参加型管理手法がバラ・デル・コロラド野生生物保護区で実施・検証され、それを普及するための経験的な知識が引き出される。

プロジェクト終了時までには達成される可能性が高い。終了評価時点では、バラ・デル・コ
ロラド野生生物保護区での経験を検証してとりまとめた全国の野生生物保護区参加管理に関
する技術ガイドは作成中であったが、技術ガイド作成のベースとなる各活動の経験をとりま
とめた報告書やマニュアルは既に完成している。

成果 2：コスタリカにおける参加型生物多様性保全の知識が体系化される。

大部分が達成されており、プロジェクト終了時までには達成される可能性が高い。計画され
た 4 つのテーマの報告書（NGO、エコツーリズム、環境への意識改善、生物多様性の保全と
持続可能な生産の経験）、国家保全地域庁（SINAC）創設・発展過程の報告書、参加型生物多
様性保全の経験の事例集は、計画通りに作成されている。21 の参加型経験の横断分析を最終
化する過程にあり、プロジェクト終了時までには完了する見込みである。参加型経験事例の体
系化ガイドラインに組織としての取り組みの実施方針を追加し、このガイドラインや体系化
された経験の各種報告書については、プロジェクト終了前に業務の参照資料として公的承認
することが計画されている。

成果 3：参加型生物多様性保全の政策とツールが、コスタリカにおいて提案される。

大部分が達成されており、プロジェクト終了時までには全て達成される可能性が高い。終了
評価時点で実施中の「SINAC 戦略計画 2016-2026 に基づく市民参加ガバナンスプロジェクト
とマクロプロセス（上位政策）の行動計画」、ゾーニングガイドライン、環境サービスの支払
い（PES）のためのインパクト・モニタリング・システム、参加型環境モニタリングのレポー
トは、プロジェクト終了時までには最終化され、プロジェクト終了前に業務資料として公式に
承認される予定である。

成果 4：参加型生物多様性保全の知識がコスタリカ国内外で共有される。

ほぼ達成されており、プロジェクト終了時のセミナー開催で達成されるとみなされる。本
プロジェクト実施中に開催したコスタリカ国内イベント 19 回、国際イベント 13 回を通じ、
本プロジェクトでまとめた参加型の経験事例を発表し、参加者と共有した。また、参加型多
様性保全の知識は、ソーシャルネットワークキング・システムを通じたコスタリカ内外の関
係者とのコミュニケーション、プロジェクトで作成された報告書の SINAC ウェブサイト上で
の公表により共有されている。

(2) プロジェクト目標の達成見込み

プロジェクト目標：コスタリカにおける参加型手法の知識を共有するメカニズムがコスタリ カ内外で構築される。

終了時評価時点でプロジェクト目標指標のうち、各保全地域で本プロジェクトで集約され
た知識を利用した 1 つ以上の事例があることは概ね達成、50 人以上が参加した海外との知識
交流ネットワークは達成済み、SINAC ホームページでの知識共有については、部分的に達成
していた。他方、中米環境開発委員会（Central American Commission for Environment and
Development：CCAD）等の地域国際機関との知識共有のためのメカニズム構築については、

SINAC 内で知識共有を担当する責任部署あるいは体制が公的に定められておらず、未達成であった。早急に体制構築されれば、プロジェクト終了までに予定通り達成される見込みはある。プロジェクト目標達成のためには、SINAC の中央レベルに体系化した知識をレビューし、どのような知識を共有するかを取り決め、情報技術通信部（IT）を通じてレビュー結果をウェブサイト上に報告するナレッジマネジメント責任部署を設けることが求められる。

（3）上位目標の達成見込み

上位目標：コスタリカ及び中米各国における知識を適切に活用し、参加型生物多様性保全の政策とシステムが強化される。

上位目標達成についてはまだプロジェクト終了後の状況を確認する必要があるが、一例がみえてきている。「SINAC 戦略計画 2016-2026」の下で作成途中の「市民参加・ガバナンス行動計画」では、本プロジェクトの参加型生物多様性保全の経験の体系化を通じた知識が環境教育等についてすでに反映されて作成されつつある。

3-2 評価結果の要約

（1）妥当性

本プロジェクトの妥当性は高い。コスタリカ側の国家開発政策 2015-2018、生物多様性保全政策 2015-2030、SINAC 戦略計画 2016-2026 年において、また、中米環境開発委員会(CCAD)の中米地域環境戦略 2015-2020 における住民参加による生物多様性保全推進の方針に合致するものである。さらに、日本の対コスタリカ ODA 政策の環境分野を中核とした持続的発展支援、コスタリカへの援助を通じた中米周辺国への裨益を目指す方針とも合致している。コスタリカの野生生物保護区等では人々が居住して生産活動を行っており、生物多様性保全の推進には住民参加が不可欠で、そうした取り組みの前例がいくつかあった。それらの過去の経験を参照しやすく体系的にとりまとめて国内外で適用していくニーズがあった。

（2）有効性

本プロジェクトは、SINAC の各保全地域事務所職員をターゲットとした住民参加型経験の情報の体系化、およびその情報の SINAC 内外での共有について有効であった。一方、SINAC 本部事務局で上位目標の政策や制度の強化に向け、SINAC の参加型生物多様性保全の経験の体系化とその知識の共有を推進する担当主体が不在のままとなっている。中間レビュー時に市民参加ガバナンス部が担当することが期待されたが、同部の業務所掌の詳細が制定途中で、プロジェクト活動への参加が比較的限られたものとなったことと、体系化した知識のユーザーが誰なのかが明確に定義されておらず、知識の体系化の活動主体は専ら地域事務所職員に焦点があてられていたことに起因する。SINAC 中央レベルにおいて知識の共有とオペレーションへのフィードバックメカニズムを構築するよう、本部事務局レベルの体制強化が必要である。

（3）効率性

地域レベルでの活動については、プロジェクト連絡員とともに行った投入、活動、成果ま

での効率性は中程度であった。一方、SINAC 本部事務局で知識の集約を行う活動については人員の投入不足等があり、活動は限定的となった。本プロジェクト活動の一部遅延の要因は、プロジェクトのデザインにおいて住民参加のアプローチの多様性をすべて考慮し、非常に多くの活動を設定し、多様な投入を要したことが一因と考えられる。プロジェクト実施の効率性を高めるためには、プロジェクト目標や上位目標との関連で、途中で最重要課題に注視して活動を絞ることもできたのではないかとみられる。

(4) インパクト

本プロジェクトの成果が市民参加ガバナンス行動計画案策定に反映されつつあるが、その他のインパクトとして、バラ・デル・コロラドにおいて農牧省や教育省などの関係機関と協力して本プロジェクトで実施した住民参加型管理を通じ、それら関係機関の対象地域での業務活動の発展につながっていること、またバラ・デル・コロラドで作成した数々のマニュアル・資料は他ドナープロジェクトによって参照され、中米他国にも普及しつつあること、等があげられる。

(5) 持続性

終了時評価時における持続性の見込みは、中程度とみられる。政策・制度面では、現行の政策の継続性は見込まれる。組織面では中央事務局での市民参加ガバナンス部の体制にやや懸念はあるものの、技術面においては、バラ・デル・コロラドの住民参加の取り組みの継続や類似状況の地域への経験の普及がみられ、各保全地域事務所における経験の体系化への取り組みや予算獲得の努力があり、体系化作業の予算獲得は見込まれる。

3-3 効果発現に係る貢献・阻害要因

(1) 貢献要因

1) 計画内容に関すること

特になし

2) 実施プロセスに関すること

- ・ SINAC の過去の経験の情報の体系化において、地方自治体等の多くの関係組織を巻き込んで参加型で行ったことで、国内のさまざまな組織の関係者の知見の共有と関係強化につながっている。

(2) 阻害要因

1) 計画内容に関すること

以下の点がプロジェクト実施の効率性を阻害する要因となった。

- ・ 本プロジェクトで目指される参加型生物多様性の「知識」や「体系化」の範囲が絞られなかったため、活動が拡散し投入要素が非常に多くなった。
- ・ プロジェクト目標・成果・活動の論理的なつながりに不明確な点があった。

2) 実施プロセスに関すること

- ・ SINAC 本部事務局がナレッジマネジメントを担当する体制を重視して、設置の検討が早期になされなかったため、プロジェクト目標の達成に遅延が生じた。

3-4 結論

プロジェクト終了時までには保全地域での住民参加経験のナレッジマネジメントを担当する体制が SINAC 本部事務局で構築されれば、プロジェクトは全体として高い評価に値する。本プロジェクトは、コスタリカの各保全地域の経験・情報を体系化し、その結果の知見を関係者と共有することができたという点において、効果の高いものであった。一方、その知見を今後の政策立案や生物多様性保全の参加型管理のあり方へフィードバックするためには、プロジェクト終了時までには、保全地域での経験のナレッジマネジメントを推進する責任部署を SINAC 本部事務局で設けることが不可欠である。

3-5 提言

プロジェクト終了時までの提言

(1) ナレッジマネジメント責任部署の制定

SINAC 本部事務局にナレッジマネジメント担当部署を制定すべきである。一案として SINAC 本部の技術ダイレクターを長とし、市民参加・ガバナンス部長と各職員、生物多様性の保全と持続的な利用と生態系サービス部長と各職員、地域技術ディレクター、市民参加・ガバナンス連絡担当者および関連職員を支援チームとしたナレッジマネジメント担当体制を提案する。

(2) 本プロジェクトの成果品の公的承認

本プロジェクトの成果品のうち、SINAC 業務上重要とみられる国家野生生物保護区の参加型管理マニュアル、SINAC における生物多様性保全のための参加型管理の体系化マニュアルやガイドライン、ゾーニングマニュアルなど 10 種類のマニュアル、ガイドライン、報告書につき、組織として公的承認を行うことが推奨される。

(3) SINAC 本部事務局職員、地域保全事務所ディレクター、その他関係者を対象とする最終セミナー

本プロジェクトの全成果を共有すべく、①SINAC 本部事務局と保全地域職員を対象に最終セミナー開催、②公的、学術、民間セクター（NGO など）を対象としたプロジェクト終了イベント、③国家保全地域審議会での発表、を提案する。

プロジェクト終了後の提言

(1) 経験の体系化の業務サイクルの継続的实施

共有メカニズムのために制定された SINAC 本部事務局の担当部署が、体系化された知識を維持するために、経験の体系化を通常の業務サイクルの一環として継続的に実施していくことが望まれる。

(2) プロジェクト活動を継続するための予算の確保

SINAC が参加型管理の経験の体系化活動、参加型環境モニタリング活動等の本プロジェクト活動の予算支援を継続することが望まれる。

(3) 参加型生物多様性保全の経験やデータの共有に向けた国際機関との協力の継続と発展

本プロジェクトを通じて構築された生物多様性条約などの事務局、CCAD、GIZ などの他ドナー組織とのネットワークがプロジェクト終了後も継続して強化されるべきである。

3-6 教訓

(1) 参加型生物多様性保全の経験の体系化プロセスの効果

参加型の経験の体系化作業そのものが気づきを促し、SINAC 職員自身の業務活動の改善や日々の業務に対する意欲の向上に貢献し、有用である。

(2) プロジェクト開始初期におけるプロジェクト・アプローチの概念の明確化

本プロジェクトでは、プロジェクト目標の参加型生物多様性保全の「知識」および「体系化」の対象範囲を絞っていなかったために、プロジェクト活動が拡散して非常に多くなり、投入、活動、成果、プロジェクト目標の論理的な関連性がみえにくいものとなった。プロジェクト開始早期の段階において「知識の利用の目的はなにか」、「誰を知識のターゲットユーザーとするか」、「どのようなタイプあるいは状況の保護区を対象とするか」等を定義し、プロジェクト・アプローチの概念を明確化した上で、プロジェクト・デザインを適宜見直すことがより効率的なプロジェクト実施において重要である。

Summary of Terminal Evaluation Results

1. Outline of Project	
Country: Republic of Costa Rica	Project Title: Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation
Issue/Sector: Natural Environment Conservation	Type of Assistance: Technical Cooperation Project
Department in charge: Global Environment Dep.	Total Cost (Actual by the time of Terminal Evaluation): 511,877 thousand Yen
Cooperation Period: (R/D) April 2013–March 31, 2018	Partner Country's Implementing Organization: Ministry of Environment and Energy, National System of Conservation Areas
	Related Cooperation: Technical Cooperation Project "Participatory Management Project in National Refugio Barra Del Colorado" (2008.10–2011.10)
1-1 Background of the Project Republic of Costa Rica (hereinafter "Costa Rica") is considered as an important country in terms of biodiversity conservation in Mesoamerican region where is known as "Hot Spot of Biodiversity". Forest coverage ratio, which was 75% of total country in 1940, was decreased to 21% by 1987. Because of this situation, Costa Rica has implemented policies and activities for advanced forest and biodiversity conservation since the latter half of the 1980's. As a result of those efforts, forest area recovered to approximately 52% of total land by 2010. On the other hand, with respect to management system of nature Conservation Areas, a model on the premise of excluding human activities was applied, except for a part of Conservation Areas. Thus, actual management activities focused on controlling illegal activities within and surrounding of Conservation Areas. Due to this, depending on Conservation Area, there was conflict between local residents within and around Conservation Area and governmental agency in charge of administration Conservation Areas. In this situation, based upon the request by the Costa Rican government, Japan International Cooperation Agency (JICA) conducted "Project for Participatory Management of the Barra del Colorado National Wildlife Refuge" for three years from October, 2008. As a result, the project brought outcomes such as establishing basic system of participatory management and project target area of Barra del Colorado National Wildlife Refuge is deemed as a kind of model Conservation Area where participatory management is implemented. Experiences on advanced participatory biodiversity conservation in Costa Rica have been attracting attention internationally; however, those experiences and outcomes are not always organized systematically and examined sufficiently. In the world, especially in order to promote effective biodiversity conservation in Mesoamerican hot spot in central America, it is expected to utilize experiences in Costa Rica effectively as knowledge inside and outside of Costa Rica. In this situation, Ministry of Environment, Energy, and Telecommunication requested this project to the Japanese government based on concept that experiences on biodiversity conservation are to be shared especially in Central America, ultimately leading to international contribution. The project was adopted by the Japanese government in Japanese Fiscal Year 2012.	
1-2 Project Overview (1) Overall Goal The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of knowledge in Costa Rica and Central American countries. (2) Project Purpose A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica. (3) Outputs: 1: Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination.	

- 2: Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.
- 3: Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.
- 4: Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica

(4) Inputs (as of the Terminal Evaluation)

Japanese side:

- 1) Long-term experts: 5 (total persons/ times)
- 2) Trainees received in Japan: 58
- 3) Equipment: Approx. 16.69 million yen
- 4) Local Cost: Approx. 1.99 million US dollars

Costa Rican side:

- 1) Assignment of Counterpart: 82 (total persons/times. Of which, main counterparts 43)
- 2) Project Office: office in National Institute of Biodiversity (INBio) and its facilities
- 3) Local Cost: 69,788.08 US dollars

2. Outline of the Terminal Evaluation Team

Terminal Evaluation Team	Job Title	Name	Occupation
	Leader	Mr. Takahiro Morita	Group Director for Forestry and Nature Conservation, Global Environment Department, JICA
	Biodiversity Conservation	Dr. Motohiro Hasegawa	Senior Advisor, JICA
	Cooperation Planning	Mr. Takeshi Inagawa	Associate Expert Natural Environment Team 2, Forestry and Nature Conservation Group Global Environment Department, JICA
	Evaluation & Analysis	Ms. Mitsue Mishima	Executive Director and Principal Consultant, OPMAC Corporation

Period of Evaluation: 24 September to 12 October, 2017

Type of Evaluation: Terminal Evaluation

3. Summary of Mid-term Review Results

3-1 Achievement of the Project

Although there are some remaining activities in implementation or to be implemented hereafter, those activities can be completed by the end of the cooperation period (end of March, 2018) and it can be judged that the project purpose can be achieved.

(1) Achievement of Outputs

Output 1: Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C. (Barra del Colorado National Wild Refuge), and empirical knowledge is extracted for dissemination.

Output 1 is likely to be achieved by the time of the Project completion. The Technical Guide of Participatory Management of the National Wildlife Refuge based on verified experienced of R.N.V.S.B.C. is still being drafted at the time of terminal evaluation; however, reports and manuals that are basis for the Technical Guide were completed.

Output 2: Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.

Output 2 is mostly achieved and likely to be achieved by the end of the Project. Planned 4 thematical reports, report on SINAC (NGO, Ecotourism, Improvement of Environment Consciousness, Experiences of Sustainable Production and Compatibility with the Conservation of Biodiversity) establishment and development process, and reports on participatory biodiversity conservation experiences are already completed as planned. Cross analysis report on total 21 cases of participatory experiences is in the process of finalization and expected to be completed by the end of the Project

completion. Organization policy to conduct systematization of participatory experience cases will be added in its Guideline, and this Guideline and other reports on systematized experiences are planned to be officially approved as operation references before the Project completion.

Output 3: Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.

Output 3 is mostly achieved and likely to be completed by the end of the Project. “Action Plan of Citizen’s Participation and Governance Project and Macro Process based on Strategic Plan SINAC 2016-2026”, zoning guideline, an impact monitoring system for payment for environment services (PES), and report on participatory monitoring service are planned to be finalized and officially approved as operation references before the Project completion.

Output 4: Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.

Output 4 is almost achieved and likely to be achieved by final seminar upon project completion. Through 19 national events in Costa Rica and 13 international events, participatory experience cases compiled by the Project were presented and shared with participants. Further, knowledge on participatory biodiversity conservation is also shared through communication with stakeholders in and outside of Costa Rica through social network and SINAC website publication of the reports produced by the Project

(2) Prospect for achieving Project Purpose

Project Purpose: A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica.

At the time of evaluation at the completion, as for indicators of project purpose, one and more cases that utilized the knowledge compiled by the project is almost achieved and knowledge exchange overseas network was achieved. Also, knowledge sharing on SINAC homepage was partly achieved. On the other hand, knowledge sharing through regional international organizations such as Central American Commission for Environment and Development (CCAD) was not achieved since the responsible entity or system was not officially designated, If such entity or system is established soon, it is likely to be achieved as planned by the end of the Project. In order to achieve the purpose of Project, the responsible entity within SINAC executive secretary for the knowledge management must be designated with a view to reviewing the knowledge and making decisions in regards as to what knowledge to be shared, and requesting the Department of Information, Technology and Communication (IT) of SINAC to upload the results on the website.

(3) Prospect for achieving Overall Goal

Overall goal: The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.

As for the achievement of overall goal, it is necessary to examine the situation after project completion; however, one case is observed. Knowledge through systematization by the Project about participatory biodiversity conservation experience is being reflected on environment education and others, in “Action Plan of Citizen’s Participation and Governance” under the “SINAC Strategic Plan 2016-2026”.

3-2 Summary of Evaluation Results

(1) Relevance

The Project is highly relevant to the development policy and plan of Costa Rica and the Japanese ODA policy. It is consistent with national development plan of Costa Rica 2015-2018, Policy on Biodiversity Conservation 2015-2030, SINAC Strategic Plan 2016–2026, and also relevant to a policy on biodiversity conservation by local residents’ participation in “2015-2020 Framework Regional Environmental Strategy” by Central American Commission for Environment and Development (CCAD). Further, the Project is consistent with Japan’s ODA policy of supporting for sustainable development focusing on the environment and promoting assistance to the Central American region through bilateral assistance for Costa Rica. In national wild life reserve and others protected areas in Costa Rica, where local people live and conduct production activities, it is indispensable to have their participation in order to promote biodiversity. Since some precedent cases exist and there was a need for compiling such experiences through systematizing such experiences and then applying them to inside and outside of the country

(2) Effectiveness

The Project has been effective for the target group of SINAC officers at the regional level for systemizing and sharing information of local residents' participatory experiences within and outside of SINAC. On the other hand, the responsible entity of the systematizing participatory biodiversity conservation experiences and sharing the "knowledge" at the SINAC Executive Secretary (SE) has been absent toward overall goal of strengthening the policy and system. This is attributed to the following facts. At the time of Mid-term review, Citizen's Participation and Governance Department was expected to take this responsibility; however, their participation in the Project activities has been relatively limited amid establishing the job jurisdiction of this department. In addition, target user of the systematized knowledge was not clearly defined, and main entity of systematization activities primarily is focused on regional officers. Responsible entity at SINAC SE should be strengthened in order to establish the mechanism to share and feedback of the knowledge to the operation at central level of SINAC.

(3) Efficiency

The efficiency of the Project is fair in terms of inputs, activities and outputs produced with SINAC's project liaisons officers. On the other hand, activities to consolidate the knowledge at SINAC SE were limited due to lack of personnel assigned for this task and others. One of the reasons for delay in a part of the Project activities is due to set too many activities considering all diversity of participatory approach and then to require various inputs. In order to enhance the efficiency of the project implementation, project activities can be more selected during the implementation, focusing the most important issues in relation to project purpose and overall goal

(4) Impact

While outputs of the Project are being reflected on Citizen's Participation and Governance Action Plan, other impacts are identified. Those are development of activities of related organization such as Agricultural and Livestock and Ministry of Public Education in the area which cooperated participatory management in Barra del Colorado, various manual and documents produced in Barra del Colorado is referred by other donor projects and disseminated in other Central American countries and so on.

(5) Sustainability

Prospective for Sustainability of the Project is moderate at the time of the Terminal Evaluation. In policy and institutional aspects, continuity of current policy can be expected for a while. In organizational aspect, there are some concerns on the setting of Citizen's Participation and Governance, however, in technical aspect; it is observed that sustainability of efforts for participatory biodiversity conservation in Barra del Colorado and dissemination of their experiences to other similar region. It is expected efforts to continue systematization of the participatory experiences and to obtain the budget for that at each conservation area regional office.

3-3 Factors that promoted/inhibited realization of effects

(1) Promoting factors

- 1) Factors concerning Planning
 - Nothing in particular

- 2) Factors concerning Implementation Process

- Process of systematizing the information on SINAC's experiences in the past involved many stakeholders such as local government organizations in participatory approach. This leads to information sharing and strengthening relationship among stakeholders of various organizations in the country.

(2) Inhibiting factors

- 1) Factors concerning Planning

Following factors impeded the efficiency of the Project implementation;

- Scope of "knowledge" and "systematization" envisaged by the project was not narrowed down,

thus the project activities expanded to be many issues.

- There are uncertain points in logical relationship between the Project Purpose and the Outputs

2) Factors concerning Implementation Process

- Entity in charge of knowledge management at SINAC SE was not emphasized and it was not discussed to be established at early timing of the Project, therefore there was some delay in achievement of project purpose.

3-4 Conclusion

The Project is evaluated to be satisfactory as a whole, if responsible entity in SINAC SE for knowledge management of participatory experiences in conservation area by the Project completion. The Project is highly effective in terms of systematizing experiences and information in each conservation area in Costa Rica and sharing the knowledge extracted as its result with stakeholders. In order to feedback the knowledge to policy formation and participatory management of biodiversity conservation in the future, however, it is indispensable, to establish the responsible entity at SINAC SE to promote knowledge management of experiences in conservation areas by the Project completion.

3-5 Recommendations

For the Remaining Period of the Project Implementation

(1) Designation of the Responsible Entity for Knowledge management

It is recommended to designate responsible entity of knowledge management at SINAC SE. As a tentative idea, it is proposed to have a responsibility entity which has technical director of SINAC SE as a leader and support team of comprising chief and staff of Department of Citizen Participation and Governance, chief and staff of Department of Conservation and Sustainable Use of the Biodiversity and Ecosystem Service, and regional technical directors, Citizen's Participation and Governance liaison officers and other related staff.

(2) Official Approval on the Documents Produced by the Project

Among all project outputs, it is recommended that 10 manuals, guidelines, and reports which are considered as important reference in operation of SINAC will be officially approved as the organization. Those are Manual of Participatory Management of National Wildlife Refuge, Manual and Guideline for Systematization of Participatory Management in the Conservation of Biodiversity in the National System of the Conservation Areas, Zoning Manuals and others.

(3) Final Seminar targeting Executive Secretary Members Regional Directors and other Instances.

For sharing the all project results, it is proposed to conduct :1) final seminar targeting officials of the Executive Secretariat and the Conservation Areas, 2) project closure event targeting public, academic, and private sector (NGOs and others), and 3) presentation to CONAC.

For after the Project Completion

(1) Continuing the Operation Cycle Conservation Area of the Systematization of the Experiences

It is desirable that designated authority at SINAC SE for the mechanism to share the systemized "knowledge" will continue the systematization of the experience as the operation cycle.

(2) Ensuring the Budget for Continuing the Project Activities

It is expected that SINAC will continue to support for the Project activities such as systematization of participatory management experiences, participatory monitoring activities, and others.

(3) Continuing and Developing Cooperation with International Organizations for Sharing Participatory Biodiversity Conservation Experiences and Data

It is recommended to strengthen continuously the network developed through the Project with Convention on Biological Diversity office (CBD), CCAD, and other donor organizations such as GIZ, after the Project completion.

3-6 Lessons Learned

(1) Effect of the Systematization Process for the Participatory Biodiversity Conservation Experiences

It was useful the systematization process itself of participatory experiences to enhance awareness of the SINAC staff themselves who were involved in the process for improving their activities and promoting their initiatives of daily works.

(2) Clarification on Project Approach Concept at Initial Stage of the Project

The Project did not select the scope of coverage of “knowledge” and “systematization” of participatory biodiversity conservation in project purpose, thus the project activities expanded and became so many, and this made it difficult to understand the logical relationship of inputs, activities, outputs and project purpose. At the initial stage of project commencement, it was important for more efficient project implementation to clarify the project approach concept by defining “what is the objective of use of knowledge”, “who are target users of the knowledge” “what type or situation of protected area will be examined”, etc., and then to revise the project design.

第1章 調査の概要

1-1 プロジェクト実施の背景

コスタリカ共和国（以下、「コスタリカ」と記す）は、「生物多様性ホットスポット」であるメソアメリカ地域の中でも、生物多様性の保全上、重要な国と位置付けられている。しかし、1940年に国土の75%であった森林被覆率は、1987年には21%まで減少した。そのため、1980年代後半より先駆的な森林保全、生物多様性保全のための政策、活動を実施してきた。その活動の結果、森林面積は2010年には52%程度まで回復するに至っている。

一方、自然保護区の管理体制については、一部の保護区を除くと、人間活動を排除することを前提とした管理モデルが適用されており、実際の管理活動としては、保護区内及び周辺域における違法活動の取り締まりが中心である。そのため、保護区によっては、保護区内・周辺住民と保護区行政担当機関の間に軋轢が生じている。そこで独立行政法人国際協力機構（Japan International Cooperation Agency：JICA）は、コスタリカ政府の要請に基づき、2008年10月から3年間にわたり、「バラ・デル・コロラド野生生物保護区（Refugio Nacional Vida Silvestre Barra del Colorado：R.N.V.S.B.C.）（以下、スペイン語の略語で記す）住民参加型管理プロジェクトを実施した。その結果、同プロジェクトは保護区における参加型協働管理の基礎的体制を確立するなどの成果を上げ、対象となった R.N.V.S.B.C.は、コスタリカで参加型管理が実践されているモデル的な保護区とみなされるようになっていく。

コスタリカにおける先駆的な参加型生物多様性保全に係る経験は、国際的に注目を集めているが、このコスタリカの経験や実績については、体系的な整理や検証が十分なされていない。世界、とりわけ中米のメソアメリカホットスポットにおいて効果的な生物多様性保全を進める上で、コスタリカの経験を知識（Knowledge）として有効活用することが内外から期待されている。このような中、コスタリカ環境エネルギー通信省は、生物多様性保全に係る経験を特に中米地域に共有し国際貢献につなげたいとの考えに基づき、本案件をわが国に要請し、2012年度に本件が採択された。

なお、生物多様性保全は JICA の自然環境保全協力の中の重点の1つであり、コスタリカを中心とする中米はその重点地域となっており、本プロジェクトは中米における生物多様性保全の中心的案件となっている。

1-2 終了時評価の目的

2018年3月終了予定の約6カ月前のタイミングにて、2015年10月～11月に実施された中間レビューの結果も踏まえつつ、その後のプロジェクトの進捗を確認するとともに、DAC5 項目評価分析を行い、プロジェクト終了までに実施すべき事項及びプロジェクト終了後にコスタリカ側で実施すべき事項を関係者で合意することを目的としていた。評価結果は、合同調整委員会（JCC：Joint Coordinating Committee）において内容を報告し、合意を得た。

1-3 調査団構成

調査団の構成は以下の通りである。

表 1 終了時評価調査団の構成

日本側

担当分野	氏名	所属先・職位
総括	森田 隆博	JICA 地球環境部 審議役・次長
生物多様性保全	長谷川 基裕	JICA 国際協力専門員
協力計画	稲川 武	JICA 地球環境部 森林・自然環境グループ自然環境第二チーム ジュニア専門員
評価分析	三島 光恵	OPMAC 株式会社 取締役・上席コンサルタント

コスタリカ側

担当分野	氏名	所属先・職位
評価者	Ms. Karina Li	International Cooperation Direction, Ministry of National Planning and Economic Policy (MIDEPLAN)
同上	Ms. Saskia Rodriguez	Technical and Financial Cooperation Department, National System of Conservation Areas (SINAC)
同上	Ms. Fabiola Arguedas	IDB Tourism Project, SINAC

1-4 調査日程

コスタリカにおける中間レビュー調査は 2017 年 9 月 24 日から 10 月 12 日の期間で実施された。詳細スケジュールは以下の通りである。

表 2 調査日程

日付		活動内容
9/24	日	三島氏(評価分析コンサルタント)到着
9/25	月	JICA コスタリカ支所と日本人専門家チームとの打合せ
		国家保全地域庁(SINAC)プロジェクト・マネージャーおよび終了時評価者へブリーフィング
		SINAC 生物多様性保全と持続的可能な利用・生態系サービス部(CUSBSE)部長および職員インタビュー
9/26	火	SINAC プロジェクトマネージャーインタビュー
		SINAC 市民参加ガバナンス部(PCG)生物回廊担当インタビュー
		SINAC 技術局長インタビュー
9/27	水	SINAC 市民参加ガバナンス部(PCG)職員インタビュー
		SINAC PCG 部長インタビュー

日付		活動内容
9/28	木	トルトゥゲーロ保全地域 (ACTo) 事務所所長、保護区担当ダイレクター、職員、農牧省、教育省関係者インタビュー
9/29	金	バラ・デル・コロラド リンダ・ビスタ サイト調査(参加環境モニタリング、エコツーリズム関連活動を実施している統合農家の協会 (ASOLVI) へインタビュー)
9/30	土	協議議事録(MM) 準備(評価結果報告書)
10/1	日	同上、団長以外の官団員到着
10/2	月	JICA コスタリカ支所および日本人専門家チームとのミーティング
		日本人専門家チームとの打ち合わせ
		団長到着
10/3	火	SINAC 長官インタビュー
		環境エネルギー省副大臣表敬
10/4	水	ラ・アミスタ・パシフィカ保全地域 (ACLAP) 情報共有セミナー視察
10/5	木	ココ島海洋保全地域 (ACMIC)、グアナカステ保全地域 (ACG)、オサ保全地域 (ACOSA) プロジェクト連絡員インタビュー
10/6	金	M/M 修正
10/7	土	M/M 最終化
10/8	日	バラ・デル・コロラド リンダ・ビスタ サイト視察(団長のみ)、M/M 最終化
10/9	月	M/M 会合
10/10	火	M/M 会合
10/11	水	JCC: M/M の署名
10/12	木	サンホセ発(三島のみ、官団員は)、在コスタリカ 日本国大使館報告
10/13	金	移動(三島)
10/14	土	本邦着(三島)、サンホセ発(官団員)
10/15	日	移動(官団員)
10/16	月	本邦着(官団員)

1-5 主要面談者

環境エネルギー省

Ms. Patricia Cordero、環境担当副大臣

国家保全地域庁 (SINAC)

Mr. Mario Coto Hidalgo、長官

Mr. Luis Rojas Bolaños、プロジェクトマネージャー

【生物多様性保全と持続可能な利用、生態系サービス部 (CUSBSE) 】

Ms. Zyda Trejos、部長

職員：Ms. Sonia Lobo (PSA システム担当)、Ms. Jenny Asch Corrales(ゾーニングガイドライン担当)、
Mr. Carlos Mario Orrego Y. (参加型環境モニタリング担当)

【市民参加ガバナンス部 (PCG)】

Mr. Fernando Quiroz、部長

職員：Mr. Jairo Sancho Rodriguez (生物回廊担当)、Ms. Cecilia Montero (ボランティア担当)、Mr. Adolfo Sanchez(環境教育、原住民担当)、Ms. Cindy Sanchez (戦略的提携担当)

【ACTo 事務所】

Ms. Laura Rivera、フィールドコーディネーター、ACTo 所長

職員：Mr. Sebastian Bonila(参加型環境モニタリング担当)、Ms. Lorelly Soto (コミュニティモニタリング担当)、 Ms. Andrea Cruz(環境教育担当)

(R.N.V.S.B.C の活動における関係機関)

Ms. Yerlin Sancho Acuña、教育学・科学担当、教育省

Mr. Gabriel Mora、農牧省

JICA コスタリカ支所

半谷良三 所長

黒川正子 企画調査員

余川達郎 企画調査員

張朝英 ナショナルスタッフ

JICA 専門家チーム

大澤正喜 チーフアドバイザー

秋元陽子 業務調整／リサーチ・セミナー調整

菊地格夫 業務調整／参加型保護区管理

本田渉 業務調整／生物多様性保全

在サンホセ日本大使館

伊藤嘉章 特命全権大使

木村泰次郎 参事官

1-6 プロジェクトの概要

本プロジェクトのプロジェクト・デザイン・マトリックス (Project Design Matrix : PDM) は詳細計画時に作成し、討議議事録 (Record of Discussion : R/D) で合意された PDM Ver.1.0 (2013 年 1 月作成) から、2013 年 12 月の JCC で合意された PDM Ver.1.1 へと修正された。その後、2015 年 10 月～11 月の中間レビュー時点で、PDM Ver. 2 への修正提案がなされ、中間レビュー以降、Ver.2 に沿ってプロジェクトが実施されていた。PDM Ver. 2 は付属資料 1 の M/M Annex 2 の通りである。

上位目標

コスタリカ及び中米各国における知識を適切に活用し、参加型生物多様性保全の政策とシステムが強化される。

プロジェクト目標

コスタリカにおける参加型手法の知識を共有するメカニズムがコスタリカ内外で構築される。

成果

1. 野生生物保護区における参加型管理手法が、バラ・デル・コロラド野生生物保護区¹で実施・検証され、それを普及するための経験的な知識が引き出される。
2. コスタリカにおける参加型生物多様性保全の知識が体系化される。
3. 参加型生物多様性保全の政策とツールが、コスタリカにおいて提案される。
4. 参加型生物多様性保全の知識がコスタリカ国内外で共有される。

活動

- 1-1 地方評議会や管理計画といった既存のメカニズムを活用して参加型アプローチを促進する。
- 1-2 バラ・デル・コロラド野生生物保護区における参加型マネージメントの意識を向上する。
- 1-3 地方評議会や管理計画といった既存のメカニズムを活用して参加型アプローチを促進する。
- 1-4 バラ・デル・コロラド野生生物保護区での経験に基づいた野生生物保護区の参加型生物多様性保全ガイドラインを作成する。
- 2-1 調査諮問委員会を設立する。
- 2-2 コスタリカの経験を体系化するためのテーマを調査諮問委員会のアドバイスの下、確定する。
- 2-3 調査を実施する。
- 2-4 調査結果を体系化する。
- 3-1 SINAC に新設される市民参加ガバナンスのユニットを強化する。
- 3-2 参加型生物多様性の政策やツールの改善につながる活動を実施する。
- 4-1 コスタリカ国内でセミナーやワークショップを実施する。
- 4-2 SINAC の HP やその他関係のあるプラットフォームに、プレゼンテーション資料や、ガイドライン、レポートなどを掲載する。
- 4-3 コスタリカや中米諸国の参加型生物多様性保全に関わる人々のネットワークを構築する。

¹ 中間レビューまでは、バラ・デル・コロラド野生生物保護区は「REBACO」と記述していたが、中間レビューで、SINAC 側から、同保護区の略称は R.N.V.S.B.C. が公式なものと指摘されたため、中間レビュー以降、基本的に R.N.V.S.B.C. の略称で統一した。

4-4 プロジェクトの実施でまとめられた知識を CCAD（中米統合機構 中米環境・開発委員会）に提供する。

4-5 国際的なイベントに参加し、国際的なセミナーやワークショップを開催する。

1-7 終了時評価の方法

本調査は、『JICA 事業評価ガイドライン』に基づいて、以下の手順によって実施した。

- (1) 最新の PDM Ver. 2 と PO その他関連書類に示されるプロジェクトの計画の進捗と達成状況の検証
- (2) プロジェクト実施プロセスを検証し、進捗を阻害あるいは貢献した要因の特定
- (3) 評価 5 項目によるプロジェクトの分析
- (4) プロジェクトの残りの期間におけるプロジェクトの改善事項にかかる提言の作成

本調査においては、下記の手法により定量的及び定性的なデータ・情報の収集を行った。

- プロジェクトで作成された報告書及び関連文書のレビュー
- 日本人専門家、SINAC の各担当分野の主要 C/P 及び関係者への質問票調査及びインタビュー

プロジェクトの分析に用いた評価 5 項目とその視点は以下の通りである。

(1) 妥当性

プロジェクト目標及び上位目標は、コスタリカの開発政策及び開発ニーズ、中米地域政策、日本の対コスタリカ援助政策に合致するものであったか。

(2) 有効性

中間レビュー調査時点における成果の達成状況から見て、プロジェクト目標はプロジェクト終了時点までに達成見込みはあるか。

(3) 効率性

計画された成果の達成状況と日本側及びコスタリカ側の投入の量、質、タイミングに鑑みて、投入は成果に効率的に転換されているか。

(4) インパクト

プロジェクトの成果として、プロジェクトの意図する正のインパクトである上位目標の達成見込みはあるか。また、それ以外に、プロジェクトによる直接的・間接的な正負のインパクトはあるか。

(5) 持続性

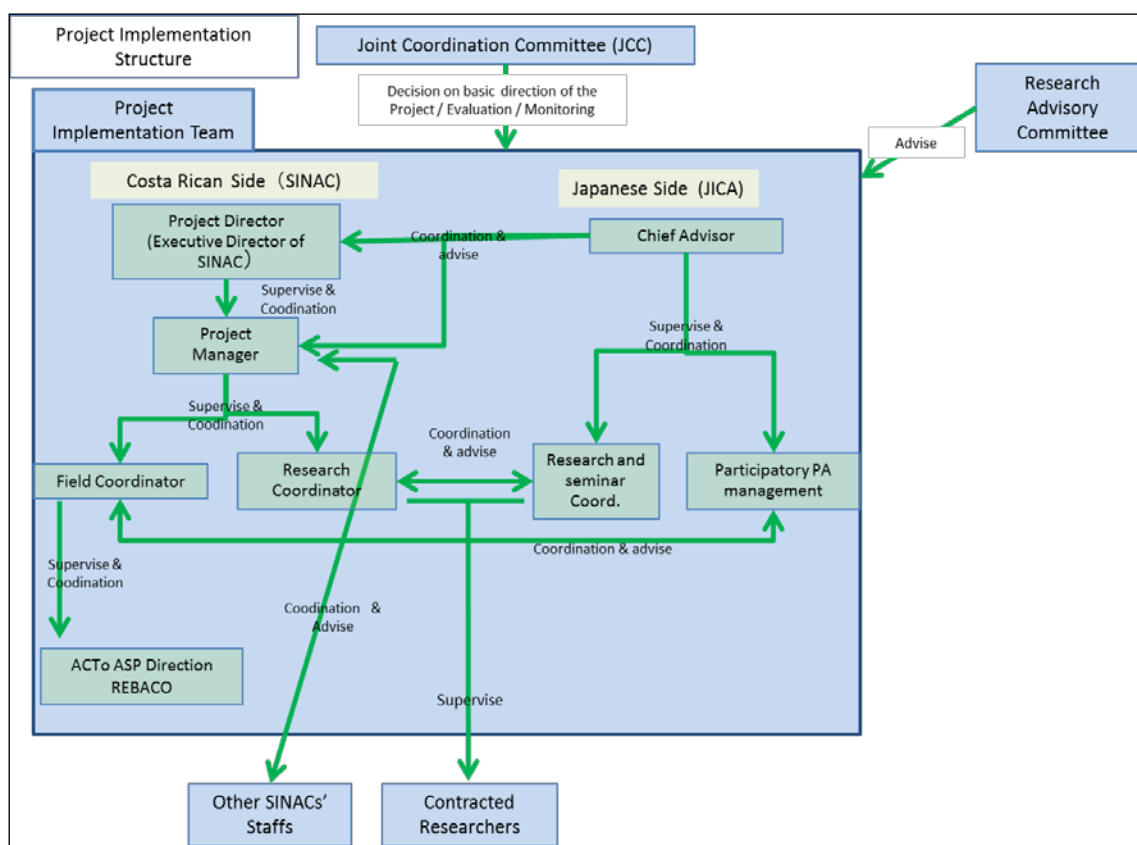
制度、組織、財務、及び技術的観点から、プロジェクト終了後にプロジェクトの正の効果及び便益は持続するか。

第2章 プロジェクトの実績と現状

2-1 プロジェクトの実施体制

本プロジェクトは、R/D で合意された通り、図1に示した体制で中間レビューまで実施された。コスタリカ側は、SINAC を主要 C/P 機関として、日本側は日本長期専門家がプロジェクト実施を支援し、調査や研修については、ローカルコンサルタントを雇用して実施し、調査テーマの検討や調査内容の精査は、調査諮問委員会（Research Advisory Committee）が行う体制で実施されてきた。中間レビュー以降、調査諮問委員会はなくなり、また、中間レビュー時にはすでに不在となっていたコスタリカ側のリサーチ・コーディネーターはその後も配置されなかった（経緯の詳細は「2-7 実施プロセス」にて後述）。

プロジェクト活動の方針の決定とモニタリング評価は、コスタリカ側と日本側の代表からなる JCC により行われた。



出所：Annex 3、Record of Discussions on “Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation” in Republic of Costa Rica（2013年2月4日）

図1 プロジェクトの実施体制

2-2 投入

本プロジェクトの中間レビュー時点までの投入実績は、表3の通りである。

表3 本プロジェクトの投入（2017年9月時点）

日本側	コスタリカ側
- 長期専門家派遣：交代した人員も含め、延べ5名 -チーフアドバイザー：1名 -業務調整/多様性保全：1名 -業務調整/参加型保護区管理：1名 -業務調整/リサーチ・セミナー調整：2名(途中交代によるもの) - 短期専門家派遣：3名 -業務調整/リサーチ・セミナー調整：1名(途中交代の次の担当派遣までの短期派遣) -国立公園管理に関する研修講師：2名 - 本邦研修：58名(2013年度3名、2014年度17名、2015年度19名、2016年19名) - 機材供与：車両、トラップカメラ、双眼鏡、コンピューター、プロジェクター等に約1,669.1万円(2017年9月のJICA交換レート 1USドル=108.976円で計算) - 活動費用(在外事業強化費)：約199万USドル(2017年8月末まで)	- C/P配置：交代した人員を含め、延べ82名がプロジェクト活動に参加し、うち主要なC/Pは43名。 -プロジェクト・ダイレクター(SINAC 長官)3名(途中2回交代) -プロジェクト・マネージャー：1名 -フィールドコーディネーター(ACTo 所長)：1名 -リサーチ・コーディネーター：1名(2015年2月まで) -プロジェクト調整員：16名(交代人員含む) -参加型モニタリング担当職員：23名(同上、本部事務局人員含む) -ACTo 事務所、バラ・デル・コラド野生動物保護区のプロジェクト活動関連職員：15名(交代人員含む) -市民参加ガバナンス部職員：6名(交代人員含む) - その他、SINAC 本部事務局職員等 - コスタリカ生物多様性研究所(INBio)にプロジェクト・オフィスと設備の提供 - ローカルコスト：69,788.08USドル*(2017年6月時点) *中間レビュー時の数字より低くなっているが、プロジェクト開始時から2017年6月までをまとめた数字として、最終的にSINAC 側から提出されたもの。なおM/Mでは、C/Pの人件費も含めた合計を記載してほしいとの先方から強い要望があり、合計約433万USドルとなっている。

出所：プロジェクト資料

(1) 日本側

日本人専門家の長期専門家は交代人員も含めて5名、分野はチーフアドバイザー、リサーチ・セミナー調整、参加型保護区管理の担当が配置され、2017年3月以降に新たに生物多様性保全の専門家がプロジェクト・オフィスに配置された。チーフアドバイザー及び成果2～4の活動を担当するリサーチ・セミナー調整担当は、INBioの事務所に、参加型保護区管理の担当は、主に成果1の活動を担当し、R.N.V.S.B.Cの活動を担当するACTo事務所に配置されている。

なお、詳細計画策定時においては、必要に応じ、参加型環境モニタリング、湿地の賢明な利用、保護区管理とゾーニング、地理情報システム(Geographic Information System : GIS)等の分野に短期専門家を派遣する記述があったが、実績としては派遣されていない。これらの分野については、表5の中に示すように本邦研修のテーマとして取り上げられて実施された。2013年～2016年度まで、SINAC および関係機関の職員合計58名が本邦研修に参加した。

表4 本プロジェクトの本邦研修実績

年度	No.	研修名	期間	参加者数
2013	1	C/P training on 1st Asia Parks Congress (第一回アジア公園会議 C/Pトレーニング)	11月11日～23日	3
2014	1	Conservation and Sustainable Use of Biodiversity to the Wetland Ecosystems on Community Base (湿地帯生態系の生物多様性のコミュニティベースの持続的利用と保全)	5月18日～6月7日	2
	2	Extension Methodologies of Organic Agricultural Techniques for Small Scale Farmers for Central America and Caribbean Countries (中米とカリブ海諸国の小規模農家向けオーガニック農業技術の方法の普及)	6月22日～10月4日	1
	3	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation (生物多様性保全の環境教育技術の向上)	9月23日～10月14日	2
	4	Protected Areas' System in Japan and Zoning (日本の保護地域システムとゾーニング)	11月22日～12月9日	10
	5	Sustainable Natural Resource Management through Collaborative Management of Protected Areas (保護地域の協同管理を通じた持続的な自然資源管理)	1月25日～2月14日	2
2015	1	Sustainable Use of Wetland Resources for Local Benefit (地域の利益のための持続可能な湿原管理)	5月19日～6月8日	1
	2	GIS and Remote Sensing utilized for Biodiversity Information System and Participatory Approach toward Biodiversity Conservation Actions (生物多様性情報システムに利用されるGISとリモートセンシングと生物多様性保全行動に向けての参加型アプローチ)	6月1日～8月7日	1
	3	Regional Development by Sustainable Use of Biodiversity (生物多様性の持続的利用による地域開発)	6月28日～7月25日	1
	4	Eco-tourism for Sustainable Use of Natural and Cultural Resources(A) (自然資源と文化資源の持続的可能な利用のためのエコツーリズム)	7月21日～9月1日	1
	5	Sustainable Natural Resource Management through Collaborative Management of Protected Areas (保護地域の協同管理を通じた持続可能な自然資源管理)	8月25日～9月25日	1
	6	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation (生物多様性保全のための環境教育技術の向上)	8月31日～10月3日	1
	7	Participatory Environmental Monitoring (参加型環境モニタリング)	6月14日～30日	13
2016	1	Participatory Biodiversity Conservation (参加型生物多様性保全)	5月29日～6月18日	15
	2	Ecosystem Conservation through the Collaborative Management of Protected Areas (保護地域の協同管理を通じた生態系保全)	10月31日～12月3日	1
	3	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation (生物多様性保全のための環境教育技術の向上)	9月19日～10月22日	3
*オープンコースへの参加			合計	58

機材については、プロジェクト活動に必要な車両、コンピューター、プロジェクター、コピー機、トラップカメラ、双眼鏡などが投入された。

プロジェクトの活動費用として、ワークショップ実施支援や調査研修を委託するローカルコンサルタント雇用、セミナー・ワークショップ実施費用、旅費、広報費用などに約 126 万 US ドル

の費用が投入された。

(2) コスタリカ側

コスタリカ側の人員の投入は、プロジェクト開始当初は計画通りに配置されたが、中間レビュー前に職員が異動し、後任不在であったリサーチ・コーディネーターについては、その後も配置されなかった。中間レビュー時に不在であった R.N.V.S.B.C の環境教育・参加型環境モニタリング担当は、終了時評価時点には配置されていた。

コスタリカ側の C/P は交代人員も含めると、主に SINAC 職員や関係機関から延べ 82 名がプロジェクト活動に参加した。終了時評価時点における主な C/P 人数は、43 名である。

プロジェクト活動に必要なプロジェクト・オフィス及び設備は INBio の中に提供された。また、車両維持費、プロジェクト・オフィス維持費、旅費などプロジェクトに必要な活動費約 7 万 US ドルが投入された。

2-3 プロジェクト活動の担当及び関係機関

プロジェクト活動の実施においては、SINAC の担当を中心に各関係機関やプロジェクト内外の委員会にも働きかけて実施されてきた。各成果に関する活動について、SINAC 内の担当、関係機関を整理すると下表の通りである。調査諮問委員会は中間レビュー以降活動がなくなり、リサーチ・コーディネーターも配置されなかった。

表5 SINAC の担当、関係機関(プロジェクト開始～終了時評価時点)

プロジェクトの成果	SINAC の担当	委員会/関係機関
1. 野生生物保護区における参加型管理手法がバラ・デル・コロラド野生生物保護区 ² で実施・検証され、それを普及するための経験的な知識が引き出される。	・ 参加型管理コーディネーター (= ACTo 事務所所長) ・ バラ・デル・コロラド野生生物保護区担当の C/P	・ 調査諮問委員会(中間レビュー時点まで) ・ 地方委員会
2. コスタリカにおける参加型生物多様性保全の知識が体系化される。	・ プロジェクト・マネージャー ・ リサーチ・コーディネーター(2015 年 2 月まで) ・ 各保全地域のプロジェクト連絡員	・ 調査諮問委員会(中間レビュー時点まで) ・ 地域審議会 ・ 地方委員会など
3. 参加型生物多様性保全の政策とツールが、コスタリカにおいて提案される。	・ プロジェクト・ダイレクター ・ プロジェクト・マネージャー ・ リサーチ・コーディネーター(2015 年 2 月まで) ・ 本部事務局 PES 担当 C/P ・ ゾーニング担当 C/P ・ 野生生物保護区委員会 C/P(中間レビュー時点まで)	・ 国家保全地域委員会 (以下の期間は中間レビュー時点まで) ・ 調査諮問委員会 ・ FONAFIFO ・ 国家法務局(PGR) ・ 国家行政監査機関(CGR)
4. 参加型生物多様性保全の知識がコスタリカ国内外で共有される。	・ プロジェクト・マネージャー ・ リサーチ・コーディネーター(2015 年 2 月まで)等	・ 調査諮問委員会(中間レビュー時点まで)

出所：評価分析担当者作成。イタリック部分は途中まで関係していた機関。

² 中間レビューまでは、バラ・デル・コロラド野生生物保護区は「REBACO」と記述していたが、中間レビューで、SINAC 側から、同保護区の略称は R.N.V.S.B.C. が公式なものと指摘されたため、中間レビュー以降、基本的に R.N.V.S.B.C. の略称で統一した。

プロジェクト活動実施に関与している全関係者について、コスタリカ国内の中央、地方、村落・住民組織レベルで整理し、また、国外への知識の普及の対象となる中米各国と中米地域機関との関係について、下図に整理した。中間レビュー時までは、図2に示す通り調査諮問委員会の関連機関が参加していたが、中間レビュー以降は、図3に示す通り、調査諮問委員会はなくなった。

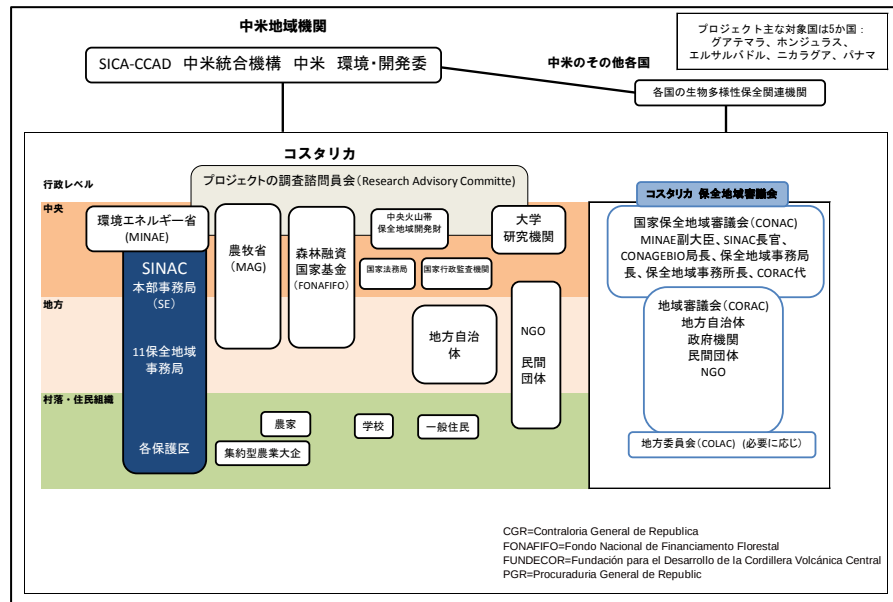


図2 プロジェクト活動実施上の関係者・関係機関(中間レビュー時まで)

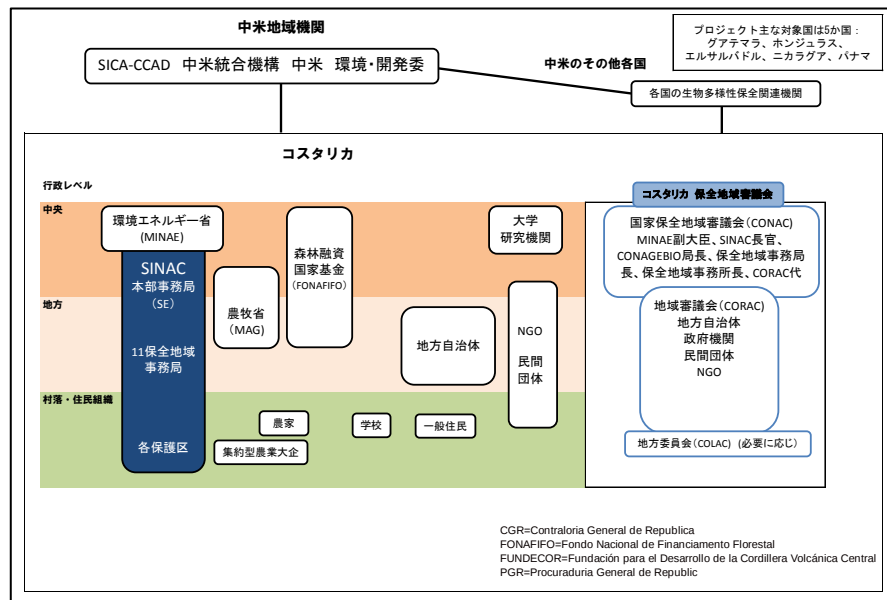


図3 プロジェクト活動実施上の関係者・関係機関(中間レビュー時以降)

したがって、同委員会メンバーに含まれていた中央火山帯保全地域開発財団や農牧省の本省については、中間レビュー時ほどには活動に関与していない。中間レビュー時までにプロジェクトにおいてどのような調査を行うかの検討がほとんど終了し、調査諮問委員会の活動目的が不明瞭となっていたため、中間レビュー時に委員会の活動の目的を再検討し、継続するか否かを決定す

ることを提言していた。その結果として、同委員会の継続の必要性がないと判断され、その後委員会は開催されなくなった。また、ゾーニングガイドライン案等の作成過程で関与があった国家法務局、国家行政監査機関についても同様で、中間レビュー時以降においては、密接な関与の必要性がなくなった。大学研究機関については、本プロジェクトの各調査報告書やマニュアル等の発注先のローカルコンサルタントとしての関与は続いている。

2-4 成果の達成状況

2017年9月時点の本プロジェクトの成果1～4の指標の達成状況は下表の通りである。

表5 成果1～4の指標の達成状況

2017年10月時点

成果1：野生生物保護区における参加型管理手法がバラ・デル・コロラド野生生物保護区で実施・検証され、それを普及するための経験的な知識が引き出される。	
指標 1-1：バラ・デル・コロラド野生生物保護区の経験に基づいた、野生生物保護区参加型生物多様性保全のガイドラインが公表される。	概ね達成*：バラ・デル・コロラドの経験を検証してとりまとめた技術ガイドを作成予定、ACTo 事務所の章別に各活動担当が執筆を担当、2017年10月上旬にドラフトをとりまとめ、2017年12月までに最終化される計画である。バラ・デル・コロラドで実施・検証されものをまとめた下記の各種マニュアルや報告書はすでに印刷物となっている。 - “Manual of Good Agricultural and Environmental Practices for Rice Cultivation in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica” - “Manual of Good Environmental Practices for livestock production in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica” - “Manual of Good Agricultural and Environmental Practices for the cultivation of oil palm in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica” - “Technical guide for the diffusion of Technologies of sustainable agricultural production in integral farms” - “Experiences in Rural Community Development and Environmental Education in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge” 加えて、地域住民の参加のもと作成したバラ・デル・コロラド野生動物保護区の管理計画は完成し、2017年9月に CONAC に承認を受けている。 以上内容は、技術ガイドのベースとなる内容であり、野生保護区内に住民がいる場合等、状況が類似する他の保全地域に参考となる一例である。
成果2：コスタリカにおける参加型生物多様性保全の知識が体系化される。	
指標 2.1：コスタリカにおいて作成した下記のレポートが分析され、SINAC のイニシアティブで参加型生物多様性保全のハンドブックとして実証的な知識を集約する。 - SINACの経験に関する12の報告書（保全地域の報告書11＋SINAC本部の事務局の報告書1） - 生物多様性法の策定経験も含め、SINAC創設および発展過程についての報告書 - 4つのテーマの報告書	概ね達成：以下の調査報告書が作成済あるいはドラフト段階でプロジェクト完了までに完了する予定である。 ● SINACの経験を各保全地域でまとめた21の報告書（11の保全地域の経験）がすでに印刷されている。また本部事務局の市民参加ガバナンス部生態コリドー担当が全国の生態コリドーにおける経験の体系化の報告書をまとめつつあり、プロジェクト終了時までに完了予定である。 ● 上記の21のケースをもとに関係者とワークショップを行い、参加型生物多様性の横断分析報告書ドラフトがまとめられている。プロジェクト終了までに最終化予定である。 ● 生物多様性法策定も含む、SINACの創設と発展過程についての1報告書 ● 2015年に2つのテーマ（NGO、エコツーリズム）に関する報告書を作成済み。 ● 2016年に2つのテーマ（環境に関する意識の改善、生物多様性の保全と持続可能な生産の経験）に関する報告書作成。

指標 2.2 : SINAC が参加型生物多様性保全の経験の体系化のガイドラインおよび公的に認められた方法論を有する。	部分的に達成* : 参加型生物多様性保全の経験の体系化の方法を記述したガイドラインは、作成されている。しかし、本ガイドラインには、中間レビュー時に内容に含めるべきと提案された組織としての方針や体系化した経験の横断分析の頻度等の記述が含まれていない。このガイドラインについては、SINACあるいはCONACの承認を得る予定である。
成果 3 : 参加型生物多様性保全の政策とツールが、コスタリカにおいて提案される。	
指標 3.1 : 参加型生物多様性保全に関する 1 政策、4 ツール以上が提案される。	概ね達成 : 政策、法令改訂、モニタリングシステム等、以下の 5 項目に関してプロジェクトとして取り組まれ、提案されている。 ● SINAC 参加型生物多様性推進の政策と組織戦略案は既に作成され、2015 年 3 月に SINAC の上層部に提出した。現在は、「SINAC 戦略計画 2015-2026」のもとで市民参加ガバナンス部が主体的に参加型行動計画を準備中である。 ● 「野生生物保護法」第 82 条改定案は野生保護区内の活動権限拡大の承認を得るため既に作成されているが、2014 年以降の環境大臣のイニシアティブによる森林法などの一連の関連法案の改正の方が優先されて作業が行われることとなり、この改訂案の承認は 2014 年に止まったままである。 ● 保護区におけるゾーニングガイドライン案の策定は、ほとんど作成されており、2017 年 12 月までに最終化する予定である。2018 年 2 月に CONAC の承認を得る予定である。 ● 参加型環境モニタリングについてコスタリカにおけるトラップカメラを利用した基本データ収集についての報告書は、コンサルタントによってまとめられた。11 の各保全地域内で継続的に参加型モニタリングを実施中である。現在、ジャガーに関するデータが研究者から提供され、11 保全地域の 25 カ所の調査地域の 175 カ所の参加型モニタリング・サイトにより収集したデータと統合され、分析されてその結果は報告書としてまとめられる予定である。その結果は、コスタリカにおけるジャガーの保護政策に反映される予定である。 ● PES のインパクト・モニタリング・システム : 2015 年 10 月にシステムデザインのプロポーザルが提案されたが、その後見直しが必要になり、システム開発が遅延した。2017 年 10 月にシステム開発のためのコンサルタントが調達され、2018 年にシステムが完成する予定である。
成果 4 : 参加型生物多様性保全に関する知識が国内外で共有される。	
指標 4-1 : コスタリカにおいて、プロジェクトによって集約された参加型生物多様性保全の知識共有のために 12 のイベントが開催される。	達成* : 本プロジェクトはコスタリカ国内において 19 のイベントを開催した。
指標 4-2 : プロジェクトにおいて、20 以上の報告書、ガイドライン、プレゼンテーション資料が SINAC のウェブサイト公表される。	達成 : SINAC のウェブサイト http://www.sinac.go.cr/ES/particiudygober/Paginas/default.aspx (2017 年 10 月時点)にてプロジェクト成果物の 23 の報告書がすでにアップロードされ、公表されている。
指標 4.3 : コスタリカ国内および中米各国との参加型生物多様性保全の知識共有のネットワークが設立される。	達成 : フェイスブックにおけるネットワークが設立されている。このネットワークは、公的に承認、支援された持続的なネットワークとなることが望まれる。 本プロジェクトでは、「生物多様性保全の参加型管理の体系化 (SISTEMATIZANDO LA GESTIÓN PARTICIPATIVA DE LA CONSERVACIÓN DE LA BIODIVERSIDAD)」というネットワークを 2014 年 10 月以来設定。本プロジェクトの C/P、コスタリカや他国の国家、地域、地方レベルの政府機関職員、NGO、研究者、その他がグループに参加し、情報・意見交換を行っている。合計 143 名の参加者が確認されている (2017 年 9 月 12 日時点)
指標 4.4 : コスタリカの参加型生	達成 : 2016 年、2017 年 CCAD の会合で、コスタリカの参加型生物多様性管

物多様性保全の経験が CCAD に 2 回以上共有される。	理の経験について発表した。 また、その他にも、2014 年の 2014 年 3 月「参加型保護区管理メソアメリカセミナー」、2015 年 2 月「Wetlands for our future : Join us! 地域セミナー」。2017 年 9 月の日本で開催した SICA セミナーにおいても本プロジェクトの経験を発表した。
指標 4.5: コスタリカの参加型生物多様性保全の知識が国際イベントやセミナーで 10 回以上紹介される。	達成: 11 回の国際セミナーと地域セミナーを実施し、コスタリカの経験が紹介された。
指標 4.6: コスタリカ開催の国内・国際イベント／セミナーの内容をアンケート回答者の 80%以上が理解している。	達成: 平均で全アンケート回答者の 90.2%がイベントあるいはセミナーの内容を理解したと回答した。

注*: 「達成」はすでに達成した指標であるとみなされる評価。「概ね達成」は、計画どおり活動が進められており、そのまま活動が進められればプロジェクト終了までに達成見込みがあることを指す。「部分的達成」とは、計画されるべき活動であったが終了時評価時点で取り組まれておらず、プロジェクト終了時までの活動計画にも入ってなかった部分がある状況を指す。

(1) 成果 1

全国の野生生物保護区住民参加型管理を実施する際の参照資料として、R.N.V.S.B.C.での経験に基づいた技術ガイドは作成中である。技術ガイド作成のベースとなる表 6 の成果指標 1.1 の達成状況に示した報告書やマニュアルは完成しているため、プロジェクト終了時までに成果 1 は達成される可能性が高い。

R.N.V.S.B.C.において、参加型生物多様性保全の集大成としての技術ガイドの作成以前に、R.N.V.S.B.C の効果的な参加型管理の経験を実証し、とりまとめたものはすでに出版され、SINAC ウェブサイトに公表されている。それらの資料は、ヤシ油、稲作、持続可能な家畜、統合的農家での持続的な農業生産技術の普及のための技術ガイド、R.N.V.S.B.C での農村コミュニティ開発、環境教育の経験と参加型モニタリングに関する資料である。これらはすでに国内外で参照されている。

また、地元関係者が参加して作成された R.N.V.S.B.C の 2017 年-2027 年の管理計画は、2017 年 9 月に国家保全地域評議会 (CONAC) によって更新され承認された。地元住民が参加して策定した管理計画も同様に野生生物保護区内に住民がいる場合などの他地域の参照の一例となる。

(2) 成果 2

成果 2 は大部分が達成されており、プロジェクト終了時まで達成される見込みである。調査報告書と体系化された参加型生物多様性保全の事例集は、計画通りに作成された。具体的には表 7 に示される体系的に整理された経験の 21 事例(グッドプラクティス集)については横断分析を行い、7 つのテーマ (1.原住民、2. 国家自然遺産 (野生動物保護区を含む) における保全管理の民間委託と自然資源利用許可、3. 地方政府との調整、4. 環境教育、5. 土地管理、6. 水資源管理、7. 財・サービス利用) をもとにキーイシューを整理し、参照する事例を紹介している。同報告書の最終化は、プロジェクト終了時までに完了する見込みである。参加型生物多様性保全の経験を体系的に情報整理するためのガイドライン (スペイン語では「lineamiento」) が作成され、参加型の経験を体系化する能力を備えた各保全地域事務所職員が育成された。一方 SINAC 本

部事務局（Secretaría Ejecutiva：SE）では、こうした体系化作業を継続・推進し、知識を共有するための責任部署を定めておらず、本部事務局で各地域の経験を横断分析した上で体系化する職員の育成は十分に進んでおらず、今後の課題となる。組織としての取り組みを明確にするために、ガイドラインの中に参加型の経験事例と事例の横断分析の更新についての方針も加える必要がある。

上記の点を含め、プロジェクト活動の持続発展性を担保するには、各種ガイドライン等プロジェクト成果報告書がプロジェクト終了前に業務の参照資料として公的に承認される必要があり、その承認作業に向けた活動が計画されている。

表6 11 保全地域で体系化整理された事例リスト

No.	事例タイトル	保全地域、活動組織	住民参加の内容
1.	カーニョ・ネグロ国家混合野生生物保護区の管理計画の実施への住民参加プロセス Proceso de Participación en la Actualización del Plan de Manejo del Refugio Nacional de Vida Silvestre Mixto de Caño Negro	アレナル・ウエタルノルテ保全地域（ACAHN）	野生生物保護区管理計画実施への住民参加
2.	サンタエレナ森林保護区の体系化事業 Proyecto de Sistematización Reserva Bosque Nuboso Santa Elena	アレナル・テンピスケ保全地域（ACAT）	森林保護区の住民運営委員会への保全管理委託
3.	タピリア野生生物保護区の制定とサービスの運営に関する住民参加プロセス Proceso Participativo de Creación del Refugio Nacional de Vida Silvestre Tapiria y la operación de servicios no esenciales	コルディレラ中央火山帯保全地域（ACCV）	野生生物保護区制定時の住民参加
4.	カバグラ原住民地における 住民アジェンダの経験 Experiencia de la Agenda Indígena en el Territorio Indígena Cabagra	ラ・アミスタ・パシフィコ保全地域（ACLAP）	国際公園の原住民地における住民参加型管理
5.	チリボ国立公園のサービス委託 Concesión de Servicios No Esenciales en el Parque Nacional Chirripó	コルディレラ中央火山保全地域（ACCV）	国立公園サービスの住民への委託
6.	海山管理の海洋保全地域管理計画 Plan de Manejo del Área Marina de Manejo Montes Submarinos	ココ島海洋保全地域（ACMIC）	海洋保全地域の管理計画への住民参加
7.	モンテ・アルト森林保護区基金の 住民参加管理の経験 Experiencia de Manejo Participativo de Fundación Pro Reserva Forestal Monte Alto	テンピスケ保全地域（ACT）	森林保護区基金を通じた住民参加型管理
8.	オスシオナル野生生物保護区の卵の利用 (1983-2015) Aprovechamiento de Huevos en el Refugio de Vida Silvestre Ostional (1983-2015)	テンピスケ保全地域（ACT）	野生生物保護区における住民への資源利用権付与
9.	バラ・デル・コロラド野生生物保護区における参加型管理の経験 Experiencia de Manejo Participativo en el Refugio de Vida Silvestre Barra del Colorado	トルトゥゲーロ保全地域（ACTo）	野生生物保護区における住民参加型管理
10.	カフイタ国立公園の協同管理プロセス Proceso de Co-manejo del Parque Nacional Cahuita	ラ・アミスタ・カリブ保全地域（ACLAC）	国立公園の協同管理プロセス
11.	グアナカステ保全地域生物教育プログラム Programa de Educación Biológica – Área de Conservación Guanacaste	グアナカステ保全地域（ACG）	保全地域における生物環境教育プログラム（PEB）
12.	アレナル・テンピスケ保全地域の 参加型環境教育プロセス Proceso de Educación Ambiental Participativa del Área de Conservación Arenal Tempisque, CREA-ACAT	アレナル・テンピスケ保全地域（ACAT）	地域環境教育委員会（CREA）との湿地帯の環境教育

13.	シエリペ ラムサール条約サイトのテラバ湿地帯の水に関する環境教育プログラム Programa Educación Ambiental en el Agua en Humedal Térraba – Sierpe Sitio Ramsar	オサ保全地域 (ACOSA)	ラムサール条約登録湿地における環境教育プログラム
14.	カーニョ・ネグロ ウリマ協会トルトゥーガ ヴエルデ・デ・アグア・デウルセの統合管理 Manejo Integrado de la Tortuga Verde de Agua Dulce, Asociación ULIMA – Caño Negro	アレナル・ウエタルノルデ保全地域 (ACAHN)	野生生物保護区における住民協会を通じた環境教育や地方審議会との連携
15.	シミリニャック原住民コミュニティにおけるテペスキントレス*の管理と保護 Manejo y Conservación de Tepezcuintles en la Comunidad Indígena Simiriñak *総称「バカ」と呼ばれるネズミ目の動物	オサ保全地域 (ACOSA)	原住民保護区における住民の動物保護
16.	「ラ・モンタニータの再生」コミュニティプロジェクト Proyecto Comunitario “El renacer de la naciente La Montañita”	コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC) サバニーリャ・デ・ラ・アラフエラ水道運営管理協会 (ASADA)	住民コミュニティの水道運営協会による国立公園の環境保全活動
17.	パソ・アンチョとボケロン水道運営管理協会 (ASADA) の経験 Experiencia de la ASADA de Paso Ancho y Boquerón	コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)	住民コミュニティの水道運営協会による国立公園の水資源管理活動
18.	ゴルフ・ドゥルセ森林保護区における農村開発 Desarrollo Rural en la Reserva Forestal Golfo Dulce	オサ保全地域 (ACOSA) ランチョ・ケイマード総合開発協会(ADI)	森林保護区の住民参加による農村開発
19.	地方政府の環境管理プログラムへの参加プロセス Proceso Participativo Programa de Gestión Ambiental Municipal	コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)	地方政府の環境管理プログラムへの住民参加
20.	サヴエグレ川流域の持続的開発 Desarrollo Sostenible de la Cuenca Hidrográfica del Río Savegre	セントラルパシフィック保全地域 (ACOPAC)	流域の持続的開発への住民参加
21.	タラマンカ・カリブ生物回廊の経験 Experiencia del Corredor Biológico Talamanca Caribe	ラ・アミスタ・カリベ保全地域 (ACLAC) アナイ協会 (ANAI)	生物回廊保全における住民参加

出所：各事例タイトルを抽出して作成

表 7 保全地域の 21 事例の横断分析の結果 (2018 年 10 月時点案)

章(テーマ)	キーイシュー	事例の保全地域
1. 住民	1.1 継続と信頼	ラ・アミスタ・パシフィコ保全地域(ACLAP) コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)
	1.2 伝統・文化・コンテキストの理解	
	1.3 住民の権利と法的枠組み	コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)
	1.4 地域機関の強化	ラ・アミスタ・パシフィコ保全地域(ACLAP)
	1.5 制度としてのチームワーク	コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)
	1.6 自然資源と文化を利用し、生產品の多様化と収益性追求	ラ・アミスタ・パシフィコ保全地域(ACLAP)
2. 国家自然遺産（野生動物保護区を含む）における保全管理の民間委託と自然資源利用許可	2.1 活動しているアクターの関与の重要性	アレナル・テンビスケ保全地域 (ACAT)
	2.2 地方のアクターの権限付与	
	2.3 生物多様性の保全と改善	アレナル・ウエタルノルデ保全地域 (ACAHN)
	2.4 管理モニタリングにおける SINAC の役割	アレナル・ウエタルノルデ保全地域 (ACAHN)
	2.5 マルチセクターと機関間の協同ワークの重要性	ラ・アミスタ・パシフィコ保全地域 (ACLAP) コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)
3. 地方政府との調整	3.1 政治的サイクルと人事異動	コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)

	3.2 地方政府の環境マネジメントプロセスの適切化	
	3.3 姿勢の変化.	
	3.4 周辺の機会の利用	
	3.5 機関間の委員会	
	3.6 方法論の基準化	
	3.7 経済的資源	
	3.8 能力強化	
4.環境教育	4.1 環境教育プロセスの資金供与	グアナカステ保全地域 (ACG)
	4.2 機関間と分野間の調整	アレナル・テンピスケ保全地域 (ACAT)
	4.3 法、協定、規定によりサポートされた環境教育の視覚化	オサ保全地域 (ACOSA)
	4.4 対象グループに焦点をあてる努力	グアナカステ保全地域 (ACG)
	4.5 プロセスの持続可能性	グアナカステ保全地域 (ACG) アレナル・テンピスケ保全地域 (ACAT) オサ保全地域 (ACOSA)
	4.6 自然とのコンタクト	グアナカステ保全地域 (ACG) アレナル・テンピスケ保全地域 (ACAT) オサ保全地域 (ACOSA)
	4.7 安全性を通じた信頼	グアナカステ保全地域 (ACG)
	4.8 反映の継続	オサ保全地域 (ACOSA) アレナル・テンピスケ保全地域 (ACAT)
	4.9 能力強化の余地を醸成	オサ保全地域 (ACOSA)
	4.10 地域のコンテキストと実現性の分析	オサ保全地域 (ACOSA) アレナル・テンピスケ保全地域 (ACAT)
5.土地管理	5.1 ジェンダーや政府機関を含め、参加の動機づけをしながらのアクターの巻き込み	セントラルパシフィック保全地域 (ACOPAC)
	5.2 より密接な関与を達成する知識マネジメントとプロセス発展への機会の特定で様々なアクターとの連携	トルトゥゲーロ保全地域 (ACTo) セントラルパシフィック保全地域 (ACOPAC)
	5.3 資源戦略と利用の提携	セントラルパシフィック保全地域 (ACOPAC) テンピスケ保全地域 (ACT)
	5.4 キャパシティビルディングとプロセスのエンパワメント	テンピスケ保全地域 (ACT) ラ・アミスタ・カリブ保全地域 (ACLAC)
	5.5 参加計画	テンピスケ保全地域 (ACT) セントラルパシフィック保全地域 (ACOPAC)
6.水資源管理	6.1 総合的視点、周辺の知識	コルディレラ中央火山保全地域 (ACCVC)
	6.2 重要なテーマとしての水	
	6.3 参加の場の提供	
	6.4 持続可能性を保証する能力開発	
	6.5 SINAC の役割	
7.財・サービス利用	7.1 関係者間の団結が強ければ、常時良い変化	テンピスケ保全地域 (ACT) オサ保全地域 (ACOSA)
	7.2 プロセスにおけるアクターのコミットメント	テンピスケ保全地域 (ACT) オサ保全地域 (ACOSA)
	7.3 土地利用計画は生物多様性保全のツール	テンピスケ保全地域 (ACT) アレナル・ウエタルノルテ保全地域 (ACAHN) ラ・アミスタ・カリブ保全地域 (ACLAC) オサ保全地域 (ACOSA)
	7.4 資金オプション	ラ・アミスタ・カリブ保全地域 (ACLAC) オサ保全地域 (ACOSA)
	7.5 資源利用を正当化のための科学情報	テンピスケ保全地域 (ACT) アレナル・ウエタルノルテ保全地域 (ACAHN)
	7.6 アクターの特定	ラ・アミスタ・カリブ保全地域 (ACLAC) テンピスケ保全地域 (ACT)
	7.7 プロセスの一部としてのモニタリ	テンピスケ保全地域 (ACT)

	ング評価のフォローアップ継続	アレナル・ウエタルノルテ保全地域 (ACAHN) オサ保全地域 (ACOSA)
	7.8 環境教育を通じた意識化	ラ・アミスタ・カリブ保全地域 (ACLAC) アレナル・ウエタルノルテ保全地域 (ACAHN) オサ保全地域 (ACOSA)

出所：Proyecto MAPCOBIO “Claves para promover la conservación participativa en el Sistema Nacional de Áreas de Conservación basadas en las experiencias de 11 Áreas de Conservación” (2017 年 2 月時点ドラフト)より抜粋。

(3) 成果 3

成果 3 は大部分が達成されており、プロジェクト終了時までに達成する見込みである。参加型生物多様性に関する 1 つ以上の政策提案については、「SINAC 戦略計画 2016-2026 に基づく、市民参加ガバナンスマクロプロセス（上位政策）の行動計画」（以下、「市民参加ガバナンス行動計画」という）が現在策定中であり、2017 年 12 月に最終化される予定である。4 つのツールについては保護区におけるゾーニングガイドラインは最終化されつつあり、生態系サービスの支払い（PES）のためのインパクト・モニタリング・システムは、プロジェクト終了時までに開発される予定である。また、参加型環境モニタリングを実施し、データ収集・分析し、レポートがとりまとめられつつある。以上の成果物は、プロジェクト終了前に業務資料として公式に承認される予定である。

(4) 成果 4

成果 4 は、プロジェクトで実施したコスタリカ国内外のイベントやセミナーでほぼ達成されていると評価する。それらのイベントやセミナーでは SINAC 職員が発表者となりセミナーで重要な役割を果たした。さらに、フェイスブック等のソーシャルネットワークキング・システムを通じたコミュニケーション、プロジェクトで作成された報告書のウェブサイト上で公表など、参加型生物多様性保全の経験・知識は様々な経路で発信されており、共有されたとみなされる。プロジェクト終了時に予定されているセミナーの開催により、達成される見込みである。

	
写真 1：プロジェクト成果 1 のマニュアル、 報告書	写真 2：プロジェクト成果 2 のマニュアル、 報告書

2-5 プロジェクト目標の達成見込み

終了時評価時点で、多くの各保全地域において本プロジェクトでまとめた経験の情報・知識が利用されつつあり、また、フェイスブックを通じて情報・意見交換がなされていることから、これらの点については成果が出ているものと判断した。他方、本プロジェクトで取り組んだ参加型手法に関する知識を体系化、共有し、成果を政策・制度へフィードバックしていくための責任部署、あるいは体制の構築については検討が始まっていなかった。しかし、その体制構築に早急に取り組み、プロジェクト終了時まで完了することで、プロジェクト目標は達成される見込みである。SINAC 本部事務局に体系化した知識をレビューし、どのような知識を共有するかを取り決め、情報技術通信部（IT）を通じてレビュー結果をウェブサイト上に報告する責任部署（あるいは体制）を設けることが求められる。

表9 プロジェクト目標の達成状況

プロジェクト目標: コスタリカの参加型手法に関する知識がコスタリカ内外で共有されるメカニズムが構築される。	
指標 1: 各保全地域で、プロジェクトによって集約された知識(ナレッジ)を利用した事例が 1 つ以上ある。	概ね達成: 2017 年 10 月 6 日時点で、11 保全事務所のうち、9 事務所のプロジェクト連絡調整員からの質問票回答、3 名の連絡員に直接インタビューによると、本プロジェクトによって担当地域あるいは他地域の経験から学んだことを活動に適用しつつある、あるいは、適用したと回答している。
指標 2: プロジェクトによって設立されたネットワークに生物多様性関係機関の 50 人以上が参加し、知識の交流や参加型生物多様性保全の議論を行っている。	達成: 本プロジェクトが立ち上げ、100 名以上が参加するフェイスブックのグループページ「生物多様性保全の参加型管理の体系化」のネットワークでは、活発な議論がなされている。同ネットワークがより公的なものになるとさらによい。
指標 3: 知識共有のための SINAC の責任部署が決定され、関連データの更新を行うメカニズム(ホームページ等)を開発する。	部分的に達成: ウェブでの情報共有については、情報技術コミュニケーション部が管理することになるが、知識共有のための SINAC 本部の責任部署が正式に決まっていない。中間レビュー時は、市民参加ガバナンス部が担当になることが期待されていたが、その後そのようになっておらず、同部のプロジェクト活動の参加は期待よりも限られていた。
指標 4: 外国との知識共有のための責任部署がパートナーシップを発展させ、CCAD のような地域イニシアティブとの知識共有のためのメカニズムを構築する。	未達成: SINAC 内で知識共有を担当する、公的に定められたセクションが不明なため未達成。しかし、SINAC と CCAD どのパートナーシップは、プロジェクトで実施した国際イベントや情報共有活動を通じて発展してきている。

2-6 上位目標の達成見込み

上位目標達成についてはまだプロジェクト終了後の状況を精査／レビューする必要があるが、一例がみえてきている。その例とは、「SINAC 戦略計画 2016-2026」の下、具体的な行動計画として「市民参加・ガバナンス行動計画」が作成されつつあり、本プロジェクトで取り組んだ参加型生物多様性保全に関する経験の体系化を通じた知識が、環境教育等についてすでに反映されている。今後、このように本プロジェクトによる経験・知識の共有の取り組みが、コスタリカ、あるいは中米の各国の経験の上位政策の策定や制度設計に貢献し、上位目標達成が促進されることが期待される。

表 10 上位目標の達成状況

コスタリカ及び中米各国における参加型生物多様性保全に関する政策とシステムが、知識の適切な利用により強化される。	
指標 1: コスタリカあるいは中米各国における参加型生物多様性保全のプロジェクトあるいは政策がある	コスタリカと中米各国において、「本プロジェクトによって共有された知識を参考にした」プロジェクトや政策があることを指している。現在、SINAC 戦略計画の下、市民参加ガバナンスが主体となって策定中である「市民参加ガバナンス行動計画」案には、本プロジェクトでの 11 保全地域の経験の体系化の成果が環境教育分野などで反映されている部分もあるという。上位目標に関連する動きの一例といえる。
指標 2: プロジェクトによって設立されたコスタリカ国内外のネットワークが参加者 50 人以上で新たな課題の提示がなされており、維持されている。	この指標は、プロジェクト終了後に確認。

2-7 実施プロセス

(1) 実施体制

プロジェクト実施状況全体としては、活動が非常に広範囲であった点を考慮すると、当初計画から遅延があったものの、比較的円滑に実施されてきたものと判断する。中間レビュー時点で指摘のあった実施体制に関する課題については、以下の通り現況が確認できた。

● C/P の配置について

中間レビュー時に欠員が生じていた ACTo 事務所の環境教育・参加型環境モニタリング担当は、終了時評価時点で配置されていた。また、中間レビュー時の 2015 年 9 月、環境大臣から国家保全地域審議会へ今までの SINAC 保全地域 11 カ所の区分けから、MIDEPLAN の 6 地域区分に合わせて統合する方針が公式文書で示され、プロジェクト連絡員の配置の継続が懸念されたが、結局その方針による変更は実施されなかったため、影響はなかった。

ただし、リサーチ・コーディネーターについては、中間レビュー後も配置されなかった。その理由について、SINAC に質問したところ、明確な回答は得られなかった。結果としてリサーチ・コーディネーターが担当していたローカルコンサルタントへの調査発注のマネジメントについては、コスタリカ C/P であるプロジェクト・マネージャーと日本人専門家が行って人員が減少した分業務を補っていたことになり、この追加業務の負担は相応にあったものとみられた。

本プロジェクトでは、SINAC 本部事務局で参加型生物多様性の知識（ナレッジ）を共有するメカニズムがプロジェクト目標となっていたところ、SINAC 側での共有メカニズムの継続を担う C/P の育成を重視し、SINAC 本部事務局において各地域事務所から報告書としてまとめられた事例の内容のチェック、及び横断分析などを行う専任の担当者（あるいはチーム）の配置があれば、よりよかったのではないかと思われる。事例の横断分析については、各保全地域事務所の C/P によるワークショップを行ったが、最終的なとりまとめはプロジェクト・マネージャーと日本人専門家のチーフアドバイザーが主に行っていた。

- 市民参加ガバナンス部の強化とプロジェクト活動への参加

中間レビュー時に SINAC 組織変更があり、新ユニットとして、市民参加ガバナンス部が設置された。当時、同部は、参加型アプローチの推進や各保全地域での参加型の活動からの教訓の蓄積と共有に重要な役割を果たすことが期待され、プロジェクトの主要な C/P として、プロジェクト活動の実施に参加することが推奨された。しかし、新設当初、同部の業務所掌が明確に定義されていなかったこと等から、中間レビュー以降終了時評価までの間、市民参加ガバナンス部職員 2 名が住民参加アプローチの経験の体系化研修に参加したり、同部職員がプロジェクト連絡員の定例会へ参加したりしていたが、事例の横断分析ワークショップはオブザーバー的な参加にとどまり、各保全地域での参加型アプローチの経験のとりまとめの役割を担うまでには至らなかった。プロジェクト最終年に開始した「市民参加ガバナンス行動計画」の策定の活動では主体的に活動がなされるようになった。

- 調査諮問委員会の目的と役割の明確化および中間レビュー後の活動計画

中間レビュー時には、調査諮問委員会の目的と役割が不明瞭なため委員会のプロジェクト活動への貢献も限られていることが指摘された。したがって、SINAC における委員会の目的・役割は何かを明確化にし、継続するか否かの検討を行うことが提案された。中間レビュー後、調査テーマ設定に関する調査諮問委員会の役割は終了したとして、継続されないことになった。

この点については、例えば、本プロジェクトの目標である「住民参加型アプローチの知識の共有メカニズム構築」ということを念頭に、SINAC 内でどのような形で知見の蓄積を行うか、どのような体制が必要かを検討することを委員会活動の主目的とする委員会設置もあり得たと思われる。そのような目的の委員会であれば、ナレッジマネジメントの専門家等を含めるなど、異なる基準での委員選定となったであろう。プロジェクト開始当初においてこのような委員会設定も検討に値したと思われる。

(2) 実施方法

本プロジェクトでは、研修や調査業務にさまざまなローカルコンサルタントを雇用して実施したことが実施の効率性につながっている。一方、そのようなやり方は、雇用したサービスや成果物の質の管理が常に重要である。中間レビュー時点でローカルコンサルタントが実施した業務の一部については、プロジェクト関係者からデータ収集や分析方法に改善余地があるとの指摘があり、サービスと成果物の質の管理については特に重視する必要があった。R.N.V.S.B.C において、環境により優しい農業生産活動推進における農牧省とその関係機関との連携、学校での環境教育活動での教育省との連携は、より効果的な生物多様性保全活動を実現するとともに、各省にとっても対象地域における活動発展のきっかけとなり、その後、各省において予算を確保し、活動を継続・普及させるインパクトもあった。このことは、パイロットプロジェクトとして共有されるべき経験に基づく知識の 1 つとなっている。また、統合農家のモデル化を進め、それらのモデル農家を通じて他の農家への技術の普及を目指す取り組みは、知識の普及のアプローチの一例となった。

第3章 評価5項目による評価

3-1 妥当性

本プロジェクトは、終了時評価時点のコスタリカ及び中米における環境政策、戦略、開発計画および日本開発援助方針において妥当性が高い。

(1) コスタリカの開発政策・計画との整合性

本プロジェクトは、コスタリカの国家開発計画（2015-2018）と国家生物多様性保全戦略（2015-2030）と合致している。国家開発計画（2015-2018）の環境分野関連の章では、環境保全活動において公式な市民社会の参加の必要性が述べられ、参加型ガバナンスに焦点が当てられている。国家生物多様性保全戦略（2015-2030）の4つの政策軸のうち、3つ政策軸には市民社会の参加の視点が含まれている。SINAC 開発戦略 2016-2026 では、市民参加ガバナンスは戦略テーマの一つとなっており、SINAC の内部手続きとして、プロジェクトと直接関連する2つの目標が以下の通り掲げられている。

- ・ 生物多様性の保全と自然資源の持続的利用には参加型管理を実施すること。
- ・ 意思決定のプロセスにおいて改善を推進するナレッジマネジメントシステムを設立する。

(2) コスタリカの開発ニーズとの合致

コスタリカの野生生物保護区等では人々が居住し、生産活動を行っており、自然資源の利用と管理において地域住民と行政機関との中で軋轢が生じていた。生物多様性保全の推進において住民参加は不可欠かつ共通の課題であり、過去の経験から学んで各保全地域で適用していくことが重要であった。バラ・デル・コロラド野生生物保護区、その他にも各保全地域で参加型生物多様性保全推進が取り組まれた前例がいくつかあるものの、前例の経験を参照しやすく体系的にとりまとめ、国内外で適用していくニーズがあった。

(3) 中米地域政策との整合性

本プロジェクトは、中米統合機構（Sistema de la Integración Centroamericana : SICA）の中米環境開発委員会（Central American Commission on Environment and Development:CCAD）の「2015-2020 地域環境戦略の枠組み」と合致している。同戦略で目指されている5つの成果のうちの1つは「生物多様性保全が参加型の方法で推進される」こととなっている。本プロジェクトは、生物多様性保全への社会参加を推進することにより、この目的に貢献するものである。

(4) 日本の対コスタリカ援助政策との整合性

本プロジェクトは、外務省の「対コスタリカ共和国 国別援助方針」（2017年1月）及び「対コスタリカ共和国 事業展開計画」（2017年1月）との整合性が高い。対コスタリカの援助政策の基本方針は、「環境分野を中核とした持続的発展への支援」となっている。また、援助方針では、コスタリカへの二国間援助を通じ、中米地域への支援を推進することにも言及されており、その方向性にも合致している。

3-2 有効性

各保全地域の SINAC 職員の参加型に関する経験の体系化と、その経験を SINAC 内外で共有する上で、本プロジェクトは有効であった。しかし、SINAC 本部レベルにおいては、体系化された参加型手法の経験の知識を共有するメカニズムを構築するというプロジェクト目標について、責務を負う担当部署あるいは体制が定められておらず、よって、プロジェクトの成果を上位目標「政策・制度の強化」につなげる体制が十分とはいえない。知識の共有メカニズムという点においては、SINAC ウェブサイトを通じた報告書の公表とソーシャルネットワークを通じた普及にとどまっている。知識の共有と業務へのフィードバックを行う体制を構築することに関しては、今後 SINAC 本部レベルにおいて事務局職員の更なる能力向上が求められる。

(1) 地域レベルで知識の共有メカニズム

保全地域事務所の職員は、本プロジェクトを通じて参加型アプローチ促進のための鍵となる事項を学んだ。参加型生物多様性の経験の体系化の作業を通じて得た知識を、現場でのオペレーションに反映、実践し始めている。参加型の経験の体系化作業そのものが、保全地域事務所職員の業務改善への意識を啓発し、SINAC 職員と地域の関係者の一層の関係強化に有効であった。R.N.V.S.B.C で実証された経験は、コスタリカの他の保全地域や国外でも参照可能な「知識」としてまとめられた。これらの成果は、SINAC の地域事務所職員の取り組みの高い意欲によるものと考えられる。

(2) SINAC 本部事務局での知識の共有と政策・制度へのフィードバック

本プロジェクトで実施した地域セミナーと CCAD の会合での発表を通じ、中米諸国とのネットワークを促進したことは非常に有効であった。

中間レビュー時、SINAC 本部に市民参加ガバナンス部が設立されたことは、プロジェクト後半の活動において、参加型知識の普及における推進要因になると期待された。また、地域事務所が体系化した知識の分析と、その SINAC 全体（本部事務局と地域事務所）での共有において、同部が主要な役割を担うことが期待された。

しかしその後、同部は市民参加ガバナンス行動計画の策定は行ったものの、体系化された知識を SINAC 全体としてとりまとめる作業への関与は限定的であった。終了時評価時において、SINAC 本部事務局に体系化された知識の共有メカニズムの責任主体が設置されていない理由は、主に以下の通りと考えられる。

- ・市民参加ガバナンス部は新設のため、プロジェクト開始当時から参加してきた地域事務所職員と比較すると経験が浅く、新規の部署であるがゆえに業務所掌に曖昧な点があり、中間レビュー以降において業務所掌の明確化が図られるに至ったという経緯がある。実際、本プロジェクトの参加型に関する経験と知識については、市民参加ガバナンス部の業務所掌だけでなく、生物多様性保全と持続的利用、生態サービス部の業務にも横断的に関連するものであった。加えて、2017 年 6 月に辞任した同部の部長は、在任中健康問題により不在が多かったことも影響し、同部をプロジェクト活動への参加を促すこと、更には参加型の経験の知識についてとりまとめを行う部署となるには課題が多かった。
- ・2015 年 2 月以降、リサーチ・コーディネーターが配置されなかった。プロジェクト目標を鑑みると、この担当は、SINAC 全体としての参加型に関する経験と知識のとりまとめが期待されるポジションであったと理解する。しかし担当業務名からは、単に調査発注を行う

担当として位置付けられ、その役割と必要性の認識がないままとなり、SINAC としても人員不足の中、プロジェクト専任の担当を配置することなく終了時評価に至ったものとみられる。

- ・「知識」と「体系化」について、まず誰を「知識」のターゲットユーザーで、どのように体系化するかの方針につき、プロジェクト初期段階において明確に定義されていなかった。政策・制度の強化に向けての知識であれば、地域事務所の職員のみでなく、本部事務局職員も対象とすべきである。しかし実態としては、知識の体系化の活動主体や主なユーザーは、本部事務局職員より地域職員に焦点があてられ、各地域の参加型経験の情報整理が中心で、本部レベルで誰が各地域の知識をまとめるか、共有するかについて、十分に検討されていなかった。

3-3 効率性

プロジェクト活動実施に向けての日本側及びコスタリカ側の投入、活動、プロジェクトの各地域の成果については、中程度といえる。実施された国内、国際セミナーは適切と判断でき、プロジェクトの成果の普及は計画どおり進んでいる。

一方、SINAC 本部事務局の活動については、リサーチ・コーディネーターの不在や市民参加ガバナンスのプロジェクト活動への関与が、当初は限られていたことなどから、効率性を減じることとなった。生態系サービス支払い（PES）のモニタリングシステム開発は、予定より大幅に遅延したが、終了時評価時点ではコンサルタント契約に進み、プロジェクト終了前に完了する予定である。

いくつかのプロジェクト活動の遅延の一因は、活動が多岐にわたったことで、投入が散発的となったことがあげられる。その背景として、本プロジェクトで体系化の対象とした参加型の経験の特定作業の開始時から、多様な参加型アプローチの全てを対象として考慮したことが活動数の増加の理由と考えられる。結果として、本プロジェクトでは、参加型生物多様性保全の課題に対応する様々な報告書やガイドライン、政策、情報システムなどの成果物を生み出すこととなった。コンサルタント委託によりそれが可能となったものの、限られたプロジェクト人員で契約管理や成果物の質の管理等を行う業務負担は、相応にあったものと推察する。活動に関しては、プロジェクト目標と上位目標と関連で最重要課題に絞ることも重要であったと考えられる。そのためには、プロジェクトで目指す共有すべき「知識」の内容の範囲を絞ることも、一案であったと思料する。

3-4 インパクト

(1) 上位目標の達成状況

プロジェクト終了後の状況を確認の後に評価することになるが、市民参加ガバナンスが主体となって作成中の市民参加ガバナンス行動計画は、本プロジェクトにおける参加型生物多様性保全の経験の体系化によって抽出された知識が反映されているものと判断されることから、知識を政策に反映させるといふ本プロジェクトの上位目標に貢献する活動の一例といえる。

(2) その他のインパクト

その他のインパクトとして、主に以下の点が観察できた。

- ・ R.N.V.S.B.C における参加型管理は、SINAC 保全地域事務所（ACTo）はじめ、農牧省（Ministry of Agriculture and Livestock: MAG）や教育省（Ministry of Public Education: MEP）、野生生物保護区内外のコミュニティ、その他の関係諸機関が協働し、持続的農業と環境教育活動を発展、普及させることを促進した。
- ・ 本プロジェクトで得られた参加型アプローチの経験に関する一連の報告書類は、コスタリカのみでなく、メキシコ、グアテマラ、GIZ で実施している「グアテマラにおけるメソアメリカ生態コリドーの持続的地域管理のための能力強化プロジェクト」など、多くの他ドナープロジェクトによっても利用される見込みである。また、参加型の経験に関する体系化のマニュアルについては、GIZ が支援する SINAC の国家生態コリドープログラムにおいて、SINAC 本部事務局の市民参加ガバナンス部生態コリドー担当職員が既に活用し、国際あるいは地域セミナーでも発表する予定としている。
- ・ 国家森林基金（FONAFIFO）は、本プロジェクトの参加型環境モニタリングの方法の研修に参加し、同基金が PSA の便益を受けている農家でのモニタリング箇所でトラップカメラを使い、その研修成果を反映して本プロジェクトと同様の参加型環境モニタリングを行っている。

3-5 持続性

終了時評価において、本プロジェクトの持続性の見込みは中程度である。政策・制度、組織、財務、技術面に関する本プロジェクトの持続性については、以下の点が予見される。

(1) 政策・制度面

参加型アプローチの重要性は、現行のコスタリカ生物多様性保全政策において強調されている。現在の政府は、ガバナンスに重点を置いており、生物多様性保全における参加型アプローチへの政策的支援は明らかである。ただし、時間の経過とともに、将来の政権において優先度が変わる可能性がある。

(2) 組織面

現在の市民参加ガバナンス部の組織は、部長 1 名と職員 4 名の 5 名体制であり、担当事項となっている 7 つのテーマ：原住民、環境教育、ボランティア、ガバナンスモデル、戦略的連携、生態コリドー、国家・地域・地方審議会を所掌するには不十分である。以上の状況下、市民参加ガバナンス行動計画の実施や参加型アプローチの知識の分析、共有、政策決定、SINAC 業務へのフィードバックについて、プロジェクトの持続性が懸念される。

(3) 財務面

本プロジェクトの波及効果の 1 つとして、SINAC 内で以前はなかった「体系化」という予算項目が現在設定されている点があげられる。この予算項目で、各地域事務所は経験の体系化活動を行う予算が獲得できるようになり、体系化の活動を継続する予算確保するための重要な足掛かりとなっている。

中間レビュー時に確認した通り、現行政府には予算不足の問題があり、政府組織は予算削減が

実行されている。したがって、SINAC 通常予算への影響が懸念される。しかし、SINAC へ配分される通常の政府予算の他、各地域事務所の活動においては、生物多様性保全活動のための公的、あるいは民間組織との協定を通じ、部分的な協力資金が得られる可能性もある。現時点では、本プロジェクトで発展した活動の財務的継続性を担保しようという SINAC の尽力が伺える。

(4) 技術面

中間レビュー時に確認されたように、R.N.V.S.B.C の C/P 職員の参加型のスキル、すなわち、関係機関間の調整や地域住民やコミュニティ動員の参加型スキルが維持され、他の類似の保全地域へ継続的に移転されることが見込まれる。参加型アプローチの経験の体系化の手法は、プロジェクト連絡員が、すでに SINAC 内の他の職員や国内外の組織へ移転している状況であり、この活動が維持されることが期待される

保全地域の知識の体系化や共有する能力は十分発展してきているが、SINAC 本部事務局レベルでは、体系化活動への参加は限られている。

3-6 効果発現に関わる貢献・阻害要因

(1) 貢献要因

1) 計画内容に関すること

特になし

2) 実施プロセスに関すること

- SINAC の過去の経験の情報の体系化において、各保全地域事務所の職員が中心となり、多くの関係組織を巻き込んで参加型で行ったことで、国内のさまざまな組織の関係者の知見の共有と関係強化につながっている。

(2) 阻害要因

1) 計画内容に関すること

- 本プロジェクトの開始段階において、目指すべき参加型生物多様性に関する「知識」の「体系化」を明確に定義し、関係者間で共有することが手薄になったことで、プロジェクトの活動が拡散し、活動の効率的実施を阻害する要因の1つとなった。プロジェクトの効率的な実施のためには、プロジェクト実施の早期の段階において、キーワードを基に重要な活動を取捨選択し、活動を絞り込んで集中的に行うことも重要であったと考えられる。
- 当初のプロジェクト・デザインで、プロジェクト目標・成果・活動の論理的なつながりに不明確な点があったこと、また、各達成度を測る上でプロジェクト計画時の指標設定に課題があったこともあり、特に中間レビュー時までのプロジェクト実施の効率性を阻害した。特に、プロジェクト全体の中における R.N.V.S.B.C.内の活動は、参加型を推進する手法を試すパイロット的活動と位置付けられることから、必要十分な活動範囲に留めておくような措置もあったものと思料する。本点については、終了時評価調査団として参加した国際協力専門員の所感が参考となる（付属資料3）。

2) 実施プロセスに関すること

- SINAC 本部事務局で各保全地域の参加型事例の知識をとりまとめて分析し、政策へフィードバックするナレッジマネジメント体制を構築することを重視し、早期からその体制の構築を検討していなかったため、プロジェクト目標達成の遅延が生じた。

3-7 結論

結論として、プロジェクト終了時までに SINAC 本部事務局で保全地域での経験の知識をとりまとめ、政策や業務実施の指針等のフィードバックを継続的に行う体制が構築されれば、プロジェクトは全体として高い評価に値する。

本プロジェクトは、コスタリカ側政策・計画と日本側の援助政策において整合性が高く、コスタリカの保全地域の経験・情報を体系化し、関係者と共有することができたという点において効果の高いものであった。効率性の面では、中央レベルでプロジェクトの活動を統括すべき適切な責任体制が不在であったため、一部の活動が当初の計画と比較して遅れることとなったが、保全地域レベルでの活動の進捗は順調であった。またプロジェクトでまとめられた参加型の知識が他地域や各関係機関の活動へ広がったインパクトも観察できた。プロジェクト活動の持続性をより確固なものとするには、SINAC 中央レベルで経験の体系化のための能力向上、SINAC 以外の関係機関も含めて今後の政策立案、生物多様性保全の参加型管理へフィードバックするためのナレッジマネジメントを推進する必要がある。プロジェクト目標を達成するためには、プロジェクト終了時までに、保全地域での経験のナレッジマネジメントを推進する責任部署を中央レベルで設けることが不可欠である。

第4章 提言・教訓

4-1 提言

終了時評価のレビューの結果、以下を提言した。

4-1-1 プロジェクト終了時までの提言

(1) ナレッジマネジメント責任部署の制定

本プロジェクトによる成果の持続発展性を担保するため、体系化された知識の共有メカニズムを構築するための責任部署を SINAC 本部事務所で制定すべきである。なお、その際には、SINAC 戦略計画 2016-2026 においては、「生物多様性の保全と持続的な利用と生態系サービス部」がその担当部署として指定されていることを考慮すべきである。

SINAC 長官や技術ダイレクターとの議論により、例えば以下の管理・機能体制を提案する。

【責任体制の暫定案】

リーダー

SINAC 本部事務所 技術ディレクター

支援チーム

- ✓ 市民参加・ガバナンス部長と各職員
- ✓ 生物多様性の保全と持続的な利用と生態系サービス部長と各職員
- ✓ 地域技術ディレクター、市民参加・ガバナンス連絡担当者および関連職員

推奨される活動

定期的開催される技術ディレクター会議（技術ディレクターズフォーラム）で、以下のテーマを取り上げる。

- ・ 新規にとりまとめられた参加型生物多様性保全の経験の体系化の報告書の更新、また今後保全地域で体系化すべき経験の見直しをする。
- ・ 今後 SINAC ウェブサイトに公表されるべきグッドプラクティスの報告書の検討・評価
- ・ 上記報告書から得られた教訓を分析し、生物多様性の参加型管理と関連する新しい政策策定へフィードバックする。

(2) 本プロジェクトが作成した成果品の公的承認

SINAC の業務上重要とみられる以下の本プロジェクトの成果品の公的な承認を行うことが推奨される。

- ・ 国家野生生物保護区の参加型管理マニュアル
- ・ SINAC における生物多様性保全のための参加型管理の体系化マニュアル
- ・ SINAC における参加型生物多様性保全の経験の体系化ガイドライン
- ・ 11 の保全地域での経験に基づく SINAC の参加型保全活動促進のための課題
- ・ 経験体系化の報告書
- ・ ゴーニングマニュアル
- ・ PES インパクト・モニタリング・システム

- ・ 参加型環境モニタリング・プログラム
- ・ PRONAMEC（国家生態系モニタリング・プログラム）におけるジャガー・モニタリング・プロトコル
- ・ 市民参加とガバナンスのマクロプロセス（上位政策）行動計画

(3) SINAC 本部事務局職員、地域保全事務所ディレクター、その他関係者を対象とする最終セミナー

本プロジェクトのすべての成果を共有すべく、特に SINAC 本部事務局と保全地域職員を対象に最終セミナー開催を提案する。それに加えて、参加型保全促進の政策的支援を得るために、公的、学術、民間セクター（NGO など）の意思決定者に情報を提供し、フィードバックするためのプロジェクト終了イベントを提案する。また、これらと並行し、プロジェクトで得られた成果や教訓をより政府の上位レベルへ発表すべく、国家保全地域評議会で発表セッションを設けることが望ましい。

4-2-2 プロジェクト終了後の提言

(1) 経験の体系化の業務サイクルの継続的实施

体系化された知識の共有メカニズムのために制定された、SINAC 本部事務所の担当部署が、経験の体系化を業務サイクルとして継続的に実施していくことが望まれる。業務サイクルとは、各保全地域の経験・知識のレビュー、共有、業務改善のためのフィードバックを行うということを指す。共有すべき知識をレビューし更新する際には、その知識を用いる対象者（SINAC 本部事務局職員と保全地域事務所職員）が政策・制度あるいは活動へフィードバックするために参照しやすいレファレンスとして、改訂・整理してまとめることが重要である。

(2) プロジェクト活動を継続するための予算の確保

SINAC の予算管理システム（PLAN PROPUESTO）には、経験の体系化のための予算項目が既に設けられている。SINAC が参加型管理の経験の体系化活動のために継続の予算支援をすること、またその他プロジェクトで支援した参加型環境モニタリング活動等の予算支援を継続することが望まれる。

(3) 参加型生物多様性保全の経験やデータの共有に向けた国際機関との協力の継続と発展 (コスタリカのグッドプラクティスの発信の継続のために)

本プロジェクトは、国際条約事務局（生物多様性条約（CBD）やラムサール条約など）やコスタリカの国家生物回廊プログラム、メソアメリカ生物回廊プログラムといった CCAD の環境戦略地域フレームワークや、GIZ プロジェクトなどの援助機関と協調して、セミナーやイベント活動を実施してきた。このような取組みを通じて、構築されたこれらの組織とのネットワークがプロジェクト終了後も継続して強化されるべきである。

4-2 教訓

今次終了時評価では、コスタリカ側の M/M で合意した下記の(1)の教訓、そして JICA 組織内で引き継がれるべき(2)の教訓の 2 点をあげる。

(1) 参加型生物多様性保全の経験の体系化プロセスの効果

本プロジェクトに参加した多くの保全地域事務所の職員が、参加型の経験の体系化作業そのものが、自身の業務活動の改善に貢献したと指摘していた。その理由は、体系化プロセスにおいてこれまでの経験を分析し、反省や教訓を得ることで自分たちの担当業務の改善や関連組織の主要な関係者との関係を強化することにつながり、ひいては参加型アプローチの推進にもつながったとしている。彼らは体系化作業を実施した結果、日々の業務に対して自信を持ち意欲的になっている。特に長期にわたって参加型保全の経験がある国にとっては、知見を取りまとめて「暗黙知」を「形式知」へと転換する上で体系化作業プロセスそのものが有用である。

(2) プロジェクト開始初期におけるプロジェクト・アプローチの概念の明確化

本プロジェクトでは、プロジェクト目標が示す参加型生物多様性の保全の「知識」および「体系化」の範囲が曖昧で、参加型生物多様性の保全のグッドプラクティスとなる経験の「知識」について、「知識の利用の目的はなにか」、「誰を知識のターゲットユーザーとするか」、「どのようなタイプあるいは状況の保護区を対象とするか」等が明確に定義されないままにプロジェクトが進行していた。このことは、プロジェクト・アプローチの概念とプロジェクトのデザインに曖昧さを残し、その結果として活動が非常に広範にわたり、投入、活動、成果、プロジェクト目標の論理的な関連性のみえにくさに繋がったものと考えられる。そして、プロジェクトマネジメント上の負担と活動実施の効率性を減ずる一因となった。

詳細計画策定時に対象範囲を絞ることが困難な場合には、例えば参加型アプローチの経験情報をある程度整理した時点で、どのような知識を重視して分析するかを、活動計画に入れておくと効果的と思われる。また、そのような知識・知見の整理・分析には高度な専門性を要することから、ナレッジマネジメント専門家を投入して分析した上で対象範囲を絞り、プロジェクト・アプローチの概念を明確化し、その上でプロジェクト・デザイン・マトリックスを見直すことも必要な措置と考えられる。以上の対処により、より効率的なプロジェクトマネジメントに繋がるものと思料する。

以上

付 属 資 料

4. Minutes of Meeting
5. 終了時評価 評価グリッド(和文)
6. 国際協力専門員所感

MINUTES OF MEETINGS
BETWEEN
THE JAPANESE TEAM OF THE TERMINAL EVALUATION
AND
THE AUTHORITIES CONCERNED OF
THE GOVERNMENT OF THE REPUBLIC OF COSTA RICA
ON
THE PROJECT FOR PROMOTING PARTICIPATORY BIODIVERSITY
CONSERVATION
IN
REPUBLIC OF COSTA RICA

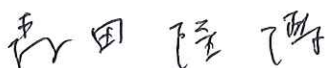
The Japan International Cooperation Agency (hereinafter referred to as "JICA") sent a team headed by Mr. Takahiro Morita to conduct the Terminal Evaluation on the "PROJECT FOR PROMOTING PARTICIPATORY BIODIVERSITY CONSERVATION" (hereinafter referred to as "the Project") from 25 September to 12 October 2017.

The joint evaluation team (hereinafter referred to as "the Team"), composed of four representatives from JICA and three representatives from the Republic of Costa Rica, conducted interview and field surveys during the mission. After a detailed analysis of the activities and achievements of the Project, the Team prepared the joint terminal evaluation report of the Project (hereinafter referred to as "the Report").

The Team submitted the report to the relevant authorities at the Joint Coordinating Committee (hereinafter referred to as "JCC") meeting on 11 October 2017. The authorities thoroughly examined the contents of the Report and took a note of the recommendations. The summary of the discussion is described in the document attached hereto. Costa Rican and Japanese officials agreed upon the contents of this Minutes of Meeting (MM) and subsequently report to their respective governments.

This Minutes of Meeting is prepared in duplicate in English and Spanish languages, both are equally authentic. In case of any divergence of interpretation, the English text shall prevail.

San José, 11 October, 2017



Mr. Takahiro Morita
Team Leader
JICA Terminal Evaluation
Team
Japan International
Cooperation Agency (JICA)
Japan



Ms. Patricia Madrigal Cordero
Vice Minister of Environment
Ministry of Environment and
Energy
Republic of Costa Rica



Mr. Mario Coto Hidalgo
Executive Director
National System of
Conservation Areas (SINAC)
Republic of Costa Rica

Appendix: The Joint terminal evaluation report for Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation in Republic of Costa Rica.

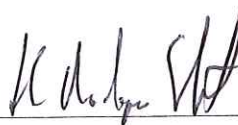
**The Joint Terminal Evaluation Report
For
Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation
In
Republic of Costa Rica**

森田 隆博

Mr. Takahiro Morita
Leader
JICA Terminal Evaluation Team
Japan International Cooperation Agency



Ms. Karina Li
International Cooperation Direction,
Ministry of National Planning and
Economic Policy (MIDEPLAN)



Ms. Saskia Rodriguez
Technical and Financial Cooperation
Department, National System of
Conservation Areas (SINAC)



Ms. Fabiola Arguedas
IDB Tourism Project, National System of
Conservation Areas SINAC

San José
11 October, 2017

Table of contents

1. Introduction	1
1-1 Objective of the Terminal Evaluation	1
1-2 Members of the Terminal Evaluation Team	1
1-3 Schedule of the Terminal Evaluation	1
2. Outline of the Project	2
2-1 Background	2
2-2 Project Summary (revised at the time of the Mid-term review in November 2015)	2
3. Methodologies of Evaluation.....	3
3-1 Process of the Terminal Evaluation	3
3-2 Data and Information Collection	4
4. Achievement and Implementation Process of the Project	4
4-1 Input.....	4
4-2 Achievement of Output.....	5
4-3 Achievement of Project Purpose	6
4-4 Prospect for Achievement of Overall Goal	6
4-5 Implementation Process: Management and Implementing Structure	7
5. Evaluation Results	7
5-1 Relevance	7
5-2 Effectiveness	8
5-3 Efficiency	9
5-4 Impact	10
5-5 Sustainability.....	10
6. Conclusion.....	11
7. Recommendations	12
8. Lessons Learned	14

FAJ
HLS
RM

Annexes

- Annex 1: Schedule of the Terminal Evaluation Team of JICA
- Annex 2: Project Design Matrix (Ver.2.0)
- Annex 3: Plan of Operation(PO)
- Annex 4: Evaluation Grid
- Annex 5: Assignment of Japanese Experts
- Annex 6: Training of Counterparts in Japan
- Annex 7: List of Equipment
- Annex 8: Assignment of Counterpart Personnel
- Annex 9: Local Operational Cost (Japanese side and Costa Rican side)
- Annex 10: List of Report Outputs
- Annex 11: List of Seminars and Events in Project Activities
- Annex 12: Achievement of Outputs, Project Purpose, and Overall Goal

FAJ
gls KIW
mm

Acronym and Abbreviation

ACG	Guanacaste Conservation Area
ACLAP	La Amistad Pacífico Conservation Area
ACMIC	Coco Island Marine Conservation Area
ACOSA	Osa Conservation Area
ACTo	Tortuguero Conservation Area
CONAC	National Council of Conservation Area
C/P	Counterpart
FONAFIFO	National Forest Fund
JCC	Joint Coordinating Committee
JICA	Japan International Cooperation Agency
MAG	Ministry of Agriculture and Livestock
MEP	Ministry of Public Education
MIDEPLAN	Ministry of National Planning and Economic Policy
MINAE	Ministry of Environment and Energy
ODA	Official Development Assistance
PDM	Project Design Matrix
PES	Payment for Environment Services
PO	Plan of Operation
R/D	Record of Discussions
R.N.V.S.B.C.	Barra del Colorado National Wildlife Reserve
SINAC	National System of Conservation Areas

FAJ KLW
GK
mm

FALW
42
mm

1. Introduction

This report is to describe the results of the Terminal Evaluation for the “Project for Promoting Participatory Biodiversity Conservation” in the Republic of Costa Rica (hereinafter referred to as “the Project”).

1-1 Objective of the Terminal Evaluation

The objectives of the evaluation are as follows:

- (1) To monitor the progress and results of the activities and to verify the accomplishments of the Project;
- (2) To identify obstacles and/or facilitative factors that have affected the implementation process;
- (3) To analyze the Project in terms of the five evaluation criteria, namely Relevance, Effectiveness, Efficiency, Impact, and Sustainability;
- (4) To make recommendations for the necessary actions, measures, in order to attain the project purpose before and after the end of the Project, and to describe lessons learned from the project.

1-2 Members of the Terminal Evaluation Team

The evaluation team consists of both Japanese and Costar Rican members as follows:

(1) Japanese side

No.	Assignment	Name	Position and Organization
1	Leader	Mr. Takahiro Morita	Group Director for Forestry and Nature Conservation Global Environment Department, JICA
2	Biodiversity Conservation	Dr. Motohiro Hasegawa	Senior Advisor, JICA
3	Cooperation Planning	Mr. Takeshi Inagawa	Associate Expert Natural Environment Team 2, Forestry and Nature Conservation Group Global Environment Department, JICA
4	Evaluation & Analysis	Ms. Mitsue Mishima	Executive Director and Principal Consultant OPMAC Corporation.

(2) Costa Rican Side

No.	Assignment	Name	Position and Organization
1	Evaluator	Ms. Karina Li	International Cooperation Direction, Ministry of National Planning and Economic Policy (MIDEPLAN)
2	Evaluator	Ms. Saskia Rodriguez	Technical and Financial Cooperation Department, National System of Conservation Areas (SINAC)
3	Evaluator	Ms. Fabiola Arguedas	IDB Tourism Project, SINAC

1-3 Schedule of the Terminal Evaluation

The Terminal Evaluation was conducted from 25 September to 11 October 2017. The detailed schedule is attached as Annex 1.

2. Outline of the Project

2-1 Background

Costa Rica holds a total of 95,000 species of flora and fauna, including 235 species of threatened species in the Red List of IUCN, which makes Costa Rica one of the mega-biodiversity countries in the world. Costa Rica has maintained environmental conservation as an important policy since the mid 1980's. Environmental conservation and sustainable development is prioritized as one of the major subjects in the National Development Plan for 2010-2014. Because of the efforts, the forest area increased to 52% of the land territory by 2010 and a total area of the protected areas reached about 26% of the nation.

The Biodiversity Law in Costa Rica established the National System of Conservation Areas (SINAC) as an independent entity with the function of institutional coordination to integrate the management and conservation of biodiversity in all kinds of ecosystem. Hence, the promotion of the joint participatory conservation with various stakeholders, creating the Regional Local Councils, is one of its important mandates. From this viewpoint, skills of the participatory management are crucial for SINAC in order to create capacities that allow the comprehensive integration of the biodiversity-related stakeholders.

Based on the above background, SINAC-Ministry of Environment and Energy (MINAE) and the Japan International Cooperation Agency (JICA) implemented the "Project for Participatory Management of Barra del Colorado National Wildlife Refuge" within the Tortuguero Conservation Area (ACTo)" from 2008 to 2011. This project strengthened the capacity of ACTo's staff on the participatory management of the Barra del Colorado National Wildlife Refuge (R.N.V.S.B.C.), through promoting environmental education and collaborative activities such as the integrated farms. However, there are still issues that require attention on the analysis of impact from the promotion of integrated farms and the revision of the current legislation that would allow more flexibilities in the use of natural resources in the private farms within the R.N.V.S.B.C.

On the other hand, JICA recognized that experiences and efforts of Costa Rica for biodiversity is a useful reference for other developing countries, and JICA expected Costa Rica to be a leading partner to disseminate such experience on biodiversity conservation.

In this context, the Government of Costa Rica and the Government of Japan agreed to formulate a new technical cooperation project which would support improving community-participation by local stakeholders in natural resources management in Costa Rica. It is not only expected to share the empirical knowledge throughout Costa Rican but also to be disseminated to countries, especially to those in Central America. This aim of the project coincides with the country-based policy of the Government of Japan for Official Development Assistance (ODA), which is to support sustainable development of the country by addressing environmental issues of Costa Rica.

2-2 Project Summary (revised at the time of the Mid-term review in November 2015)

(1) Duration:

April 2013~March 2018

(2) Counterpart

1. Project Director
2. Project Manager
3. Research Coordinator (assigned up to February, 2015)
4. Field Coordinator
5. Other officials involved in the project implementation

(3) Target Group

FAJ
405 KRW
159
mm

SINAC, MINAE, Local Residents of the R.N.V.S.B.C., Relevant Agencies to the Biodiversity Conservation of Costa Rica and Central American Countries*.

(*Those agencies participated in the seminars held by the Project)

(4) Target areas:

Barra del Colorado National Wildlife Refuge and the Conservation Areas

(5) Framework:

Overall Goal		The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.
Project Purpose		A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica.
Output	1	Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination.
	2	Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.
	3	Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.
	4	Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.

3. Methodologies of Evaluation

3-1 Process of the Terminal Evaluation

The Terminal Evaluation was conducted in the following manner:

- (1) Assessed progress and achievements of the Project referring to the latest PDM Ver. 2.0 attached in Annex 2;
- (2) Assessed the implementation process of the Project and identified factors that facilitated or impeded the progress and achievements of the Project;
- (3) Evaluated the Project, based on results of (1) and (2), from the viewpoints of five criteria; 'Relevance', 'Effectiveness', 'Efficiency', 'Impact', and 'Sustainability'; and
- (4) Made recommendation for activities in the remaining period and after the project completion and describe lessons learned.

The following table is a description about five criteria for the analysis and assessment of JICA-supported technical cooperation projects. Key evaluation questions are shown in the Evaluation Grid for the Terminal Evaluation attached as Annex 4.

Relevance	Relevance is assessed by the validity of the project purpose and overall goal in connection with the policy framework of the Government of Costa Rica and Japanese aid policy and the needs of beneficiaries. Project approach and design are also evaluated.
Effectiveness	Effectiveness is assessed by analyzing the probability to accomplish the project purpose by the end of the project period and the extent to which outputs contribute to the achievement of the project purpose.
Efficiency	Efficiency is assessed by analyzing productivity on how inputs are converted into outputs in terms of timing, quality and quantity.
Impact	Impact is an intended/unintended, direct/indirect and positive/negative changes that have

FAS
SHE
KAW
m

	been brought about as a result of the project.
Sustainability	Sustainability is assessed by analyzing the extent to which the achievement of the project will be sustained or expanded after the project ends. The analysis is made from institutional, organizational, technical, financial and other viewpoints.

3-2 Data and Information Collection

The team collected necessary data/information in the following manners:

- (1) Collecting the project related documents from the Project and SINAC
- (2) Interview to Japanese experts and main Costa Rican C/Ps in San José,
- (3) Field visits to Tortuguero Conservation Area Office (ACTo) and the integrated farms' ecotourism activities in Linda Vista in R.N.V. S.D.C., and interview to C/Ps in ACTo, local residents, staff involved in the project activities from local offices of Ministry of Agriculture and Livestock and Ministry of Public Education.
- (4) Observation of the seminar for sharing the results of systematized experiences in La Amistad Pacifico Conservation Area (ACLAP), interview to ACLAP director and;
- (5) Interview to the Project liaison officers in Guanacaste Conservation Area (ACG), Coco Island Marine Conservation Area (ACMIC), and Osa Conservation Area (ACOSA).

4. Achievement and Implementation Process of the Project

Achievements of the Project are measured in terms of inputs, outputs, project purpose, and overall goal, all of which are in accordance with the PDM Ver.2.0 (see Annex 2)

4-1 Input

The following is the list of inputs provided for the Project implementation. More detailed information is described in Annex 5 to 9.

(1) Japanese Side

(As of September, 2017)

Items	Actual
Experts	5 long-term experts in charge of the following assignment - Chief advisor (1) - Project Coordinator/Research Coordinator (2 persons) - Biodiversity Conservation (1 person) - Participatory Management of Protected Areas (1 person) 3 short-term experts in the following assignment/theme - Project Coordinator (Transition Period) (1 person) - Trainers on National Park Administration in Japan (2 persons)
Training of C/P in Japan	A total of personnel participated in Training in Japan (3 in JFY 2013, 17 in JFY2014, 19 in JFY 2015, 19 in JFY 2016.)
Provision of Equipment	Approximately 16,691 thousand Japanese yen (153 thousand US dollars, JICA exchange rate 1USD=108.976 JPY, as of September 2017) in total (Vehicles, Trap Camera, Binoculars, Computers, Projectors, etc.)
Operational Cost	Approximately 1,990 thousand US dollars (by the end of August, 2017)

(2) Costa Rican Side

(As of September 2017)

Items	Actual
Assignment of C/P	A total of 82 SINAC personnel as accumulated number are directly involved in the Project, of which 43 main C/Ps are:

FAT
SLS
KLW
mm

	Project Director (3 persons) Project Manager (1 person) Field Coordinator (1 person) Research Coordinator (1 person assigned up to February, 2015) Project Liaison Officer (11 persons) Participatory Environment Monitoring Officers (11 persons) RNVSBC Staff (15 persons)
Budgetary allocation	Approximately, 433 thousand US dollars including personnel cost (Central Bank of Costa Rica exchange rate 1USD=577 Col, October 2017)
Provision of Land, Buildings and Facilities	Provision of offices and its facilities for Japanese Experts

4-2 Achievement of Output

The achievement of the expected outputs as of the time of the Terminal Evaluation, based on the project report and interview, is described as follows:

(Further details are described in Annex 10 to 12)

Output 1: Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination.

Output 1 is achieved except for the finalization of the Technical Guide of Participatory Management of the National Wildlife Refuge based on the R.N.V.S.B.C. experiences in the process of the first draft. According to the current status and schedule of the guideline, it is likely to be achieved by the end of project.

On the other hand, the effective participatory management experiences in the R.N.V.S.B.C. have been already uploaded as manuals and guides in web page in SINAC.

Those can be a series of references with which the farms and SINAC can apply the participatory practices easily. The published guides are the good practices for palm oil, rice production, sustainable livestock, technical guide for the diffusion of technologies of sustainable agricultural production in integral farms, in addition to the experiences in rural community development and environmental education in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge and participatory monitoring publication materials.

Also, the General Management Plan of R.N.V.S.B.C. 2017 -2027 with the participation of the local parties, was also updated and approved by CONAC in September, 2017. This can be referred as a case for other areas.

Output 2: Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.

Output 2 is mostly achieved and will likely be achieved by the end of the Project. All research reports and systematized experiences have been produced as planned; while the systematizing of the experiences is in the process of finalizing the cross-analysis on 21 experiences, and it is expected to be completed by the end of the Project. The guideline ("lineamiento" in Spanish) for systematizing the experiences and lessons learned was prepared and a group of officers with capacities to carry out participatory systematizations was formed; however, the entity that will be in charge of the knowledge management within the SINAC has not been designated yet.

FAJ
SIS
KLM
m

Thus, these points must be addressed and the Project output reports should be approved officially by respective organization before the Project completion to continue the activity.

Output 3: Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.

Output 3 is mostly achieved and likely to be completed by the end of the Project. An impact monitoring system for payment for ecosystem services (PES) is planned to be developed by the end of the Project, and the "Action Plan of Citizen's Participation and Governance Macro Process based on Strategic Plan SINAC 2016-2026 (hereinafter referred to as "Participation Action Plan under SINAC Strategic Plan")" is likely to be finalized in December 2017. This action plan and zoning guideline should be officially approved by corresponding organization before the Project completion.

Output 4: Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.

Output 4 is almost achieved in terms of national and international seminars held by the Project where SINAC personnel, fulfilled a very important role in the training of these events participants. Furthermore communication through social network systems and the publication of the reports compiled by the Project and it is likely to be fully completed during the seminar planned for the end of the Project.

4-3 Achievement of Project Purpose

Project Purpose: A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica.

The project purpose is partly achieved and likely to be completed by the end of the Project. In order to achieve the purpose of Project, the responsible entity within SINAC for the knowledge management must be designated with the purpose of reviewing the knowledge and making decisions in regards as to what knowledge to shared and requesting the Department of Information, Technology and Communication (IT) of SINAC to upload the results on the web site.

4-4 Prospect for Achievement of Overall Goal

Overall Goal: The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.

There are some indications that the overall goal would be achieved in due course. A Macro process Action Plan of Citizen's Participation and Governance Department is being implemented according to the guidelines established by SINAC Strategic Plan 2016-2026. The results achieved up until now by the project has been an important source of feedback in the process of the draft of the Action Plan. It is the goal of that with the execution of this Action Plan. It is expected that with the implementation of this action plan, the fulfillment of the overall goal of the project will be evidenced.

FAT
7/15
KLU
m

4-5 Implementation Process: Management and Implementing Structure

The Project has been implemented smoothly in general, except for some issues which are not achieved in recommendations at the time of the Mid-term review.

Recommendations for implementation structure at the time of the Mid-term review were as follows:

- Vacant C/P positions such as the research coordinator and environment education of R.N.V.S.B.C. should be assigned as soon as possible for a smooth implementation of the Project.
- Role and function of the Research Advisory Committee should be clarified and then the Project should make a decision on its continuation.
- Citizen's Participation and Governance Department (PCG) in SINAC was expected to play an important role to promote participatory approach within the organization and to accumulate and share lessons learned from participatory activities in each Conservation Area. It is recommended that the personnel of this department participate in the execution of some activities of the Project as a counterpart to the Project.
- Project liaison officers for the project activities should continue to be involved in the Project after the reorganization of SINAC.

Regarding the recommendations, after the Mid-term review the following is indicated:

- The personnel in charge of environment education in R.N.V.S.B.C. is currently assigned, and Project liaison officers have been involved in the same way at the time of Mid-term review.
- Regarding the Mid-term review recommendation of a Research Advisory Committee, having completed its functions, the Project decided not to create it.
- Research coordinator of Costa Rican Side has not been assigned to the date after the Mid-term review.
- Citizen's Participation and Governance Department in the last year has been more involved in the project activities such as drafting the participation action plan under SINAC strategic plan, however, this participation was not as active with regards to the experience systemization at a local level nor at a national level.
- A responsible entity for the knowledge management within SINAC, to continue gathering/compiling, sharing and providing feedback regarding the formulation/implementation of policies and regulations as the overall goal has not been yet assigned.

5. Evaluation Results

The evaluation results on the Project, using five criteria, are described below.

5-1 Relevance

Relevance is high in terms of policy and development plans in Costa Rica and the Japanese ODA policy at the time of the Terminal Evaluation.

(1) Consistency with the Costa Rican Policy and Development Plan

The Project is consistent with the National Development Plan 2015-2018 and Policy on Biodiversity Conservation 2015-2030. The chapter for environment in the National Development Plan of Costa Rica emphasizes the importance of participation and governance by officially including social aspects

and environmental activities. This chapter focuses on the three pillars out of the four pillars in the policy entails viewpoints related to the participation of the people. The Strategic plan of SINAC 2016 – 2026 establishes the Citizen's Participation and Governance as one of the strategic themes and highlights specifically 2 goals related directly with the project, within SINAC Internal Perspective Processes, listed below:

- To implement participatory management for the conservation and sustainable use of biodiversity and natural resources.
- To establish a knowledge management system that promotes improvement in the decision-making process. A space on the intranet will be used for the compilation of systematized experiences using the MAPCOBIO methodology

(2) Consistency with Regional Strategy in Central America

The Project is relevant to “2015-2020 Framework Regional Environmental Strategy” by the Central American Commission on Environment and Development (CCAD) under the Central American Integration System (SICA). One of the five results in the strategy is “Conservation of biodiversity has been promoted by participatory manner”. The Project can contribute to this aim by promoting the participation of the society in biodiversity conservation.

(3) Consistency with Japanese ODA Policy

The Project is consistent with Japan's ODA policy for Costa Rica in reference to the “Country Assistance Policy for Costa Rica” (January 2017) and “Rolling Plan for Costa Rica” (January 2017) by the Ministry of Foreign Affairs of Japan. Basic Principle of the Japanese ODA policy is “Supporting for Sustainable Development Focusing on the Environment”. The policy also refers to promote assistance to the Central American region through bilateral assistance for Costa Rica, and the Project is also in line with this direction.

5-2 Effectiveness

The Project has been effective for the target group of SINAC officers at the regional level for systemizing and sharing their experience within and outside of SINAC. SINAC has assigned an entity responsible for consolidating and sharing the knowledge, therefore the results generated by the project have not been prospected sufficiently yet toward the overall goal “strengthening policy and system”, and dissemination of knowledge has only been done through SINAC website and the social network. SINAC Executive Secretary (SE) officers' capacity needs to be developed further by establishing the national level mechanism for knowledge sharing and feedback to the operation.

(1) Mechanism to Share the “Knowledge” at Regional Level

SINAC operation officers at the regional level enhanced their capacity for systematization activities, and appeared to have learned the key issues for promoting participatory approach. They started to reflect the knowledge gained through the systematization process in the future operation and to practice its method to other experiences. The systematization activity has been effective to be aware of the improvement of their activities and to strengthen the relationship further among SINAC officers and the local stakeholders. Experiences in R.N.V.S.B.C. with the empirical evidences are consolidated into the “knowledge” which can be referred to in other Conservation Areas in Costa Rica and outside

the country.

All of the above achievement is owing to a high motivation of the regional level officers.

(2) Mechanism to Share and Feedback the “Knowledge” for Policy and System at SINAC Level

It was highly effective that network with other Central American countries’ participants has been promoted through the regional seminars and through the presentation at the meeting of CCAD.

As for the responsible entity for promoting the knowledge, at the time of the Mid-term review, it was considered as a positive factor that the Department of Citizen’s participation and Governance was established. Therefore, it is expected that the Department would take the main role of analysing the systemized knowledge from regional officers and shared it at the SINAC level.

The Department currently conducts the activities in Participation Action Plan under SINAC Strategic Plan. However, actual involvement of the officers in Citizen’s Participation and Governance Department has been relatively limited in compiling the systematized knowledge at SINAC level.

The responsible entity of the systematized “knowledge” sharing mechanism at the SINAC level has not been implemented yet at the time of the Terminal Evaluation. This is largely due to the following reasons:

- The department was newly established about two years ago so their participation in the Project activity is relatively short compared with the regional officers. Also, the specific work items of the department (terms of reference) are in the process to be defined; therefore, it was difficult to incorporate the Project activities in the context of the work of the Department.
- The research coordinator C/P has not been assigned since 2015. This post was expected to be the main SINAC-SE officer to consolidate the “knowledge” necessary at the SINAC level.
- The definition of “knowledge” and “systematization” has not been clearly defined who are the target users of the systemized “knowledge”. For strengthening the policy and system, not only the officer at regional level but also SINAC-SE officers are the target users; however, the systematization activities have been more focused attention on the regional officers rather than SINAC-SE officers.

5-3 Efficiency

The efficiency of the Project is fair in terms of inputs, activities and results produced with SINAC’s project liaisons officers. All national and international seminars have been carried out in the appropriate manner, have progressed and the dissemination of the project results has been implemented as planned.

On the other hand, the effectiveness in the activities at national level was constrained mainly by the absence of a research coordinator and the limited participation of personnel of the Department of Citizen Participation and Governance. A significant delay has been identified in the Payment for Payment for Environment Services (PES) monitoring system, compared to the original schedule, however at the time of the terminal evaluation, it is expected to proceed with the consultant's contract and scheduled to complete the system, before completing the project.

Some delays in the Project activities can attribute to highly diversified inputs required. Reasons for the increase in the number of activities can be due consideration of that diversity of participatory approach since the beginning of the identification work of participatory experiences. As a result, the Project has

FAS
45
KW
mm

produced a variety of outputs such as various reports and guidelines, policy, and information system of which all related to issues on participatory biodiversity conservation. Those could be more selected and focused on the most important issues in relation to the project purpose and overall goal.

5-4 Impact

(1) Perspective of Achievement of Overall goal

(As described in "Achievement of Overall Goal")

(2) Other Impacts

Other impacts are already found in the following points:

- R.N.V.S.B.C. management promoted for the Ministry of Agriculture and Livestock (MAG), the Ministry of Public Education (MEP) local offices and other institutions to develop activities of sustainable agricultural production and environmental education in the refuge and the surrounding communities.
- A series of reports on experiences of participatory approach in R.N.V.S.B.C., are planned to be utilized in other countries through projects supported by other donors such as the Project to reinforcement of the capabilities for the sustainable regional management of the Mesoamerican Biological Corridor in Guatemala developed between Costa Rica, Mexico, Guatemala and GIZ. In addition, the manual of systematization on participatory experiences was introduced to the Biological Mesoamerican Corridors Project by the National Biological Corridor Program of SINAC and it will be presented to other international and regional seminars
- National Forest Fund (FONAFIFO) has participated in the training of the participatory methodology for environment monitoring (MAP) of the Project, and they applied it to the farms benefited by the PES program, utilizing trap cameras in monitoring points.

5-5 Sustainability

Prospective for Sustainability of the Project is moderate at the time of the Terminal Evaluation.

The sustainability of the Project in association with the policy and institutional, organizational, financial and technical aspects is as follows.

(1) Policy and Institutional Aspects

Participatory approach is emphasized in the current Costa Rican National Development Plan 2015-2018 conservation and sustainable use of biological resources. The current government highlights the importance of the governance issues, thus the political support for the participatory approach in biodiversity conservation is evident. There is a possibility that this priority may change with time and the future administrations.

(2) Organizational Aspect

The current institutional setting of the Citizen's Participation and Governance with five staff, one chief and 4 staff, is insufficient to operate seven themes such as Indigenous, Environment Education, Volunteers, Governance Model, Strategic Alliance, Biological Corridor, and National, Regional and Local Councils. In this situation, there may some concerns for sustainability of the Project in the implementation of Participatory Action Plan under SINAC Strategic Plan and analysing, sharing and feedback the knowledge in the policy decisions and SINAC operation.

(3) Financial Aspect

A budget item of “systematization” has been recently introduced in SINAC, which might be considered part of the impacts from the Project. Under this budget item, each regional office can obtain the resources to execute systematization actions. This is an important channel for securing the budget to continue the Project activity on the systemization.

As confirmed at the Mid-term review, the current government had been suffered from shortage in government budget and therefore undertaken budgetary cut for governmental organizations. This might also affect the regular budget of SINAC. However, cooperation can be received for the participative conservation partly through alliances among public and/or private organizations.

At this moment, efforts by SINAC to provide continuity to the activities developed by the project are identified.

(4) Technical Aspect

As confirmed at the time of the Mid-term Review, the skills of C/Ps in R.N.V.S.B.C. would likely be sustained, and it is expected to continue with inter-agency coordination and the local population/community to continue to transfer their skills in other similar protected areas. Systematization method of the participatory approach is also expected to be sustained and shared by project liaison officers since some of them have already have experience teaching this method to other personnel of SINAC and others national and international institutions.

The capability of knowledge management in the Conservation Areas has developed sufficiently, while at SE level there has not been enough participation and the systematization activities and the responsible entity has not undertaken such function at this moment.

6. Conclusion

In conclusion, the Project is evaluated to be satisfactory with some conditions. The Project has been effective in systematizing and sharing the experiences information with the Conservation Areas and outside of Costa Rica. However, more skills/capabilities for the systematization of experiences methodology, must be developed at a central level and the respective institutional entity conducts the “knowledge” management to feedback to policy formulation in the future, and the biodiversity conservation participatory management to further assure the sustainability of the Project activities. In terms of efficiency, some activities at SINAC-SE were delayed in comparison to the original plan due to the non-existence of the necessary conditions at a SE level to be involved more actively in the Project at some time. Activities at regional operation level, however, responded better in conducting the Project activities. In order to achieve the Project purpose, by the time of the project completion, it is essential and critical to determine the responsible entity for implement “knowledge” management from regional experiences.

7. Recommendations

On the basis of the above results, the Terminal Evaluation Team made the following recommendations.

For the Remaining Period of the Project Implementation,

(1) Designation of the Responsible Entity for Knowledge management

In order to assure the sustainability of the outputs by the Project, the responsible entity at SINAC SE should be designated for the systematized “knowledge” sharing mechanism before the Project completion. It should be noted that the strategic plan of SINAC 2016-2026 designates Department of Conservation and Sustainable Use of the Biodiversity and Ecosystem Service as the entity responsible for this matter.

According to the discussion with executive director of SINAC, the following management and function structure is proposed:

【Tentative Idea of Responsible Entity】

Leader

SE Technical Director

Support Team

- ✓ Chief of Department of Citizen Participation and Governance and its members
- ✓ Chief of Department of Conservation and Sustainable Use of the Biodiversity and Ecosystem Service and its members
- ✓ Regional Technical Directors, Citizen’s Participation and Governance liaison officers and related staff

Recommended activities:

Undertake the following subjects in the Technical Directors meetings that are held periodically (Technical Directors Forum):

- Revise the future reports of systematization that are recently compiled experiences and the experiences to be compiled in the future by the Conservation Areas
- Evaluate the future reports of systematization for the publication in SINAC website
- Analyse the lessons learned from the systematization reports to provide feedback of the lessons learned to the participatory management of biodiversity and related new policy formulation.

(2) Official Approval on the Documents Produced by the Project

It is recommended that critical outputs of the Project in the following will be officially approved.

- Manual of Participatory Management of National Wildlife Refuge
- Manual for Systematization of Participatory Management in the Conservation of Biodiversity in the National System of the Conservation Areas
- General guideline for Systematization Experiences of Participatory Biodiversity Conservation in the SINAC
- Keys for the promotion of participatory conservation in the SINAC based on the experiences from 11 Conservation Areas
- Reports of Sistemization Experience
- Zoning Manual

FAJ
SAS
KLW
ZM

- PES Impact Monitoring System
- Participatory Environment Monitoring Program
- Protocol of Jaguar Monitoring for PRONAMEC
- Action Plan of Macro Process of Citizen's Participation and Governance

(3) Final Seminar targeting Executive Secretary Members Regional Directors and other Instances.

It is recommended to hold a final seminar, to share all the results of the project, especially targeting officials of the Executive Secretariat and the Conservation Areas. In addition to this, a project closure event is proposed to provide information and feedback to decision-makers from public, academic and private sector institutions (NGOs and others) to obtain political support in the promotion of participatory conservation. On the other hand, to hold a session in the CONAC to present to the higher levels on achievements, lessons learned from the Project.

For after the Project Completion

(1) Continuing the Operation Cycle of the Systematization of the Experiences

It is desirable that designated authority for the mechanism to share the systemized "knowledge" will continue the operation cycle of the systematization of the experience: namely reviewing, sharing the knowledge based on the experiences in each region, and undertaking the feedback to the operation for improvement. Upon reviewing and revising the key issues to be shared, it is important to consolidate them in view of ease of reference for target users to feedback them to the policy, system, or activities in Participatory Biodiversity Conservation. Target users are assumed to be SINAC-SE personnel and officers at regional level.

(2) Ensuring the Budget for Continuing the Project Activities

There is already the budget item for the systematization. For continuing the systematization activities, it is desired that SINAC will have the budgetary support for continuing activities of each Conservation Area. It is also expected that other activities initiated by the Project, such as participatory environmental monitoring, will have continuous financial support.

(3) Continuing and Developing Cooperation with International Organizations for Sharing Participatory Biodiversity Conservation Experiences and Data

The Project has conducted seminars and event activities with Regional organizations, such as the secretariats of international treaties (e.g. Convention on Biological Diversity (CBD) and Ramsar Convention) and other donors such as CCAD's Regional Framework of Environmental Strategy and the projects of GIZ, supporting the National Biological Corridors Program in Costa Rica and Mesoamerica Corridor Program. It is recommended that the network with these organizations developed through the Project be continued and further strengthened after the Project completion.

FAT
sus
KLW
mm

8. Lessons Learned

Effect of the Systematization Process for the Participatory Biodiversity Conservation Experiences

Many regional officers expressed that the systematization process itself has contributed to the improvement of their operational activities since the process made them analyze and reflect about their own practices and obtain lessons learned to improve their tasks and strengthen the relationship with other key related organizations to promote participatory approach. They are now more confident and motivated for their daily work as a result of the systematization exercise. It should be noted that the process is useful, particularly for the countries with long-term experience on conservation in order to consolidate and transform “tacit knowledge” into “explicit knowledge.”

9. Other important findings

Other important findings to be noted are:

- The regional liaison officers assigned by the Project have been key in the success of the Project to strengthen the local capabilities.
- There have been very good relationships with the Conservation Areas Directors.
- It is necessary that an equal structure between SE and AC exists like a “mirror”, in terms to having a post in the AC corresponding to the work of the Citizen Participation and Governance Department.
- SINAC must consider the necessary support in the administrative management for the cooperation project implementation in terms of physical spaces, human resources and logistics among others.

END

FATJ
SAS
KCU
mm

Schedule of the Terminal Evaluation team of JICA

Date		Time	Activities
24-Sep	SUN		Ms Mishima (Evaluation Consultant) arrival
25-Sep	MON	09:00-12:00	Meeting w/ JICA Costa Rica Office & MAPCOBIO experts
		13:00-14:00	Briefing w/ SINAC: Mr Luis Roja, Project Manager; Ms. Karina Li, Evaluator, Ms Saskia Rodriguez, Evaluator; Ms Fabiola Arquedas, Evaluator
		14:30-15:30	Interview with Director of CUSBSE (Department of Conservation, Sustainable Use of Biodiversity and Ecosystem Services): Ms Zyda Trejos, Chief, and Ms Sonia Lobo, Ms Jenny Asch Corrales, Mr. Carlos Mario Orrego
26-Sep	TUE	09:00-10:30	Interview w/ SINAC Project Manager: Mr Luis Rojas Bolaños
		11:00-12:30	Interview w/ staff of PCG (Department of Citizen Participation and Governance) Mr. Jairo Sancho Rodriguez (Biological Corridor)
		14:15-16:15	Interview w/ SINAC Technical Director: Ms Guisselle Mendez
27-Sep	WED	09:00-11:00	Interview w/ PCG (Department of Citizen Participation and Governance): Ms Cecilia Montero (Volunteer), Mr Adolfo Sanchez (Environmental Education and Indigenous people), Ms Cindy Sanchez (Strategic Alliance)
		11:00-12:45	Interview w/ PCG (Department of Citizen Participation and Governance): Mr Fernando Quiroz, Chief
		14:15-17:45	Interview w/ Japanese Experts
28-Sep	THU	8:45-10:00	Interview w/ Ministry of Agriculture and Livestock (MAG) Mr. Gabriel Mora
		10:00-11:00	Interview w/ ACTo Director: Ms Laura Rivera
		11:30-12:30	Interview w/ ACTo staff, participatory monitoring: Mr Sebastian Bonila, community monitoring: Ms Lorely Soto, environmental education: Ms.
		13:45-14:15	Interview w/ Ministry of Public Education (MEP), Ms. Yerlin Sancho Acuña, Pedagogy and Science
		15:00-16:45	Interview w/ ASP (Protected Area) Director, ACTo : Ms Marina Elena Herrera
29-Sep	FRI	10:00-11:30	Site survey: R.N.V.S.B.C, Interview w/ ASOLVI, Linda Vista
30-Sep	SAT		Preparing M/M draft
1-Oct	SUN		Preparing M/M draft Mr Hasegawa & Mr Inagawa (JICA) arrival
2-Oct	MON	10:30-12:00	Meeting w/ JICA Costa Rica Office & MAPCOBIO experts
		PM	Interview w/ MAPCOBIO experts Mr Morita (JICA) arrival
3-Oct	TUE	10:00-11:30	Interview w/ SINAC Executive Director: Mr Mario Hidalgo
		15:00-15:00	Courtesy call to MINAE Vice Minister: Ms Patricia Cordero
4-Oct	WED	AM	Seminar in La Amistad Pacifico Conservation Area
5-Oct	THU	10:00-12:30	Interview w/ Project Liaison Officers (Enlaces): Mr Braulio Navarro, ACMIC; Mr Pablo Badilla, ACG; Ms Laura Diaz, ACOSA
6-Oct	FRI		Revising M/M draft
7-Oct	SAT		Finalizing/Translating M/M draft
8-Oct	SUN		Finalizing/Translating M/M draft
			Site survey: R.N.V.S.B.C
9-Oct	MON	9:00	M/M meeting
		17:00	Meeting w/ SINAC Executive Director: Mr Mario Hidalgo
10-Oct	TUE	9:00	M/M meeting
11-Oct	WED	9:00-11:00	Joint Coordinating Committee

FAJ
SAC
KLW
mm

Annex 2. Project Design Matrix (Proposed Version 2.0)

Project Title: Promotion of Participatory Biodiversity Conservation in Costa Rica

Target Group: SINAC, MINAE, Local Residents of the RNVS BC, Relevant Agencies to the Biodiversity Conservation of Costa Rica and Central American Countries*.
 (*Those agencies participated in the seminars held by the Project)

Date: 4 November 2015

Target Area: Barra del Colorado National Wildlife Refuge and the Conservation Areas

Period: April 2013 – March 2018

Narrative Summary	Objectively Verifiable Indicator	Means of Verification	Important Assumption
Overall Goal The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.	1. Existence of projects and/or policies in Costa Rica and Central American countries that contributed to participatory biodiversity conservation. 2. Network established by the Project in and outside Costa Rica will be sustained, with 50 participants and more and introduction of new issues on participatory biodiversity conservation.	● SICAC-CCAD Reports ● SINAC Reports ● Interview to CCAD representative, focal person of CCAD Central American countries, SINAC CP and relevant agencies to the Biodiversity Conservation in other countries in Central America	● The general public perceives the importance of the biodiversity in Central America.
Project Purpose A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica.	1. In each Conservation Area, at least one case of utilizing the knowledge consolidated by the Project 2. At least 50 persons in relevant agencies to biodiversity participated in network established by the Project, exchanging the knowledge and discussing on the issues on participatory biodiversity conservation. 3. A responsible section of SINAC for knowledge sharing is determined and develops a mechanism (e.g. homepage) to keep updating relevant data.	● SINAC Report ● Interview to counterparts, Japanese experts, and main stakeholders in each Conservation Area (interviewees selected by purposive sampling from various sectors) ● SINAC website ● CCAD website	● Participatory biodiversity conservation remains as a priority in government policy ● The biodiversity conservation is an important policy in Central America.

FAJ
 SUS
 KLU
 Zm

	4. The responsible section of SINAC for knowledge sharing with foreign countries develops a partnership and establish a mechanism (e.g. homepage linkage) to share knowledge with regional initiatives such as CCAD.		
Output 1. Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination.	1.1. Participatory Biodiversity Conservation Guideline in Wildlife Refuge based on the experiences in R.N.V.S.B.C. is published.	● Participatory Conservation Guideline Officially approved and published guideline on Participatory Biodiversity Conservation in the Wildlife Refuges. ● Counterpart personnel and other project related actors such as project liaison officers are continuously assigned.	
Output 2. Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.	2.1 Reports produced in Costa Rica in below are analyzed and empirical knowledge is integrated in a handbook for participatory biodiversity conservation under the initiative of SINAC. ✓ 12 reports about SINAC experience (SE and 11 ACs) ✓ One report about the creation and development process of SINAC, including formulation experience of the Biodiversity Law ✓ 4 thematic reports 2.2 SINAC has a guideline and the officially approved methodology for the systematization of experiences of the Participatory Biodiversity Conservation.	● Research reports of the Project ● Minute of meeting or official letter of guidelines and methodology	

Output 3. Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.	3.1 At least 1 policy and 4 tools for participatory biodiversity conservation are proposed.	● Activity Report of the Project ● Interview to counterparts ● Proposed policies or tools	
Output 4. Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.	4.1 At least 12 events are implemented in Costa Rica to share the knowledge about Participatory Biodiversity Conservation consolidated by the Project. 4.2 At least 20 reports, guidelines, and presentation materials of the Project are published on SINAC Website 4.3 Knowledge sharing network about Participatory Biodiversity Conservation inside Costa Rica and among Central American countries is established. 4.4 Costa Rica's experiences on participatory biodiversity conservation is shared to CCAD at least twice. 4.5 Costa Rica's knowledge on participatory biodiversity conservation is presented in international events or seminars at least 10 times. 4.6 More than 80% of respondents to the questionnaire understand the content of the national and international events/seminars held by Costa Rica	● Reports of seminars and workshops ● SINAC Website ● Plan and actual established network ● CCAD Reports ● Activity Reports of the Project	
Activities 1-1 Promote sustainable production in R.N.V.S.B.C.. 1-2 Promote awareness rising on participatory management of R.N.V.S.B.C..	Inputs Japanese side will assign following: A) Chief Advisor: 12 MM x 5 years B) Project Coordinator for Research and Seminar: 12 MM x 5 years		Pre-Conditions ● Enough number of Costa Rican Staff is designated.

FAT
SES
KLW
Zm

1-3 Promote participatory approaches through existing mechanisms such as Local Councils and Management Plan of R.N.V.S.B.C.. 1-4 Prepare participatory biodiversity conservation guideline in Wildlife Refuge based on R.N.V.S.B.C.'s experiences. 2-1 Establish the Research Advisory Committee for the Project. 2-2 Define the research themes to document the knowledge with the advice of the Research Advisory Committee of the Project 2-3 Conduct the research. 2-4 Systematize research results 3-1 Strengthen the "unit" of Citizen's Participation and Governance 3-2 Conduct activities for improvement of policies and tools for participatory biodiversity conservation 4-1 Hold national seminars and workshops in Costa Rica 4-2 Put reports, guidelines, presentation materials, and other products of the Project on SINAC Web site or other relevant platform 4-3 Build network among persons related to participatory biodiversity conservation in Costa Rica and Central American countries 4-4 Present knowledge consolidated through project at CCAD 4-5 Participate international events and hold international seminars and workshops	C) Field Coordinator for participatory management of the protected areas: 12 MM x 5 years D) Short-term Experts E) Budget will be allocated for the following items: A) Contracts for professional services for research, studies and the systemization of the experiences. B) National seminars and workshops C) International seminars D) Pilot activities for participatory management E) Project administrative costs F) Office and field equipment and vehicles for the Project implementation. Costa Rican side will assign following: a) Project Director: Executive Director of SINAC b) Project Manager c) Research Coordinator d) Participatory Management Coordinator: Director of ACTo e) Barra del Colorado National Wildlife Refuge staff f) Project liaison officers g) Coordinators of participatory environmental monitoring h) Other staff relevant to the Project activities Costa Rican side will secure the following: a) Project offices and costs for maintenance. b) Transportation costs for the project counterpart staff, including fuel, vehicles and its maintenance c) Costs for communication such as internet and telephone. d) Food and lodging costs for the national seminars and workshops e) Other necessary and feasible costs
--	--

FAT
SAS
KLW
mm

Plan of Operation (Jan. 2015-Mar. 2017: ver 8 Sep. 2017)

Annex 3

Activities		2015 JFY			2016 JFY												2017 JFY												Responsible Unit/Personnel
		J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D	J	F	M	A	M	J	J	A	S	O	N	D	J	F	M	CR: Costa Rica, J: Japan
Output 1. Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination.																													
1-1. Promote sustainable production in R.N.V.S.B.C..	Plan	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(CR) Local Management Program Staff in Protected Area Management R.N.V.S.B.C., ACTO	
	Actual	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(J) Project Coordinator/ Participatory Monitoring	
1-2. Promote awareness rising on participatory management of R.N.V.S.B.C..	Plan	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(CR) Manager R.N.V.S.B.C., Environmental education Staff R.N.V.S.B.C., Investigation Staff, ACTO	
	Actual	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(J) Project Coordinator/ Participatory Monitoring	
1-3. Promote participatory approaches through existing mechanisms such as Local Councils and Management Plan of R.N.V.S.B.C..	Plan	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(CR) ASP Director of ACTO, Manager R.N.V.S.B.C., Marina Costero Program Staff of ACTO	
	Actual	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(J) Project Coordinator/ Participatory Monitoring	
1-4. Prepare participatory biodiversity conservation guideline in Wildlife Refuge based on R.N.V.S.B.C.'s experiences.	Plan									X							X	X	X	X	X	X	X	X				(CR) ASP Director of ACTO, Manager R.N.V.S.B.C., Other staff assigned from R.N.V.S.B.C.	
	Actual									X							X	X	X	X	X	X	X	X				(J) Project Coordinator/ Participatory Monitoring	
Output 2. Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.																													
2-1. Establish the Research Advisory Committee for the Project	implemented in 2013																											(CR) Project Director, Project Manager (J) Chief Advisor	
2-2. Define the research themes to document the knowledge with the advice of the Research Advisory Committee of the Project	implemented in 2014																											(CR) Project Manager, Research Coordinator (J) Chief Advisor	
2-3. Conduct the research	Plan	X	X	X																								(CR) Research Coordinator	
	Actual	X	X	X																								(J) Project Coordinator/Research Seminar Coordination	
2-4. Systematize research results	Plan				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(CR) Project Manager, Research Coordinator	
	Actual				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(J) Chief Advisor, Project Coordinator/Research Seminar Coordination	
Output 3. Policies and tools for participatory biodiversity conservation are proposed in Costa Rica.																													
3-1. Strengthen the 'unit' of Citizen's Participation and Governance	Plan	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(CR) Chief of Department of de PCG, Project Manager	
	Actual				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(J) Chief Advisor	
3-2. Conduct activities for improvement of policies and tools for participatory biodiversity conservation	Plan	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(CR) Chief of Department of de PCG and CUSCIBES, staff assigned from each department, and Project Manager	
	Actual	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(J) Chief Advisor, Coordinador del Proyecto de Conservación de la Biodiversidad	
Output 4. Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.																													
4-1. Hold national seminars and workshops in Costa Rica	Plan	X	X	X	X	X									X	X	X	X	X	X	X	X	X					(CR) AC directors and project liaison officers	
	Actual	X	X	X	X	X	X	X							X	X	X											(J) Project Coordinator/Research Seminar Coordination	
4-2. Put reports, guidelines, presentation materials, and other products of the Project on SINAC Web site or other relevant platform	Plan				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X		X		X									(CR) Project Manager, Chief and Staff assigned from Department of TIC	
	Actual				X	X	X								X		X											(J) Chief Advisor and Project Coordinator/Research Seminar Coordination	
4-3. Build network among persons related to participatory biodiversity conservation in Costa Rica and Central American countries	Plan				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(CR) Project Manager and Chief of PCG	
	Actual				X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	X	(J) Chief Advisor	
4-4. Present knowledge consolidated through project at CCAD	Plan				X										X		X											(CR) Project Manager and Chief of PCG	
	Actual						X								X		X											(J) Chief Advisor	
4-5. Participate international events and hold international seminars and workshops	Plan			X		X	*1			X		X	*2	X	*3			X		X	*4	X	*5					(CR) Project Manager, Chief of PCG and other staff assigned	
	Actual			X		X				X		X						X										(J) Chief Advisor and Project Coordinator/Research Seminar Coordination	

*5. Mesoamerican society of Biology and Conservation

Evaluation Grid -Terminal Evaluation on Project for Promotion of Participatory Biodiversity Conservation

1. Achievement of the Project

Evaluation Questions		Basis for Judgment	Data required	Data Source / Data Collection Methods
Main Items	Sub Items			
Has been the inputs to the Project implemented as planned?	Has been the inputs from the Japanese side to the project implemented as the plan?	Difference between the plan and actual	• Actual inputs	• Data and information provided by the Project
	Has been the inputs from the Costa Rican side to the project implemented as the plan?	Difference between the plan and actual	Ditto	Ditto
Has been outputs of the project produced as planned?		Indicators set in PDM Ver.2	• Actual outputs	Ditto
Is the Project Purpose expected to be achieved by the completion of the Project?		Indicators set in PDM Ver.2	• Prospect of achievement of the Project outputs	Ditto
Is the overall goal expected to be achieved?		Expectation of the achievement of the overall goal as a result of the achievement of the Project Purpose	• Examples or Probability of the Project outputs to apply to national and other countries' policies and schemes	Ditto
What are factors affecting achievement of the outputs and the project purpose?		- Fulfillment of important assumptions set in the PDM - Other external factors	Information and data on important assumptions and other factors	Ditto

*"Knowledge" in the Project Purpose "A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica."
"is defined as "those which systematize the background where a policy, program or activity was implemented, its process of implementation, relationship between action and effects or results, biological and socio-economic impacts, related issues, lessons learned and points to improve" (Record of Discussion of the Project, signed on Feb. 4, 2013).

FAJ
SLS
KWW
ZM

2. Implementation Process

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Have the Project activities been implemented as planned?		- Comparison of the planned activities indicated in PDM with the actual activities implemented - Existence of added or cancelled activities and their reasons	- PDM Ver. 2 and PO - Implementation status of the planned activities	- Project reports & references review - Minutes of Meeting of JCC - C/P Interview - Japanese Experts interview
Has the Project been managed properly?	Has been the current project implementation structure functioned effectively and efficiently?	- Adequacy of demarcation of roles and responsibilities taken by C/Ps and Japanese experts - Adequacy of implementation of structure and demarcation of roles and responsibilities taken within C/Ps (head and local offices) - Adequacy of coordination and implementation structure with relevant governmental organizations (MAG, MINAE, INDER, etc.) and committees (CONAC, CORAC, COLAC, etc.)	- Change of SINAC's organization structure and jurisdiction after 2016 - Project implementation structure/system - Decision making mechanism - Situation of project management	Ditto
	Has Project been monitored appropriately?	- Effectiveness of the JCC monitoring the project progress - Effectiveness of the Research Advisory Committee monitoring the research plan and results	- Evaluation and monitoring results and advices by JCC - Advises by Research Advisory Committees	- Project reports & references review - Minutes of Meeting of JCC - C/P Interview - Japanese experts interview
	Is there no problem in the communication between the C/P and Japanese experts?	Regular and enough communication between C/P and Japanese experts	Frequency of communication between experts and C/P	- Project reports & references review - C/P interview - Japanese experts interview
Have the Initiatives of the Costa Rican side been sufficient for the Project progress?	How has been the degree of participation/ownership of C/P sufficient for the Project progress?	- C/P's' full understanding on the objectives, progress and issues to be improved of the project - C/P's initiatives in getting engaged in the project activities	- C/P's level of understanding on the Project - C/P's level of participation to the Project activities - C/P's roles and responsibility of the project and daily job	Ditto

Annex 4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Are there any factors affecting the progress of the Project?	Are appropriate post/personnel allocated as C/P?	Consistency of the Project objective and assignment of C/P in terms of organization, department and personnel capacity	- Involvement of organization, department and personnel necessary for the project (from the "Unit" of Citizen and Governance and other relevant units in SINAC, and also other relevant governmental organizations)	Ditto
	How has been the degree of participation/ownership of the target local government and residents in R.N.V.S.B.C?	- Full understanding of the target local government and residents on the objectives, progress and issues to be improved of the project. - Initiatives of getting engaged in the project activities by the target local government and residents	Level of participation of the target local government and residents to the project activities Ditto - Local government interview - Local residents interview	
	Are there any negative factors impeding the project implementation?		- Any specific problems and constraints causing delays	- Project reports & references review - C/P interview - Japanese experts interview
	Are there any positive factors promoting the project progress?		- Any specific issues which contributed to the project progress	Ditto

* R.N.V.S.B.C: Refugio Nacional de Vida Silvestre Barra del Colorado

FAJ
SES
KLW
Zm

3. Five Evaluation Criteria

Relevance

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Are the Project Purpose and overall goal still consistent with national strategy, policy and plan in Costa?		- Priority on the participatory biodiversity conservation in the policy and development plan of Costa Rica after the project started	Costa Rican national development plan and related policies on participatory biodiversity conservation, such as: - Plano Nacional de Desarrollo (2015-2018) - Política Nacional de Biodiversidad (2015-2030) - Plan Estratégico SINAC (2016-2026)	- Governmental reports and development plans
Are the Project Purpose and overall goal still consistent with regional strategy in Central America?		- Priority on the participatory biodiversity conservation in the policy and development plan of Central America	Regional policy/ strategy related on participatory biodiversity conservation, such as "Estrategia Regional Ambiental Marco 2015-2020"	- Regional organizations' reports and development plans
Is the Project approach appropriate to meet the needs of main target group*?	Is the Project appropriate as a strategy for producing an effect to dissemination of participatory biodiversity conservation in Costa Rica and other Central American countries?	- Appropriateness of the project approach/design as the means of achieving the project purpose and overall goal - Existence of inconsistency and problems of PDM	- Evaluation on the project approach/design by project related personnel - PDM Ver. 2	- Japanese experts interview - Costa Rican Stakeholder interview (C/P and other target group organizations)
*<u>Target Group</u>: MINAE, SINAC, Local residents of the R.N.V.S.B.C. relevant agencies to the biodiversity conservation in Costa Rica and Central American Countries <u>Target Area</u>: the R.N.V.S.B.C and the Conservation Areas	Is the selection of target area/group appropriate?	- Consistency of the needs of the target area/group and the project purpose and overall goals - Applicability or referential usability of the knowledge from R.N.V.S.B.C. experience to other areas/groups - Needs for exchanging the experience of participatory biodiversity conservation in other countries in Central America	- Needs for systematizing and sharing the knowledge on participatory biodiversity conservation in Costa Rica and other countries - Needs of local government and residents for participatory biodiversity conservation - Current situation in other areas where requires participatory biodiversity conservation	- Japanese experts interview - Costa Rican Stakeholder interview (C/P and other target group organizations)

Annex 4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Is the project in line with the Japan's ODA policy?		Consistency of the project objective and Japan's ODA policy towards Costa Rica after the project started.	Japan's ODA policy towards Costa Rica - Country Assistance Policy for Costa Rica (Jan.) - Rolling Plan of the ODA projects for Costa Rica (Jan. 2017)	- Japan's ODA policy review
Is there adequate coordination with other international donors?		Demarcation / coordination with other international donors to enhance efficiency and effectiveness	- Evaluation on the project approach/design by stakeholders	- Project reports - International donor project reports

Effectiveness

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Is there any achievement /prospect for achievement of the outputs ?		Achievement of the planned outputs	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")
Is there any prospect for achieving project purpose by the end of the project?		Expectation of achievement of the Project Purpose	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")
Are the Project Outputs expected to contribute to achievement of the Project Purpose as planned?		- Contribution of each output to achievement of the Project Purpose - Sufficiency of the Project Outputs to achievement of the Project Purpose	- Achievement level of outputs - Examples of contributing factors	- Japanese experts interview - C/P interview
Are there any other factors promoting or impeding for achievement of the Project Purpose?		- Fulfillment of important assumptions set in the PDM - Other external factors affecting achievement of the Project Purpose - Internal factors affecting achievement of the Project Purpose	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")

Efficiency

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Appropriateness of the inputs for the	Are the inputs by Japanese side appropriate?	<Japanese experts> - Appropriateness of the number of experts	- Plan of Operation (PO) - Allocation and assignment of experts	- Japanese experts interview - C/P interview

FAJ
SUS
KLU
Zm

Annex 4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Project activities		dispatched, their fields of expertise, and timing and period of dispatch <Training in Japan> - Appropriateness of the number of trainees, their fields, training contents, training period and timing of overseas training <Consulting service contract> - Appropriateness of quality of consultants and timing of contract <Equipment> - Appropriateness of the type, quantity and timing of the installation of equipment	- Past record of overseas training - List of equipment provided - Local costs amount by item	- Project reports & references review
	Are the inputs provided by the Costa Rican side appropriate?	<C/P> - Appropriateness of the number, assignment and skills <Facilities> - Appropriateness of the facilities provided by Costa Rican side <Local cost> - Appropriateness of the local costs from Costa Rican side	- Plan of Operation (PO) - Allocation and assignment of C/P - Condition on facilities provided such as project office - Local costs amount by item	- Project reports & references review
Are the inputs and activities appropriate in achieving outputs?		- Necessity and sufficiency of the inputs for conducting the Project activities. - Necessity and sufficiency of the Project activities for the outputs	- Plan of Operation (PO) - Actual inputs - Actual activities implemented	- Project reports & references review - Refer "1. Achievement of the Project" and "2. Implementation Process"
Are there any impeding or facilitating factors in terms of efficiency?		- Constraints and/or driving forces for efficiency of the Project	- Utilization of inputs for activities - Data related to important assumptions for the outputs	- Project reports & references review - Refer "1. Achievement of the Project" and "2. Implementation Process"

Annex 4

Impact (Prospect of Achieving the Overall Goal at the time of evaluation)

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Is the overall goal expected to be achieved?	Is the overall goal likely to be achieved as a result of the achievement of the Project Purpose?	Indicators of overall goal Logical adequacy of casual relationship between the Project Purpose and the overall goal	(Refer "1. Achievement of the Project")	(Refer "1. Achievement of the Project")
	Are important assumptions affecting or expected to affect the achievement of overall goals?	Fulfillment of important assumptions	Information related to important assumptions for the overall goal	Ditto - Japanese experts interview - C/P interview
Are there any unexpected positive / negative impacts?		Any unexpected positive or negative impacts by the Project	Information of project related personnel	- Project reports & references review - Japanese experts interview - C/P interview

Sustainability (Future Prospect)

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
Are the Project effects likely to be sustainable after the completion of the project?	(Political Aspect) Will the political support by the Costa Rican government be carried on?	- Continuous political support for placing importance on participatory biodiversity conservation	Opinions and information of relevant organizations	- The latest policy papers - Japanese Experts interview - C/P interview - Project reports
	(Institutional Aspect) Will the project effects will be sustainable and disseminated to other areas?	- Any development through the Project experiences in national policy, guidelines, regulations, future plan on participatory biodiversity conservation - Examples of utilization of Guideline in Wildlife Refuge based on the experiences in R.N.V.S.B.C., participatory management experience reports of the conservation areas, and other reports	Ditto	Ditto

Annex 4

Evaluation Questions		Criteria for Judgment	Necessary Data	Data Source / Data Collection Methods
Survey Items	Sub-Survey Items			
		produced by the Project		
	(Organizational Aspect) Are there no problems in SINAC and stakeholder organization system to continue project activities?	- Adequacy of SINAC organization system to implement participatory biodiversity conservation - Appropriateness of involvement of stakeholders in terms of allocation of roles and responsibilities to them	Ditto	Ditto
	(Technical Aspect) Does SINAC has enough skills for sustaining the mechanism to share the knowledge of their participatory approach in and outside Costa Rica?	- Management skills of SNIC personnel to appropriately implement the activities - Skill of SINAC personnel on consolidating the knowledge of the participatory management method, disseminating and sharing such information	Ditto	- Japanese Experts interview - C/P interview - Local government interview - Local residents interview
	(Financial Aspect) Will MINAE and SINAC acquire fund and allocate the budget for sustaining the project effects?	- Funding mobilization capacity of MINAE and SINAC	Budget plan and actual allocation in recent years related to participatory biodiversity conservation	- MINAE/SINAC Annual report - Japanese Experts interview - C/P interview

FAT
SUS
KAW
m

Assignment of Japanese Experts

Long-term Experts

Name	Assignment	Period
Mr. Masaki Osawa	Chief Advisor	2013.4.25~
Mr. Tadao Kikuchi	Project Coordinator/Participatory Protected Area Management	2013.6.5~
Ms. Keiko Ogawa	Project Coordinator/Research Seminar Coordination	2013.6.5~2016.1.29
Ms. Yoko Akimoto	Project Coordinator/Research Seminar Coordination	2016.5.6~
Mr. Wataru Honda	Project Coordinator/Biodiversity Conservation	2017.3.22~

Short-term Experts

Name	Assignment	Period
Ms. Kaori Okayama	Project Coordinator	2016.2.22~2016.4.30
Mr. Ginzo Aoyama	National Park Administration	2017.2.27~2017.3.3
Ms. Yumiko Miyamori	National Park Administration	2017.9.2~2017.9.9

FAT
SUS
KLN
mm

Training of Counterparts in Japan

JFY 2013

No.	Course Title	Period	Participants	Position
1	C/P training on 1st Asia Parks Congress	11/Nov - 23/Nov	Gustavo Induni Alfaro	Research Coordinator, Executive Secretariat, SINAC
2			Mauricio Arias Zumbado	ASP, ACCVC, SINAC Manager
3			Jeffry Castillo Machado	Tourism Officer, RNVS BC, ACTo, SINAC

JFY 2014

No.	Course Title	Period	Participants	Position
1	Conservation and Sustainable Use of Biodiversity to the Wetland Ecosystems on Community Base	18/May - 7/Jul	Gilberto Chaves Matamoros	RNVS Maquenque, ACAHN, SINAC Administrator
2			Olman Mena Valverde	ACTo, SINAC Natural Resources Manager
3	Extension Methodologies of Organic Agricultural Techniques for Small Scale Farmers for Central America and	22/Jun - 4/Oct	Artibaldo Enrique Chaves Corrales	Producer, RNVS BC, ACTo
4	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation	23/Sep - 14/Oct	Yeimy María Cedeño Solis	ACT, SINAC
5			Miguel Angel Araya Montero	ACTo, SINAC Natural Resources Manager
6	Protected Areas System in Japan and Zoning	22/Nov-9/Dic	Jenny Mayela Asch Corrales	SINAC
7			Luis Gerardo Artavia Zamora	ASP Management, Executive Secretary, SINAC
8			Evelyn Aguilar Mendez	Legal Adviser, ACOSA, SINAC
9			Gidgett Ramirez Hernandez	Legal Adviser, Executive Secretary, SINAC
10			Mariela Montero Leiton	Legal adviser, ACCVC; SINAC
11			Ana Cristina Méndez Esquivel	Legal Adviser, ACAHN, SINAC
12			Martha Elena Jimenez	Legal Adviser, ACLAP, SINAC
13			Aimara Espinoza Ulate	Research Coordinator / Head of Office in San Jose, ACCVC, SINAC
14			Gloria Elena Solano Martinez	Attorney General of the Republic
15			Marco Vinicio Sánchez	Comptroller General of the Republic
16	Sustainable Natural Resource Management through Collaborative Management of Protected Areas	25/Jan/2015 - 14/Feb/2015	Dionni Palmer Brown	ACLA-C, SINAC
17			Dorian Marcelo Méndez Guevara *	ACT, SINAC

FAT
SAS
KLN
m

* Participating in the open courses

JFY 2015

No.	Course Title	Period	Participants	Position
1	Sustainable Use of Wetland Resources for Local Benefit	19/May - 8/Jul	Meryll Arias Quiros	Administrator, PN Tapanti, ACLAP, SINAC
2	GIS and Remote Sensing utilized for Biodiversity Information System and Participatory Approach toward Biodiversity Conservation Actions	1/Jun - 7/Aug	Waldy Medina Sandoval*	ACG, SINAC
3	Regional Development by Sustainable Use of Biodiversity	28/Jun - 25/Jul	Frank Alonso González Brenes *	ACLAP, SINAC
4	Eco-tourism for Sustainable Use of Natural and Cultural Resources(A)	21/Jul - 1/Sep	Carlos Rodriguez Vega*	ACTo, SINAC
5	Sustainable Natural Resource Management through Collaborative Management of Protected Areas	25/Aug - 26/Sep	Juan Carlos Carrillo Espinoza	ACG, SINAC
6	Improvement of Environmental Education Technique for Biodiversity Conservation	31/Aug - 3/Oct	Walter Esteban Bello Villalobos*	Santa Elena Cloud Forest Reserve
7	Participatory Environmental Monitoring	14/Jun - 30/Jun	Joselin Rios Montero	Wildlife Coordinator, Executive Secretary, SINAC
8			Sebastian Bonilla Sanchez	Research manager, ACTo, SINAC
9			Jose Pablo Vasquez Badilla	PEB, ACG, SINAC
10			Miguel Antonio Jimenez Salas	Administrator, ZP Arenal Monteverde, ACAT, SINAC
11			Priscilla Castro Salazar	Natural Resource Management, ACOPAC, SINAC
12			Jose Joaquin Vargas Mora	Natural Resource Management, ACTo, SINAC
13			Jose Manuel Quiros Rodriguez	Wildlife Coordinator, ACAHN, SINAC
14			Jose Carlos Leal Rivera	RNVS Mata Redonda, ACT, SINAC
15			Esteban Mauricio Herrera	Research Coordinator, ACMIC, SINAC
16			Gustavo Jimenez Blanco	Coordinator of Monitoring, Birds and Mammals, ACCVC, SINAC
17			Jorge Arturo Gonzalez	Research Coordinator, ACLAC, SINAC
18			Stephanie Mory Villaseñor	Tourism program, ACOSA, SINAC
19			Enzo Vargas Salazar	PN Chirripó, ACLAC, SINAC

* Participating in the open courses

JFY2016

No.	Course Title	Period	Participants	Position
1	Participatory Biodiversity Conservation	29/May-18/Jun	Patricia Madrigal Cordero	Vice Minister of MINAE
2			Julio Jurado Fernández	Executive Director, Executive Secretary SINAC
3			Gravin Emilio Villegas Rodri	SINAC-ACLAP
4			Dionni Milena Palmer Brown	SINAC-ACLACC
5			Germán Aguilar Vega	SINAC-ACAT
6			Laura Elena Díaz Hernández	SINAC-AOSA
7			Yeimy María Cedeño Solís	SINAC-ACT
8			Lirae Yanini Sancho Chacón	SINAC-ACAHN
9			Olga María Durán Monge	SINAC-ACCVC
10			Juan Pedro Jiménez Chaves	SINAC-ACOPAC
11			Braulio Navarro Cabezas	SINAC-ACMIC
12			Gabriela Gutiérrez Ruiz	SINAC-ACG
13			Sonia María Calvo González	SINAC-ACTo
14			Luis Rojas Bolaños	Executive Secretary SINAC
15			Magalli Castro Álvarez	Executive Secretary SINAC
16	Ecosystem Conservation through the Collaborative Management of Protected	31/Oct-3/Dic	Jairo Gerardo Sancho Rodriguez	Executive Secretary SINAC
17	Improvement of Environmental Education	19/Sep-22/Oct	Christian Alejandro Robles	SINAC-ACTo
18	Technique for Biodiversity Conservation		Mauricio Mendez Venegas	SINAC-ACT
19			Manrique Montes Obando	SINAC-ACAT

FAT
4/5
KLW
mm

List of Equipment

NO	Name of article	Model	Date of purchase	Price (JPY)	Currency	Price (foreign currency)	Location
1	Projector	V11H434021	2013/9/13	80,155	USD	817.57	Heredia
2	Vehicle (Land Cruiser)	1HZ0731468	2013/9/12	4,019,661	USD	41,000.00	Guápiles
3	Vehicle(Prado)	1KD2245775	2013/9/12	3,627,499	USD	37,000.00	Heredia
4	Safe	arca SEYMA: Modelo G-76D, LP 1033C	2013/10/30	97,796	USD	995.00	Heredia
5	Safe	arca SEYMA: Modelo G-76D, LP 1033C	2013/10/30	97,796	USD	995.00	Guápiles
6	Computer	CS702GNC58	2013/10/11	89,441	USD	910.00	Guápiles
7	Projector	H553A PLx24+	2013/11/22	92,850	USD	945.00	Guápiles
8	Projector	H553A PLx24+	2013/11/22	92,850	USD	945.00	Guápiles
9	Computer	35MOXE118780	2013/10/8	92,203	CRC	463,096.50	Guápiles
10	Refrigerator	ATLAS-RAF260LPBBS0	2014/3/26	48,709	CRC	237,490.00	Heredia
11	Video Camara	Panasonic HD HC-V160	2015/12/8	28,255	USD	229.99	Heredia
12	Flat Screen TV Set	SAMSUNG60,UN60FH6003FXZA	2014/3/28	180,486	CRC	879,990.00	Heredia
13	Single Objective Reflex Camera	KCC-REI-NKR-D3200	2014/3/26	164,542	USD	1,610.00	Guápiles
14	Laptop Computer	26789529025	2014/2/17	91,178	CRC	438,988.00	Heredia
15	Laptop Computer	28509689089	2014/2/17	91,178	CRC	438,988.00	Heredia
16	Fotocopier	MX0137425	2014/2/17	790,735	USD	7,717.57	Heredia
17	Fotocopier	MX0136670	2014/2/17	790,735	USD	7,717.57	Guápiles
18	Laptop Computer	Satelite C45-ASP4311FL	2014/2/24	95,714	USD	934.17	Guápiles
19	Computer	M825125SH	2014/2/17	89,450	CRC	430,671.00	Heredia
20	Camera	Canon PowerShot SX50 HS/PC1817	2014/12/10	58,791	USD	500.00	Guápiles
21	Awning	MUNDITOLDOS 6X6 METROS	2015/2/11	134,520	CRC	600,000.00	Heredia
22	Laptop Computer	UX303L	2015/3/24	204,210	CRC	900,000.00	Guápiles
23	Sound Equipment	STAGEPAS150M	2015/1/20	64,480	USD	535.20	Heredia
24	Binoculars -5 units	Vortex Diamond back	2014/12/9	171,666	USD	1,460.00	Guápiles
25	Binoculars -35 Units	Bushnell H2O	2015/3/16	499,926	USD	4,200.00	Guápiles
26	Trap Camera - 20 Units	Bushnell TrophyCom HD	2015/1/12	578,304	USD	4,800.00	Guápiles
27	Digital Camera - 4 Units	Canon PowerShot SX170	2014/12/10	129,338	USD	1,100.00	Guápiles
28	Bird Guide - 40 Units	Birds of Costa Rica	2015/3/20	103,960	CRC	460,000.00	Guápiles
29	Bird Guide - 40 Units	Birds of Costa Rica	2015/3/5	180,000	CRC	800,000.00	Guápiles
30	UPS - 5 Units	Smartbitt NB 1000	2013/10/23	42,145	CRC	212,855.00	Heredia
31	Trap Camera with Safety Chain and Memory Card - 78 Units	119678C Bushnell	2015/3/17	2,994,199	USD	25,155.00	Heredia
32	Portable Hard Drive - 11 Units	SUMSUNG2TB	2015/3/26	138,335	CRC	612,106.00	Heredia
33	UPS	TRIPP LITE SU1000XLA	2016/6/30	54,615	USD	495.00	Heredia
34	UPS	TRIPP LITE SU3000XL	2016/10/21	216,471	CRC	1,164,446.40	Heredia

FAY
SAS
KUN
mm

35	Desk - 2 Units	160x160x60x77 cm	2017/2/24	117,800	CRC	550,000.00	Heredia
36	Folding Board - 4 Units	126.5 x 193 cm	2017/3/28	341,900	CRC	1,665,768.00	Heredia

FAS
 909
 KLN
 2/2/20

Assignment of Counterparts

As of September, 2017

Project Management/Execution Team

No.	Full Name	Function within the Project	Institutional Position	Period
1	Mario Coto Hidalgo	Director del Proyecto	Executive Director, Executive Secretary, SINAC*	2016.7~
2	Julio Jurado Fernández	Project Director	Executive Director, Executive Secretary, SINAC*	2014.10 ~ 2016.7
3	Rafael Gutierrez Rojas	Project Director	Executive Director, Executive Secretary, SINAC*	2013.4 ~ 2014.5
4	Luis Rojas Bolaños	Project Manager	Project Manager	2013.4 ~
5	Almará Espinoza (Currently in Leave of Absence)	Research Coordinator	Research Coordinator (Currently, Chief for San José Office, ACCVC**)	2013.4 ~ 2015.2
6	Laura Rivera	Field Coordinator	ACTo Director	2013.4 ~

Tortuguero Conservation Area

No	Full Name	Institutional Position	Period
1	Maria Elena Herrera*	ASP, ACTo Manager	2013.4~
2	Erick Herrera	RNVS BC Manager	2013.4~
3	Sonia Calvo	Local Management	2013.4~2017.7
4	Lorelly Soto	Local Management	2013.4~
5	Ana Maria Monge	Environmental education(RNVSBC)	2013.4 ~ 2015.10
6	Mariana Jiménez	National Natural Heritage	2013.4~2015.12
7	Sebastián Bonilla Sanchez	Marine Coastal Program	2013.4~
8	Jeffry Castillo	Tourism	2013.4~2015.4
9	Andrea Cruz	Environmental education(RNVSBC)	2017.1~
10	Manuel Antonio Naranjo	Environmental education(ACTo Region)	2015.11~2017.3
11	Manuel Arias Guzman	Control and Protection	2013.4~
12	Christian Robles Puchi	Environmental Education (ACTo region)	2016.1~2016.12(Environmental Education)
13	Elena Vargas	Regional Coordinator of Investigation	2016.1~2017.2(Management Plan)
14	Miguel Araya	Director of Forest and Wildlife	2016.1~2017.2(Management Plan)
15	Diego Arce	Control and Protection	2016.12~

*Also Member of RNVS Commission.

Project Liaison on Conservation Areas

No.	Full Name	Conservation Area	Institutional Position	Period
1	Gabriela Gutierrez Ruiz	ACG (Guanacaste Conservation Area)	Biological Education Program Coordinator	2013.11~
2	Jose Pablo Vasquez Badilla	ACG (Guanacaste Conservation Area)	Biological Educator	2013.11~2016.12
3	German Aguilar	ACAT (Arenal-Tempisque Conservation Area)	Coordinator of the Environmental Education Program and Biological Corridors	2013.11~
4	Lirae Sancho Chacon	ACAHN (North Arenal Huetar Conservation Area)	Environmental Education Program	2013.11~
5	Sonia Calvo	ACTo (Tortuguero Conservation Area)	Community Management	2013.11~2017.7
6	Yelmy Cedeño	ACT (Tempisque Conservation Area)	Administrator of National Wildlife Refuge	2013.11~
7	Olga Duran	ACCVC (Central Volcanic Cordillera Conservation)	Environmental Education Coordinator	2013.11~
8	Juan Pedro Jiménez Chavez	ACOPAC (Central Pacific Conservation Area)	Citizen Participation and Governance	2013.11~
9	Lilliana Rubi Jiménez	ACOPAC	Investigation Coordinator	2017.9 ~
10	Gravin Villegas Rodríguez	ACLAP (Pacific-La Amistad Conservation Area)	Chirripo National Park Manager	2013.11~
11	Olman Morales	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Manager of Environmental Education in Implementing Indigenous Agenda and PILA Administrator	2013.11~2016.5
12	Dionni Palmer	ACLAC	Coordinadora de Educación Ambiental	2016.5~
13	Laura Diaz	ACOSA (Osa Conservation Area)	Forest Reserve officer of Golfo Dulce	2013.11~2016.8
14	Wendy Barrantes	ACOSA	Environmental Education Coordinator	2016.8~
15	Gerardo Chavez	ACOSA	Environmental Education Coordinator in	2016.8~
16	Braulio Navarro	ACMIC (Marine Conservation Area Cocos Island)	Cooperation and Project Coordinator	2013.11~

MAP Coordinators

No.	Full Name	Conservation Areas	Institutional Position	Period
1	José Pablo Vasquez Badilla	ACG (Guanacaste Conservation Area)	Biological educator	2015.4~2016.12
2	Rolando Ramos	ACG (Guanacaste Conservation Area)	Biological educator	2016.1~
3	Gabriela Gutierrez	ACG	Biological educator	2015.4~
4	Miguel Jimenez Salas	ACAT (Arenal-Tempisque Conservation Area)	Arenal Protected Area Manager	2015.4~
5	Jose Manuel Quiros Rodriguez	ACAHN (North Arenal Huetar Conservation Area)	Wildlife Coordinator	2015.4~
6	Sandra Díaz Alvarado	ACAHN (North Arenal Huetar Conservation Area)	Research and Volunteer Program	2015.4~
7	Elena Vargas	ACTo (Tortuguero Conservation Area)	Regional Investigation Coordinator	2015.4~
8	Jose Joaquin Vargas,	ACTo (Tortuguero Conservation Area)	Wildlife Officer	2015.4~
9	Sebastián Bonilla Sanchez	ACTo (Tortuguero Conservation Area)	Coastal Marine Program Manager	2015.4~
10	José Carlos Leal Rivera	ACT (Tempisque Conservation Area)	RNVS Mata Redonda y Palustrino Wetland Corral de Piedra Administrator	2015.4~
11	Gustavo Jimenez Blanco	ACCVC (Central Volcanic Cordillera Conservation)	Marketing and Tourism Program Manager	2015.4~
12	Priscilla Castro Salazar	ACOPAC (Central Pacific Conservation Area)	Technician in Forest Management and	2015.4~
13	Enzo Vargas Salazar	ACLAP (Pacific-La Amistad Conservation Area)	Research Program Manager	2015.4~

FAJ KLU
SES
2/24

Assignment of Counterparts

As of September, 2017

14	Mayhar Shirazini	ACLAP	Administrator of Tapantí National Park	2015.4~
15	Jorge Arturo Gonzales Villalobos	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Research Programme Manager of the Chirripo National Park	2015.4~
16	Stephanie Mory	ACOSA (Osa Conservation Area)	Sustainable Tourism Program ACOSA	2015.4~2017.1
17	Christian Masís	ACOSA (Osa Conservation Area)	Investigation Program of the Department of Wildlife of ACOSA	2017.6~
18	Esteban Herrera	ACMIC (Marine Conservation Area Cocos Island)	Research Coordinator	2015.4~
19	Yocelyn Ríos	SE	Wildlife Management	2015.4~2016.6
20	Carlos Mario Orrego	SE	National Wildlife coordinator	2016.8~
21	Jose Joaquín Calvo	SE	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2015.4~2016.6
22	Eugenia Arguedas	SE	PRONAMEC National coordinator	2016.8~
23	Gustavo Induni	SE	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2015.4~2016.7

Coordinators in the Development of Zoning Guide

No.	Full Name	Conservation Areas	Institutional Position	Period
1	Jenny Ash	SE	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4~
2	Gerardo Arlavia	SE	Macroprocesses Citizen Participation	2013.4~
3	Ana María Monge	Secretaría Ejecutiva	Investigation officer	2016.11~

Partners Involved in the Monitoring System Development of PES

No.	Full Name	Conservation Areas	Institutional Position	Period
1	Sonia Lobo	SE-SINAC (National System of Conservation Areas)	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4~
2	Wilber Sequeira Vindas	SE-SINAC (National System of Conservation Areas)	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4~2017.2
3	Esteban Soto	SE-SINAC (National System of Conservation Areas)	TIC	2017.4~
4	Oscar Sanchez	FONAFIFO (Costa Rican National Forest Financial Fund)	Environmental Services Director	2013.4~
5	Gilmar Navarrete Chacon	FONAFIFO (Costa Rican National Forest Financial Fund)	Head of Department of Control and Monitoring	2013.4~

Partners of the Commission on National Wildlife Refuges

No.	Full Name	Institution	Institutional Position	Period
1	Eugenia Arguedas	SINAC Executive Secretary	Macroprocesses Conservation and Sustainable Use	2013.4~2013.12
2	Norma Rodríguez	ACT (Tempisque Conservation Area)	Wild Protected Areas Manager	2013.4~2013.12
3	Gina Cuza	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Wildlife Areas Manager ACLAC	2013.4~2013.12
4	Wilson Barrantes	ACAHN (North Arenal Huetar Conservation Area)	Asesor Legal ACAHN	2013.4~2013.12
5	Evelly Aguilar	ACOSA (Osa Conservation Area)	Legal Adviser, ACOSA, SINAC	2013.4~2013.12
6	Jose Manuel Quiros	ACAHN (North Arenal Huetar Conservation Area)	Wildlife Manager	2013.4~2013.12
7	Jose Masís	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Manager Wildlife Gandoca Manzanillo Refuge	2013.4~2013.12
8	Earl Junier Wade	ACLAC (Caribbean-La Amistad Conservation Area)	Wildlife Coordinator	2013.4~2013.12
9	Gidilet Ramírez	Executive Secretary, SINAC	Legal Advisory Secretariat	2013.4~2013.12

Department of Citizen Participation and Governance

No.	Full Name	Institution	Institutional Position	Period
1	Magallí Castro	Executive Secretary, SINAC	Chief	2015.7~2017.5
2	Fernando Quiroz	Secretaría Ejecutiva, SINAC	Chief	2017.5~
3	Cecilia Montero	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7~
4	Adolfo Sánchez	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7~
5	Cindy Sánchez	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7~
6	Jairo Sancho	Executive Secretary, SINAC	Macro Process Officer	2015.7~

SINAC*
ACCVC**Conservation Areas National System
Central Volcanic Cordillera Conservation AreaFAJ
S&S
KLW
Zhu

Local Operational Cost (Japanese side and Costa Rican side)

Currency: US Dollars

	JFY2013 (April / 2013 - March 2014)	JFY2014 (April / 2014 - March 2015)	JFY2015 (April/2015 - March 2016)	JFY2016 (April / 2016 - March 2017)	JFY2017 (April - August 2017)	Total
<i>Exchange Rate(JICA) (1USD=Colones)</i>	491.35	533.25	523.90	533.92	554.83	
Local consultants Contract	159,398.00	455,076.00	119,081.97	139,056.35	14,649.08	887,261.40
Courses Implementation costs	4,690.22	9,750.05	17,680.10	76,426.42	32,956.22	141,503.00
Expenses for implementation of activities	68,617.61	39,358.21	48,518.66	25,160.52	2,443.76	184,098.76
Costs for maintenance of official vehicles	8,758.14	15,912.77	11,942.75	11,074.04	3,672.28	51,359.99
Travel Expenses	45,795.83	117,775.47	37,388.09	30,033.70	9,570.28	240,563.38
Staff Use (Driver, Secretary, etc)	29,577.19	65,976.08	51,443.64	51,509.46	28,894.46	227,400.83
Overhead (Project Office, Telephone, Internet Service, Water, Electricity, Cleaning, Security Guard)	25,545.56	28,077.27	25,922.88	18,567.85	4,816.81	102,930.36
Publicity Expenses	12,808.16	41,590.45	3,584.83	56,368.79	40,344.16	154,696.38
Total	355,190.71	773,516.30	315,562.91	408,197.13	137,347.05	1,989,814.10

** Exchange rate: Average JICA official exchange rate during the period of Japan's fiscal year

Operation cost of the project to the Costa Rica Government

Local Operational Cost of Costarican Side

Currency: US Dollars

	JFY 2013-2017
<i>Exchange Rate(JICA) (1USD=Colones)</i>	577
Operation costs	69,788.08 * as of June 2017
Personnel costs	363,305.89 * as of August 2017
Total	433,093.97

FAT
SES
KWW
mm

List of Report Outputs

As of August, 2017

Output 1

Date	Title	Consultant
March, 2015	Research on the effects and impacts of the installation of integrated farms in the National Wildlife Refuge Barra del Colorado and the development of participatory monitoring system (Phase II)	National University (UNA)
March, 2015	Study on existing standards for the production of palm oil, rice and cattle ranching and based farms that meet the standards in the district Gaspar Plain and Linda Vista in the National Wildlife Refuge Barra del Colorado	Biosinergia Alternativa S.A.
March, 2015	Study of Land Tenure in Sector Gaspar Plain National Wildlife Refuge Barra del Colorado (Phase II)	Land and Seas Management consultants OTM S.A
September, 2014	Mapping of existing land use National Wildlife Refuge Barra del Colorado: Phase II)	National Biodiversity Institute (INBio)
March, 2015	Provision for identifying productive potential and marketing of system products integrated farms in the National Wildlife Refuge Barra del Colorado	Mayra López Jiménez
September, 2016	Research Report on the effects and impacts of the installation of the integrated farm system in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge and the development of the participatory monitoring system (Phase III)	National University (UNA)
February, 2017	Draft of General Management Plan (PGM) of the Barra del Colorado National Wildlife Refuge (RNVBC) including marine-coastal zone and taking into account the climate change variables for the elaboration of the draft of PGM	Área de Conservación Tortuguero (ACTo) Team and Daket Capacidades para el Desarrollo S.C.
March, 2017	Manual of Good Agricultural and Environmental Practices for Rice Cultivation in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica	National University (UNA)
March, 2017	Manual of Good Environmental Practices for livestock production in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica	National University (UNA)
March, 2017	Manual of Good Agricultural and Environmental Practices for the cultivation of oil palm in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica	National University (UNA)
June, 2017	Technical guide for the diffusion of Technologies of sustainable agricultural production in integral farms	Área de Conservación Tortuguero (ACTo) and Ministerio de Agricultura y Ganadería(MAG)
June, 2017	Experiences in Rural Community Development and Environmental Education in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge	Ministerio de Educación Pública (MEP) y el apoyo del Área de Conservación Tortuguero (ACTo)
Through the project period	Publicity Materials for Participatory Environmental Monitoring (Calendar and brochures)	Área de Conservación Tortuguero (ACTo)

Output 2

Date	Title	Consultant
March, 2015	Systematization of participatory management in the conservation of biodiversity in the National System of Conservation Areas	SINAC Officials (including the liaisons of the project)
March, 2015	Draft of general guideline for systematizing experiences of participatory biodiversity conservation in the SINAC	Carlos Brenes Castillo Victoria Soto Navarrete

FAT
SUS
KWW
mm

March, 2015	Manual for systematization of participatory management in the conservation of biodiversity in the National System of Conservation Areas	Carlos Brenes
March, 2015 August 2017	Study report on the systematization of national experiences of ecotourism / sustainable tourism and analysis on the contribution of biodiversity in Costa Rica and its publication	Turismo & Conservación Consultores
March, 2015 August 2017	Study report on the history, contribution and the present state of NGOs on biodiversity conservation of Costa Rica and its publication	Sociedad de Estudios para el Desarrollo Rural (SEDER) S.A.
January, 2016 June, 2017	Report of Systematization of the Process of Improvement of Environmental Awareness in Costa Rica and its publication	Hernán González Mejía
February, 2016 July, 2017	Report of Systematization of Experiences of Sustainable Production and Compatibility with the Conservation of Biodiversity in Costa Rica and its publication	Sostenible por Naturaleza
October, 2016	Keys for the promotion of participatory conservation in the SINAC based on the experiences from 11 Conservation Areas	SINAC
March y May 2017	Experiences of Participatory Management of Biodiversity in Costa Rica Volume 1 and 2	MAPCOBIO

Output 3

Date	Title	Consultant
March, 2013	Draft amendment to Article 82 of the law of conservation of wildlife	SINAC Officials
March, 2015	Draft policy and institutional strategy SINAC to promote citizen participation in the conservation of biodiversity	LATIN AMERICAN FACULTY OF SOCIAL SCIENCES (FLACSO)
March, 2015	Draft Implementation Guide Zoning in protected wilderness areas in Costa Rica	Tropical Agricultural Research and Higher Education (CATIE)
March, 2015	Report on the creation of database research with trap camera in Costa Rica	Adolfo Artavia Rodríguez
October, 2015	Design of an integrated information system for monitoring and evaluation program of payment for environmental services	National University (UNA)
March, 2017	Diagnostic Report and proposal for SEMPPSA	Grupo INCO
May, 2017	Manual for Participatory Monitoring of Terrestrial Vertebrates through Trap Cameras in Costa Rica	Johanna Hurtado

Output 4

Date	Title	Consultant
March, 2015	Video of Wetlands of Costa Rica and "spot" for media wedges issued on television under the cooperation framework with MINAE	DOMINIO DIGITAL S.A. (under the Framework of Cooperation with
May, 2017	Presentation of Accounts and Activities Performance of SINAC 2016	Kerigma Comunicacion Grafica S.A.

FAJ
SAS
KLN
mm

List of national seminars and events hosted by MAPCOBIO

No.	Event name	period	Place	Participants
1	National Forum: Wetlands and Agriculture	Feb 28, 2014	Earth University, Costa Rica	132(Costa Rica 132)
2	Environmental Fair 2014	Jun 4 to 6, 2014	San José, Costa Rica	Mr. <u>Luis Rojas</u> , Project Manager MAPCOBIO, SINAC Ms. <u>Sonia Calvo</u> , RNVS BC, ACTo, SINAC Ms. <u>Elvia Corrales</u> , Producer, La Aldea Community Mr. <u>Evaristo Chavarria</u> , Producer, La Aldea Community Ms. <u>Maria Luisa Fernández</u> , Producer, Linda Vista Community
3	National Forum: Participatory Experience of Biodiversity in Costa Rica	Aug 21, 2015	San Carlos, Costa Rica	50(Costa Rica 50)
4	Presentation of the result of systematization in ACMIC	Feb 23, 2016	San José, Costa Rica	11(Costa Rica 11)
5	Presentation of the result of systematization in ACAHN	Feb 29, 2016	Caño Negro, Costa Rica	25(Costa Rica 25)
6	Presentation of the result of systematization in ACCVC	Mar 8, 2016	San José, Costa Rica	60(Costa Rica 60)
7	Presentation of the result of systematization in ACOSA	April 13, 2016	Golfito, Costa Rica	31(Costa Rica 31)
8	Forum of Systematization of Experiences of the Participatory Management for the Biodiversity Conservation (National Park Day)	Aug 22, 2016	PN Volcan Tenorio, Costa Rica	64 (Costa Rica 64)
9	Forum of Participatory Environmental Monitoring (National Park Day)	Aug 22, 2016	PN Volcan Tenorio, Costa Rica	64 (Costa Rica 64)
10	Presentation of the result of systematization in ACT	Sep 21, 2016	Ojancha, Costa Rica	40 (Costa Rica 40)
11	Presentation of the result of systematization in ACAT	Nov 11, 2016	Cañas, Costa Rica	48 (Costa Rica 48)
12	Presentation of the result of systematization in ACG	Nov 12, 2016	PN Santa Rosa, Costa Rica	32 (Costa Rica 32)
13	Presentation of the result of systematization in ACTo	May 4, 2017	Guacimo, Costa Rica	59(Costa Rica 59)
14	Presentation of the result of systematization in ACLAC	May 18, 2017	PN Cahuita, Costa Rica	21(Costa Rica 21)
15	Forum "Historia y Perspectiva del SINAC"	Jun 2, 2017	San José, Costa Rica	110(Costa Rica 110)
16	Forum "Conciencia Ambiental en Costa Rica"	Jun 9, 2017	Heredia, Costa Rica	52(Costa Rica 52)
17	Forum "El papel de sector productivo hacia mainstreaming de la biodiversidad"	Jul 26, 2017	Sarapiquí, Costa Rica	86(Costa Rica 86)
18	Forum "Contribución del sector ecoturismo/turismo sostenible en la conservación de la biodiversidad en Costa Rica"	Aug 10, 2017	Liberia, Costa Rica	89(Costa Rica 89)
19	Water Forum in the Quetzal National Park (Stand)	Mar 18 to 20, 2016	PN los Quetzales	Mr. Luis Rojas, SE SINAC Mr. Masaki Osawa, Chief Adviser of Project

List of international seminars and events hosted by MAPCOBIO

No.	Event name	period	Place	Participants
1	Asian Congress on Protected Areas	Nov 13 to 17, 2013	Sendai, Japón	Mr. <u>Gustavo Induni Alfaro</u> , Protected Wildlife Manager, Executive Secretariat, SINAC Mr. <u>Mauricio Arias Zumbado</u> , Protected Wildlife Manager, ACCVC, SINAC Mr. <u>Jeffrey Castillo Machado</u> , RNVS BC, ACTo, SINAC
2	Mesoamerican Seminar Participatory Management of Protected Areas	Mar 15 to 22, 2014	San José, Costa Rica	28 (El Salvador 2, Guatemala 2, Nicaragua 2, Honduras 6, Panamá 4, Belice 2, Dominican Republic 2, México 2 y Costa Rica 6)
3	VII Iberoamerican Congress on Environmental Education	Sep 10 to 12, 2014	Lima, Perú	Ms. <u>Gabriela Gutiérrez Ruiz</u> , Biological Education Program, ACG, SINAC Mr. <u>Pablo Vásquez Badilla</u> , Biological Education Program, ACG, SINAC
4	Side Event: "A Series of Reviews on International Collaboration for the Aichi Biodiversity Targets: A case of Japan and Partner Nations", CDB COP 12	Oct 14, 2014	Pyeongchang, Korea	Ms. <u>Patricia Madrigal Cordero</u> , Deputy Minister of Environment (MINAE, CR)

FAJ
SLS
KLW
m

5	Side Event : (JICA & UNU-IAS) "The Satoyama Concept: Theory and Practice", Congreso Mundial de Parques	Nov 14, 2014	Sydney, Australia	Mr. Julio Jurado Fernández, Executive Director, SINAC
6*	Official commemoration: World Wetlands Day	Feb 23, 2015	Santo Domingo, Costa Rica	113 (El Salvador 3, Nicaragua 2, Honduras 2, Panamá 2, Belice 2, Dominican Republic 2, México 2, Costa Rica 95, Swiss 1)
7	Wetlands for our future Regional Seminar: Join us!	Feb 23 to 27, 2015	Santo Domingo, Costa Rica	28 (El Salvador 2, Guatemala 2, Nicaragua 2, Honduras 2, Panamá 2, Belice 2, Dominican Republic 2, México 2 y Costa Rica 12)
8	Side Event in 4th World Congress of Biosphere Reserves, Discussion on plency of the MAB Programme to advance the Mesoamerican Biological Corridor by promoting synergies of international aid agencies	Mar 16, 2016	Lima, Perú	Ms. Gladys de Marco Gonzalez Chief of sub regional office of ACCVC, Alajuela
9	Seminar of participatory management of protected areas in Costa Rica and Japan	Jun 16, 2016	Tokyo, Japan	100(Costa Rica 30, Japon 70)
10	Side Event in CBD-COP13	Dec 15 to 16, 2016	Cancún, Mexico	Ms. Gabriela Gutierrez, ACG Mr. Alejandro Masís, ACG Mr. Luis Rojas, SE Mr. Harold Madrigal, ACLAP Mr. Nelson Marín, ACT Ms. Ana Lorena Orozco, MEP Mr. Antonio Naranjo, ACTo Mr. Pablo Vasquez, ACG Ms. Stephanie Mory, ACOSA Mr. Mahyar Shirazinia, ACLAPE
11	Regional Seminar for the Methodology of Systematization of Experiences of Participatory Conservation	Feb 27 to Mar 3, 2017	San José, Costa Rica	62(Guatemala 3, El Salvador 1, Honduras 3, Nicaragua 3, Panama 2, Belize 3, Republica Dominicana 3, Costa Rica 44)
12	Regional Seminar for sharing the experiences of participatory conservation in the SICA countries	Sep 4 to 8, 2017	Costa Rica	18 (Belice 2, Costa Rica 6, El Salvador 1, Guatemala 2, Honduras 2, Panamá 1, Rep. Dominicana 2, y Japon 2)

Event with * is not for sharing the knowledge and experiences of participatory biodiversity conservation

List of presentarions in the CCAD regional meetings

No.	Event name	period	Place	Participants
1	JICA-CCAD Regional Seminar	Aug 18, 2016	Managua, Nicaragua	Mr. Luis Rojas, SE SINAC Mr. Masaki Osawa, Chief Adviser of Project
2	The commission meeting of the CCAD Ministers	Jun 7, 2017	Garabito, Costa Rica	Mr. Masaki Osawa, Chief Adviser of Project

FAJ
SAS
KAW
m

Achievement of Outputs, Project Purpose, and Overall Goal
(As of October 6, 2017)

1. Achievement of Outputs

Output1: Participatory management approach of Wildlife Refuge is examined and verified in R.N.V.S.B.C., and empirical knowledge is extracted for dissemination.	
<u>Indicator 1-1:</u> Participatory Biodiversity Conservation Guideline in Wildlife Refuge based on the experiences in R.N.V.S.B.C. is published.	<u>Mostly achieved:</u> This guideline is expected to be finalized by December 2017. Each personnel in charge of writing the chapter was assigned among the C/Ps in ACTo and they are preparing the draft to be submitted by the beginning of October. Other following 5 manuals and reports were already published based on the empirical evidence in R.N.V.B.C.: - "Manual of Good Agricultural and Environmental Practices for Rice Cultivation in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica" - "Manual of Good Environmental Practices for livestock production in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica" - "Manual of Good Agricultural and Environmental Practices for the cultivation of oil palm in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge, Costa Rica" - "Technical guide for the diffusion of Technologies of sustainable agricultural production in integral farms" - "Experiences in Rural Community Development and Environmental Education in the Barra del Colorado National Wildlife Refuge" In addition, Participatory General Management Plan of R.N.V.S.B.C. with local resident participation was completed and authorized by CONAC in September 2017 and it can be referred as a case to other Conservation Areas.
Output2: Knowledge of participatory biodiversity conservation in Costa Rica is systematized.	
<u>Indicator 2-1:</u> Reports produced in Costa Rica in below are analyzed and empirical knowledge is integrated in a handbook for participatory biodiversity conservation under the initiative of SINAC. ✓ 12 reports about SINAC experience (Executive Secretary (SE) and 11 ACs) ✓ One report about the creation and development process of SINAC, including formulation experience of the Biodiversity Law ✓ 4 thematic reports	<u>Nearly Achieved.</u> Following research reports were already developed and "Key Issues for Promoting Participatory Conservation in National System of Conservation Area (this can be a Reference Manual for Participatory Biodiversity Conservation) is in the process of finalization: ✓ 21 reports regarding the SINAC Experiences. (11 ACs experiences) were already prepared. For SE experience, systemization of experiences of nationwide biological corridor is planned to be conducted by the time of the Project completion.

FAT
11/14
KLW
mm

	✓ Cross-analysis on 21 experiences from 11 Conservation Areas in SINAC were conducted through the workshop with the project liaison officers from each area and key issues from 7 themes were extracted and currently complied with the systematized cases for the reference. ✓ One report about the process of creation and development of SINAC, including the experience of formulating the Biodiversity Law, was completed. ✓ 4 thematic reports were finalized -Two thematic reports on NGOs and Ecotourism are finalized in 2015. -Two thematic reports on Improvement of Environment Consciousness, Experiences of Sustainable Production and Compatibility with the Conservation of Biodiversity were finalized during 2016,
<u>Indicator 2-2:</u> SINAC has a guideline and the officially approved methodology for the systematization of experiences of the Participatory Biodiversity Conservation.	<u>Not yet achieved.</u> A guideline (=lineamiento) was prepared. However, it does not contain the policy on which methodology (=Manual) and how often the systematization and its analysis is renewed. It is planned to obtain the official approval by SINAC or CONAC in February 2018.

Output3: Policies for improving participatory biodiversity conservation will be proposed.	
<u>Indicator 3.1</u> At least 1 policy and 4 tools for participatory biodiversity conservation are proposed.	<u>Mostly achieved.</u> 5 items such as draft revision on law, policy, monitoring system are mostly completed under the project as described below: ✓ <u>Draft SINAC Policy and Institutional Strategy for Promoting Participatory Biodiversity Conservation</u> was prepared and submitted to the SINAC authority in March, 2015. Currently, Participatory Action plan is formulated under "SINAC Strategic Plan 2015 -2026". ✓ <u>Draft of revision on the clause 82 in "Wild Life Protection Law"</u> is already completed in order to expand permission of the activities within protected area; however, a series of related laws such as the Forest Law were necessary and the revision on the Forest Law was to be undertaken under the initiative of the environment minister in 2014 apart from the project. The process of approval on the revision in "Wild Life Protection Law" was stopped in 2014.

	✓ <u>Draft Zoning guideline for inside of Protected Area (ASP)</u> was almost prepared and will be finalized by December, 2017 and planned to be officially approved by CONAC in February 2018. ✓ <u>Report on basic data collection of the first investigation with Trap Camera in Costa Rica</u> was done by the consultant. Participatory monitoring in each 11 protected area has been continued. Currently, Jagger data provided by the researcher and the one collected from the participatory monitoring by the Project in 175 monitoring sites in 25 survey areas in 11 protected areas are integrated and analyzed to be compiled as a report. The result can impact on the protection policy of the Jagger in Costa Rica. ✓ <u>Payment for Environment Service (PES) Impact Monitoring System</u>: Proposal for the system design was finalized in Oct. 2015. Impact monitoring method was determined, however, the development program system was delayed to be finalized thereafter. In October, 2017, procurement of the contractor will be done for system development and it is planned to be completed by February in 2018.
--	---

Output4: Knowledge on participatory biodiversity conservation is shared in and outside Costa Rica.	
<u>Indicator 4-1:</u> At least 12 events are implemented in Costa Rica to share the knowledge about Participatory Biodiversity Conservation consolidated by the Project.	<u>Achieved.</u> The Project conducted 19 events in Costa Rica to present the experiences of Participatory Biodiversity Conservation compiled by the Project.
<u>Indicator 4-2:</u> At least 20 reports, guidelines, and presentation materials of the Project are published on SINAC Website	<u>Achieved.</u> Total 23 outputs of the Project were already placed on the SINAC Website address: http://www.sinac.go.cr/ES/partiudygober/Paginas/default.aspx (As of October 2, 2017)
<u>Indicator 4-3:</u> Knowledge sharing network about Participatory Biodiversity Conservation inside Costa Rica and among Central American countries is established.	<u>Achieved in facebook network; however, more officially approved, supported, sustainable network is desired.</u> The Project created the Facebook group page "SISTEMATIZANDO LA GESTIÓN PARTICIPATIVA DE LA CONSERVACIÓN DE LA BIODIVERSIDAD" since October, 2014. MAPCOBIO C/Ps, national government, regional or local government staff in Costa Rica and foreign countries, NGOs, researchers and others have participated in the group and exchange information and opinions. In total, <u>143 people</u> have participated in networking of MAPCOBIO as of

	September 12, 2017.
<u>Indicator 4-4:</u> Costa Rica's experiences on participatory biodiversity conservation is shared to CCAD at least twice.	<u>Achieved:</u> The Project presented the experiences in Costa Rica twice at the CCAD meetings in 2016 and 2017. Also, the Project shared the experiences with Central American countries at Mesoamerican Seminar Participatory Management of Protected Areas in March 2014 and SICA Seminar on Sharing the Experiences of Participatory Biodiversity Conservation in September in 2017.
<u>Indicator 4-5:</u> Costa Rica's knowledge on participatory biodiversity conservation is presented in international events or seminars at least 10 times.	<u>Achieved:</u> The Project conducted 11 international and regional seminars and shared the experiences compiled by the Project.
<u>Indicator 4-6:</u> More than 80% of respondents to the questionnaire understand the content of the national and international events/seminars held by Costa Rica	<u>Achieved for all seminars by 11 September 2017.</u> On average 90.2 % respondents to the questionnaires answered that they understood the content of the events / seminars.

2. Achievement of Project Purpose

Project Purpose: A mechanism to share the knowledge of participatory approach of Costa Rica is established in and outside Costa Rica.	
<u>Indicator 1:</u> In each Conservation Area, at least one case of utilizing the knowledge consolidated by the Project	<u>Almost achieved:</u> Officers in 9 Conservation Areas (ACs) out of 11 ACs reported that they utilized the learnings by the result of their own or other area's systematization experiences, as of October 6, 2017.
<u>Indicator 2:</u> At least 50 persons in relevant agencies to biodiversity participated in network established by the Project, exchanging the knowledge and discussing on the issues on participatory biodiversity conservation.	<u>Achieved:</u> There has been active discussion of among the more than 100 subscribers (as of September 2017) in Facebook group page "SISTEMATIZANDO LA GESTIÓN PARTICIPATIVA DE LA CONSERVACIÓN DE LA BIODIVERSIDAD". Preferably, this network should be officially administrated by SINAC.
<u>Indicator 3:</u> A responsible section of SINAC for knowledge sharing is determined and develops a mechanism (e.g. homepage) to keep updating relevant data.	<u>Not yet achieved,</u> Responsible entity for the content to be shared is not officially designated by SINAC, while Responsible section for sharing information on the web is under the management by the Department of Information Technology and Communication. At the time of mid-term review, Citizen Participation and Governance Department is

FAJ
4/5
KLN

	expected to take this role; however, it has not been clarified, and their participation has been limited in knowledge sharing activities and seminars.
<u>Indicator 4:</u> The responsible section of SINAC for knowledge sharing with foreign countries develops a partnership and establish a mechanism (e.g. homepage linkage) to share knowledge with regional initiatives such as CCAD.	<u>Not yet achieved</u> , since the responsible section is not designated officially. However, a partnership between SINAC and CCAD has been developed through organizing joint international events for information sharing.

3. Prospects for Achievement of Overall Goal

Overall Goal: The policy and systems of participatory biodiversity conservation will be strengthened making good use of the knowledge in Costa Rica and Central American countries.	
<u>Indicator 1:</u> Existence of projects and/or policies in Costa Rica and Central American countries that contributed to participatory biodiversity conservation.	Participatory biodiversity conservation action plan is being formulated under the SINAC Strategic Plan, with some reference on outputs of systematization of experiences of 11 Conservation Areas. Therefore, one example is currently observed.
<u>Indicator 2 :</u> Network established by the Project in and outside Costa Rica will be sustained, with 50 participants and more and introduction of new issues on participatory biodiversity conservation.	This indicator is to be confirmed after the project completion.

コスタリカ国「参加型生物多様性保全推進プロジェクト」終了時評価グリッド

1. プロジェクトの達成度

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクトへの投入は計画通り実施されたか。	日本側の投入は計画どおり実施されてきたか。	計画・実績の差異分析	・ 投入実績	・ プロジェクトから提供されたデータ・情報
	コスタリカ側からの投入は計画どおり実施されてきたか。	計画・実績の差異分析	同上	同上
プロジェクトのアウトプットは計画どおり達成されつつあるか。		PDM Ver.2.0 の指標	・ アウトプットの実績	同上
プロジェクト終了時までに目標*は達成される見込みであるか。		PDM Ver.2.0 の指標	・ プロジェクトのアウトプットと目標指標の達成見込み	同上
プロジェクト上位目標は達成される見込みであるか。		プロジェクト目標の達成の結果としての上位目標の達成見込み	・ (プロジェクトの成果物の) コスタリカ国内および他国の政策やスキームへの適用事例、今後の見込み	同上
プロジェクトのアウトプットと目標達成に影響する要因はなにか。		- PDM の外部条件の充足 - その他外部状況	外部条件その他の事項に関するデータ・情報	同上

*プロジェクト目標「コスタリカにおける参加型生物多様性保全のための知識が、コスタリカ国内外に広く共有される。」における「知識 (Knowledge)」とは、「生物保全にかかる政策や取り組みが実施されるに至った背景、その後の実施プロセス、実施状況とその結果の関連性、生物・社会・経済的効果・影響、課題、教訓、今後の改善の方向性などを体系的に整理したもの」と定義されている(2013年2月4日に締結の Record of Discussion of the Project)。

2. 実施プロセス

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクト活動は計画どおり実施されたか。		- PDM の活動計画と実績の比較 - 追加あるいは中止された活動の有無	- PDM Ver. 2 と活動計画 (PO) - 活動実績	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - JCC 議事録 - C/P インタビュー - 日本人専門家インタビュー
プロジェクトは適切に運営されているか。	現在の実施体制は効果的かつ効率的に機能してきたか。	- C/P と日本人専門家との責務・役割分担の適切性 - C/P の間 (本部・地方支所) での責務・役割分担の適切性と体制 - 関係政府機関 (農牧省、環境省、地方開発省等) や委員会 (国家保全地域審議会、地方審議会、地方委員会等) との調整や実施体制の適切性	- 2016 年以降の SINAC 組織体制・権限の変化 - プロジェクト実施体制・システム - 意思決定のメカニズム - プロジェクト運営状況	同上
	プロジェクトは適切にモニタリングされてきているか。	- プロジェクトの進捗に関する JCC によるモニタリングの効果	- JCC による評価モニタリング結果および提言	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - JCC 議事録 - C/P インタビュー - 日本人専門家インタビュー
	C/P と日本人専門家間のコミュニケーションは問題ないか。	- 専門家と C/P の間での定期的かつ十分なコミュニケーション	- 日本人専門家と C/P とのコミュニケーションの頻度	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - C/P インタビュー - 日本人専門家インタビュー
プロジェクトの進捗に関し、コスタリカ側のイニシアティブは十分であったか。	C/Ps のプロジェクトへの参加、主体性はどの程度であるか。	- C/P のプロジェクト目標、進捗状況、課題の十分な理解 - C/P のプロジェクト活動に関与への主体性	- C/P のプロジェクトへの理解度 - C/P のプロジェクト活動への参加度合い - C/P のプロジェクトでの役割・責任と日常業務内容	同上
	適切な職位/人員が C/P として配置されているか。	- プロジェクト目標と C/P の配置の整合性 (組織、部署、人員キャパシティの点において)	- プロジェクトにおいて協力が必要な組織、部署、人員の関与 (SINAC 市民参加ガバナンスユニットとその関係部署、その	同上

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
			他政府関係組織より)	
	R.N.V.S.B.C.*において対象となる 地方政府および地域住民の参加や 垂体性の程度はどうであるか。	- 地方政府および地域住民のプロ ジェクト目標、進捗状況、課題に ついての理解 - 対象となる地方政府および地域 住民によるプロジェクト活動へ の参加のへのイニシアティブ	プロジェクト活動における地方政 府と地域住民の参加の程度	同上 - 地方政府インタビュー - 地域住民へのインタビュー
プロジェクトの進捗 に影響を及ぼす要因 はあるか。	プロジェクト実施を阻害する要因 はあるか。		- プロジェクトの遅延の要因とな った問題・制約	- プロジェクト報告書・関連資料 レビュー - C/P インタビュー - 日本人専門家インタビュー
	プロジェクト実施を促進する要因 はあるか。		- プロジェクトの進捗に貢献した 事項	同上

*R.N.V.S.B.C. : Refugio Nacional de Vida Silvestre Barra del Colorado (バラ・デル・コロラド野生生物保護区)

3. 5 項目評価

妥当性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクト目標と上位目標は現在の国家戦略、政策、計画と一致しているか。		- プロジェクト実施後のコスタリカの政策や開発計画における参加型生物多様性保全の優先度	コスタリカの参加型生物多様性保全に関する国家計画と政策。例えば、 - Plano Nacional de Desarrollo (2015-2018) - Politica Nacional de Biodiversidad (2015-2030) - Plan Estrategico SINAC (2016-2026)	- 政府報告書、開発計画 -
プロジェクト目標と上位目標は中米における地域戦略と一致しているか。		- 中米の政策や開発計画における参加型生物多様性保全の優先度	参加型生物多様性保全に関する地域政策/計画。例えば、“Estrategia Regional Ambiental Marco 2015-2020”	- 地域組織の報告書、開発計画
プロジェクトアプローチはターゲットグループ*のニーズと一致しているか。 <u>*ターゲットグループ:</u> 環境エネルギー省 (MINAE)、国家保全地域システム庁 (SINAC)、バラ・デル・コロラド 野生生物保護区内の住民、コスタリカ及び中米諸国の生物多様性保全に関する組織 (プロジェクトの実施したセミナーに参加した組織)	プロジェクトアプローチはコスタリカとその他の中米の国々における参加型生物多様性保全の普及に効果がある戦略であるか。	- プロジェクト目標と上位目標を達成する手段としてのプロジェクトアプローチ/デザインの適切性 - PDM 上の矛盾、問題の有無	- プロジェクト関係者のプロジェクトアプローチ/デザインの評価 - PDM Ver. 2	- 日本人専門家インタビュー - コスタリカの関係者へのインタビュー (C/P とその他のターゲットグループ組織)
<u>対象地域:</u> バラ・デル・コロラド 野生生物保護区と保全地域	対象地域、ターゲットグループの選定は適切であるか。	- プロジェクト目標と上位目標から対象地域とターゲットグループの整合性 - R.N.V.S.B.C.の経験の他地域・グループへの適用可能性あるいは参照性 - 中米の他国における参加型生物多様性保全の経験の交流へのニーズ	- コスタリカおよび他国における参加型生物多様性保全に関する知識の体系化と共有の必要性 - 地方政府および地域住民の参加型生物多様性保全へのニーズ - 参加型生物多様性保全が必要な他の地域の現状	- 日本人専門家インタビュー - コスタリカの関係者へのインタビュー (C/P 組織とその他のターゲットグループ組織)
プロジェクトは日本の ODA 政策に合致しているか。		プロジェクト目標とプロジェクト開始後の日本の ODA 政策との整合性	対コスタリカの日本の ODA 政策 - 対コスタリカ国別開発協力方針 (2017 年 1 月) - 対コスタリカ事業展開計画(2017 年	- 日本の ODA 政策レビュー

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
			1月)	
他の国際援助との適切な調整は行われているか。		プロジェクトの効率性、有効性を向上させるような他ドナーの援助との調整	- プロジェクトアプローチ、デザインに関する関係者の評価	- プロジェクト報告書 - 国際援助ドナーの関連事業報告書

有効性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクトのアウトプットの達成見込みはあるか。		アウトプットの達成	(「1. プロジェクト達成度」を参照)	(「1. プロジェクト達成度」を参照)
プロジェクト目標は終了までに達成される見込みか。		プロジェクト目標の達成見込み	(「1. プロジェクト達成度」を参照)	(「1. プロジェクト達成度」を参照)
- プロジェクトのアウトプットは、計画通りプロジェクト目標の達成に貢献する見込みであるか。	-	- アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献 - プロジェクト目標達成におけるアウトプットの充足度	- アウトプットの達成度 - アウトプットのプロジェクト目標達成への貢献の例	- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー
プロジェクト目標達成に向け、促進／阻害要因はあるか。		- PDM の外部条件の充足 - プロジェクト目標達成に影響する他の外部要因 - プロジェクト目標達成に影響する内部要因	(「1. プロジェクト達成度」を参照)	(「1. プロジェクト達成度」を参照)

効率性

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクト活動への投入の適切性	日本側の投入は適切であるか。	<日本人専門家> - 人数、専門性、タイミング、期間の適切性 <本邦研修> - 研修生の人数、専門性、研修内容、期間、タイミングの適切性 <コンサルティングサービス契約>	- 活動計画 (PO) - 専門家の配置 - 海外研修の記録 - 供与機材リスト - 項目別ローカルコスト	- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー - プロジェクト報告書・関連資料レビュー

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
		- コンサルタントの質と契約のタイミング<機材> - 型、質、設置のタイミングの適切性		
	- コスタリカ側の投入は適切であるか。	- <C/P> - 人数、配置、担当者のスキルの適切性 - <施設> - コスタリカ側から提供された施設の適切性 - <ローカルコスト> - コスタリカ側からのローカルコスト負担の適切性	- 活動計画 (PO) - C/P の配置 - プロジェクトオフィス等提供された施設状況 - 項目別ローカルコスト	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー
投入と活動はアウトプットを達成するために適切であったか。		- プロジェクト活動実施のための投入の充足度 - アウトプットのためのプロジェクト活動の必要性、充足度	- 活動計画 (PO) - 投入実績 - 活動実績	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - (「1. プロジェクト達成度」と「2.実施プロセス」を参照)
- 効率性の観点からプロジェクト実施を阻害あるいは推進する要因はあるか。	-	- プロジェクトの効率性に関し、制約あるいは推進力となる事項	- 活動における投入の利用状況 - アウトプット達成への外部条件に関する情報	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - (「1. プロジェクト達成度」と「2.実施プロセス」を参照)

インパクト (評価時の上位目標達成の見込み)

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
- 上位目標は達成される見込みがあるか。	- 上位目標はプロジェクト目標達成の結果として達成されそうであるか。	- 上位目標の指標 - プロジェクト目標と上位目標の因果関係の論理性	- (「1. プロジェクト達成度」を参照)	- (「1. プロジェクト達成度」を参照)
	上位目標達成のための外部条件の影響がありそうか。	外部条件の充足	上位目標への外部条件に関する情報	同上 - 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
- 予測されなかった正・負のインパクトはあるか。	-	- プロジェクトによる想定外の正・負のインパクトの有無	- プロジェクト関係者の情報	- プロジェクト報告書・関連資料レビュー - 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー

持続性 (将来の見込み)

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
プロジェクトの効果はプロジェクト終了後も継続する見込みがあるか。	(政策面) コスタリカ政府の政策支援は継続されそうか。	- 参加型生物多様性保全に対する継続的な政治的・制度的支援	プロジェクト関係者の意見・情報	- 最新政策書 - 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー - プロジェクト報告書
	(制度面) プロジェクトの成果は他地域に普及し、持続的に活用されるか。	- プロジェクトの参加型生物多様性保全の経験を通じた知見の国家政策、ガイドライン、規則、将来計画への反映 - R.N.V.S.B.C の実績・教訓の他地域への適用に関するガイドライン、各保全地域の参加型管理手法経験の報告書、その他本事業で作成された報告書の活用例の有無	同上	- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー - プロジェクト報告書
	(組織面) SINAC とその他関係機関の組織体制は参加型生物多様性保全活動継続において支障ないか。	- SINAC の参加型生物多様性保全実施のための組織体制の適切性 - 関係組織の関与の仕方と役割分担の適切性	同上	同上
	(技術面) SINAC は、自国の参加型管理手法の知識をコスタリカ国内外で共有するメカニズム維持のために十分なスキルがあるか。	- 参加型生物多様性保全実施のための SINAC 職員のマネジメントスキル - コスタリカにおける参加型管理手法の知識のとりまとめとその情報発信および共有に関する SINAC 職員のスキル	同上	同上
	(財政面) MINAE/SINAC はプロジェクト	- MINAE と SINAC の予算調達の能力	参加型生物多様性保全活動に関する近年の予算配分計画と実績	- MINAE/SINAC 年次報告書

評価設問		判断基準	必要なデータ	情報源/データ収集方法
大項目	小項目			
	トの効果を持続するための資金を調達し、予算配分できる見込みがあるか。			- 日本人専門家インタビュー - C/P インタビュー

長谷川： MAPCOBIO 終了時評価出張所感

1. はじめに

今回の出張は、2015 年 10 月に行った中間評価に続き、終了時評価ミッションへの参团である。プロジェクトにて取りまとめられたレポート類の殆どがスペイン語表記であることから、それらの内容や質について技術的側面から精査、検証、議論することは困難である。しかし、これまでに収集した情報から得られた理解を基に、プロジェクト全体を振り返り、どのような意義があったのかにつき、所感と解釈を交えて MAPCOBIO の成果と意義について概観してみることにする。

2. 課題意識

MAPCOBIO のプロジェクト目標は、「コスタリカにおける参加型手法の知識を共有するメカニズムがコスタリカ国内外で構築される。」であり、「参加型手法の知識を共有するメカニズムの構築」を目標として掲げている。このようなチャレンジングな目標をプロジェクト期間中に達成しようとする場合、「誰に（対象範囲）、どのような知識を（取扱う対象）、そしてどのようなメカニズムをもって共有すべきか（方法論）」について、プロジェクトのコンセプトとして十分に議論し、特にキーワードについては、プロジェクトとして何を意図／意味しているのかを明確に定義したうえで、関係者間でしっかり共有しておくことが重要だと考える。これは、PCM 手法の参加者分析と問題分析に相当し、プロジェクトとしては投入量の検討にも重要な示唆をもたらすものと認識する。

中間評価以来理解が不十分であった点は、本プロジェクトで中心的に取扱う「知識」とは何であるかという課題（問い）であった。「参加型手法の知識」と一口に言っても、管理対象となる土地（保護区）には、例えばコスタリカにおいては、国立公園（National Park）はじめ森林保護区（Forest Reserve）、保全地域（Protected Zone）、野生生物保護区（National Wildlife Refuge）など複数の形態があり、更には、それら周辺のバッファーク・ゾーン（非保護区の緩衝帯）¹も管理対象として含む場合には、異なる法規制や土地利用が関与することとなる。保護区に隣接する非保護区には行政界や民有地が複雑に絡み合う場合が多く、住民や企業への保護活動への参加を促す手法には、様々な制約や選択肢に繋がるものと考えられる。したがって、プロジェクトとして取扱う知識の範囲とアプローチに関し不明瞭さを感じていた。その結果、プロジェクト目標とそこに到達するまでの道筋が見えにくくなっているという課題意識を持っていた。

3. プロジェクトの基本的理解

3.1 全体の流れ

上記課題を意識しつつ現時点において MAPCOBIO を概観すると、プロジェクトの基本的構成と流れは、図 1 のように表現／整理できるのではないかと考える。プロジェクト目標を達成するに

¹ SINAC 管轄の全国 11 の Area de Conservacion（AC: 保全地域）は、保護区周辺のバッファーク・ゾーン（非保護区）を含む。

は、経験に基づいた知識を「政策へ反映」させる必要がある（成果 3）、そのため、コスタリカにおける全形態の保護区（周辺バッファを含む）を対象に、既存情報の収集と分析作業を通して俯瞰する「情報収集・分析アプローチ」によって全体を把握し（成果 2）、各種保護区の中で、私有地と居住民が最も多く、住民との軋轢が生じやすいとされる野生生物保護区に焦点を当て、バラ・デル・コロラド野生生物保護区において「パイロット活動による検証アプローチ（成果 2 の部分的検証）」を実施する（成果 1）。そして成果 1 と 2 で得られた結果（知識）を、成果 4「イベント等による情報発信アプローチ」のもとにコスタリカ内外で共有する流れと理解する。MAPCOBIO は、上記 3 つのアプローチを用いて異なる成果を出し、それらの結果を政策にフィードバックすることで（成果 3）、プロジェクト目標の達成を目指す仕組みになっていると解釈できるのではないかな。

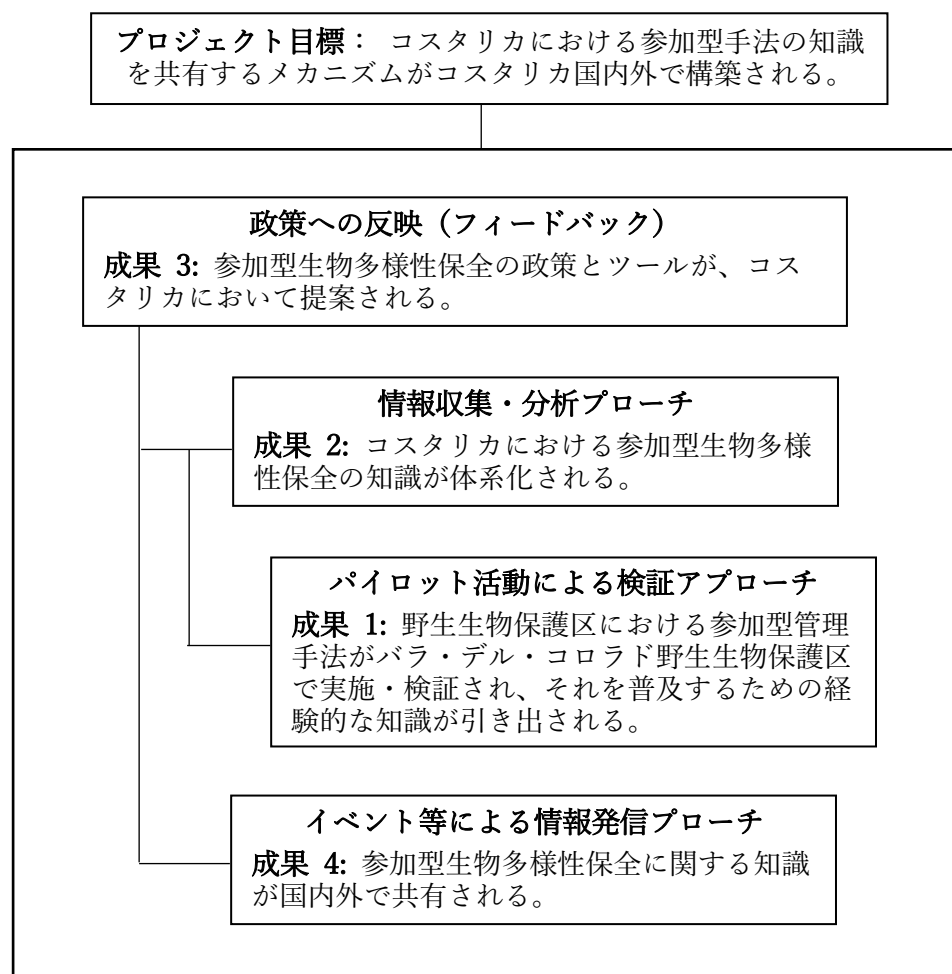


図 1 MAPCOBIO における各成果とプロジェクト目標の関係

3.2 成果 3：政策への反映（フィードバック）

成果 1 と 2（& 3）から得られる結果（知識）を基に、生物多様性保全における参加型の方法論（ツール）を含む政策を策定、提言する成果 3 は、プロジェクト目標の達成に直結する流れとなる。成果 3 は、プロジェクト活動による結果が集約される重要な「過程」と位置付け

られ、各種提案書（マニュアルやガイドライン等）が作成されるところまでが活動対象である（各種提案書が指標）。この一段階上に位置するプロジェクト目標は、成果 3 のアウトプットとして出てくる各種提案書に対する政府の正式承認等によって達成される。この政府承認は、プロジェクトの持続性を担保するもので、重要な指標ともなっている。

3.3 成果 2：情報収集・分析アプローチ

既存情報の収集・分析は、野生生物保護区を含み、コスタリカにおける全形態の保護区にかかる参加型管理に関する経験を俯瞰的に整理することを目的とする。したがって本成果は、保護区の形態にかかわらず、コスタリカにおける参加型アプローチを集大成するものと考えられる。本成果の結果は、対象となる多様な土地形態（例：保護区／非保護区、伝統的村落／移住村落）をカテゴリー別に整理し知識を抽出、体系化²することによって機能的モデル化が達成できると、コスタリカ国内の異なる保護区間や海外にて参照する場合、応用・適用効果が増すものと推察する（プロジェクトでは、21 の経験を 7 つのカテゴリーに分類している）。

3.4 成果 1：パイロット活動による検証アプローチ（バラ・デル・コロラド野生生物保護区）

バラ・デル・コロラド野生生物保護区の活動は、保護区内の土地所有と住民が居住するという複雑性と重要性に鑑み、成果 2 を補完／検証する位置付けと考えられる。人が居住し生産活動が行われている保護区³のうち、野生生物保護区が最大の私有地面積を有し、住民との関係も複雑であることから、保護区における住民参加型の在り方や手法を検証する場として重要であり適切と考えられる。

3.5 成果 4：イベント等による情報発信アプローチ

この情報発信には多種多様の発信形態があり、ソーシャル・ネットワークを含むメディアによる発信をはじめ、条約の締約国会議やその他の国際会議、各種セミナー、シンポジウム等が含まれる。また、特に中米地域においては、SICA/CCAD の各種会議における発信が含まれることから、不定期（アドホック）に開催されるイベントから、長期的視野に立って、政策的、恒常的に行われるべき発信方法までを含んでいる。

4. 成果 1 & 2：2 つの戦略的アプローチの意義

本プロジェクトにて知識の体系化を図るプロセスの中で、成果 1 と 2 の活動は重要な役割を担うと考えられることから、ここでは、これら 2 つのアプローチが有する意義について考察してみたい。

² 「体系化」も定義を要するキーワードで、体系化された知識は、定期的に更新され活用される必要がある。そのためには、ナレッジ・マネジメントの仕組みが必須である。

³ 保護区内森林保護区（Forest Reserve）、保全地域（Protected Zone）、野生生物保護区（National Wildlife Refuge）の 3 保護区で、バラ・デル・コロラドは、野生生物保護区の中で最大の面積を誇る。

◇ 成果 2：情報収集・分析アプローチ（帰納法的アプローチ）

生物多様性の宝庫と呼ばれる貴重な生態系を有するコスタリカには、参加型保全に関する長年の経験と知識が蓄積されている。ただし、このような情報は全国に散在していることから、収集、集約、分析するという過程（プロセス）を通し、これまで既知と考えられてきた知識を振り返ることで、暗黙知の可視化を試みたとは理解できるのではないかと（知識の体系化）。本アプローチは、バラ・デル・コロラド野生生物保護区で実施のパイロット活動（演繹的アプローチ）と比較すると、収集したデータを分析することで「一般的傾向を導き出す」帰納法的アプローチと位置付けられるのではないかと推察する。

◇ 成果 1：パイロット活動アプローチ（演繹法的アプローチ）

コスタリカの保護区にはいくつかの種類があり、その中で保護区内に土地所有（居住）が認められ、特に、ある程度の生計活動／経済活動が想定される野生生物保護区においては、住民との協働が重要となる。しかしこのような経済活動には、一般的に保護区の一部として法的規制を伴う場合が多い。したがって、保護区内に居住する住民と協働を促すには、まずは保護区管理当局との信頼関係を構築する働きかけが必須であり、次に、管理当局との協働作業が、結果としてどのような経済便益をもたらすかを具体的に示すことが重要となる。「住民に経済便益をもたらす方法」とは、地産地消を基本として対象地毎に活動及びアプローチが異なると推察することから、特定地域にて採用された方法を一般化することは困難だと考える。ただし、どのように「信頼関係を構築」し、「どのように経済便益を生むか」という点についてパイロット的検証を行うことは、参加型の知識創造を図るというプロセスとして一般化できる部分があるのではないかと推察する。したがって本活動は、「保護区内に暮らす住民に対し経済便益をもたらすことが、保護区管理への協力を引き出すインセンティブとして効果的である」という、いわば仮説をもって活動／検証する演繹法的アプローチといえるのではないかと推察する。

5. 採用した主な参加型手法／ツール

- ◇ 保護区内（バラ・デル・コロラド野生生物保護区）： 経済的インセンティブ、生計向上支援など、具体的インセンティブを前面に出したインプットをもって、農民から保護区管理への協力を引き出そうとするアプローチに関し、多角的に検証した。MAPCOBIO では、野生生物保護区に居住する住民に対する働きかけとして、いくつかの農業支援策（例：finca integral）をパイロット的に取組んだ事例。
- ◇ 保護区外： これまで各保全地域（AC）で取り組んできた経験のとりまとめと分析を行った。経験を取りまとめる過程において、保全地域職員と様々な関係者の参加と協働があったことから、これまでの経験の価値認識や今後の課題等が共有され、パートナーシップが芽生え強化された。取りまとめられた経験の中には、学校教育を核とした環境教育を通じて、直接的利害関係の薄い周辺住民を取込み、保護区管理への理解と協力を引出す等の活動がある。

- ☆ 保護区内外（横断的）： トラップカメラを活用した参加型環境モニタリングや環境教育・啓蒙活動等、保護区、非保護区に関係なく住民を取込むアプローチ／ツールが試行された。一般的に、直接的経済便益をもたらす活動を伴わない場合には、身近な環境／生態系に関する理解を深めることによって（例えば、希少生物の生息など）、住民が自分の住環境に対し愛着や誇りを持つような働きかけ（ファシリテーション）が重要だと考える。

6. MAPCOBIO の意義と今後の活用

生物多様性分野で世界を代表するコスタリカにおいて、パイロット活動／検証作業を行いつつ、参加型保護区管理に関するこれまでの経験をとりまとめ、知識を体系化できたことは大きな成果であった。この成果は、本分野における中進国のステータスを高めると共に、国際協力という視点において様々な示唆をもたらすものと理解する。特に、本プロジェクトの成果は、保護区内外の管理における異なるアプローチや考え方、方法、あるいは生態系サービスの活用促進や持続的開発目標（SDGs）、CBD の愛知目標への貢献等、その成果は多角的な可能性を有するものと考ええる。

本プロジェクトの成果として編纂されたガイドラインやマニュアル類は、コスタリカのみでなく、中米地域各国はもとより広く一般的に活用価値が高いものと考えられる。ただし知識とは、恒常的に更新、改定されるべきものであり、一時的な体系化／形式化で終わることなく活用され続けることによって、また新たな知識が生まれることが期待される。特に、生計向上支援と保護区管理、生物多様性保全との繋がりを維持、促進することは、容易な活動ではないことから、更に経験と事例を積み上げることによって学び続けることが重要だと認識する。社会にとっては、このような知識創造のプロセスを可能とするメカニズムを構築することが重要であり、ODA 支援としては、このような活動を積極的に展開することで三国研修や南南協力を繋げていくことに、国際協力として大きな意義があるものと考ええる。

以上